

フォームやレポートの 詳細設計

- 10.1 デザインビューの基本
- 10.2 プロパティを設定する
- 10.3 入力のためのコントロール
- 10.4 デザインのためのコントロール
- 10.5 その他のコントロール
- 10.6 他のアプリケーションとの連携

Chapter 6やChapter 7では、レイアウトビューでフォームやレポートを設計する方法について説明しました。Accessでは、レイアウトビューでほとんどの設計ができるようになっていますが、特殊な設定をするにはデザインビューを使う必要があります。

本章では、デザインビューを使ったコントロールの配置やプロパティの設定など、様々な特殊設定をする方法を説明します。



デザインビューの基本

● SampleData

<http://www.shuwasy.com.co.jp/books/accessper2013/>



chap10

sec01

Keyword ● デザインビュー ● グリッド ● セクション ● ルーラー

デザインビューは、画面にコントロールを配置していくことで、フォームやレポートの画面を作っていくためのビューです。デザインビューを使うと、フォームやレポートの画面を思いどおりに作成することができます。

デザインビューの基本的な操作方法は、レイアウトビューとほとんど変わりません。ここでは、デザインビューに特有な機能のみを説明します。

Point デザインビューの基本操作

ここでは、デザインビューでの基本操作を説明します。

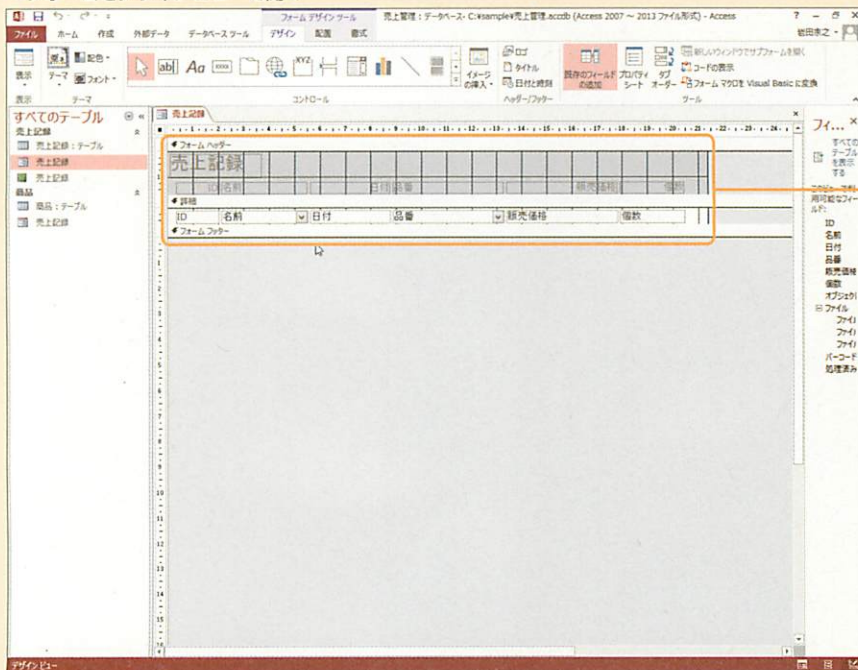
● フォームやレポートをデザインビューで開く

● デザインビューの構成

● コントロールの共通操作

ここでは、フォームやレポートをデザインビューで開く方法を説明し、デザインビューの構成やコントロールの共通操作など、デザインビューを使う上での基本操作を説明します。

▼フォームをデザインビューで開く



デザインビュー

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

10.1.1 デザインビューで開く

まずは、フォームやレポートをデザインビューで開く方法について説明します。既存のフォームやレポートを開く場合と、新しいフォームやレポートを作成する場合の2種類があります。

これ以降、本章では主にフォームを使って操作説明をしますが、レポートでも同様の操作が可能です。

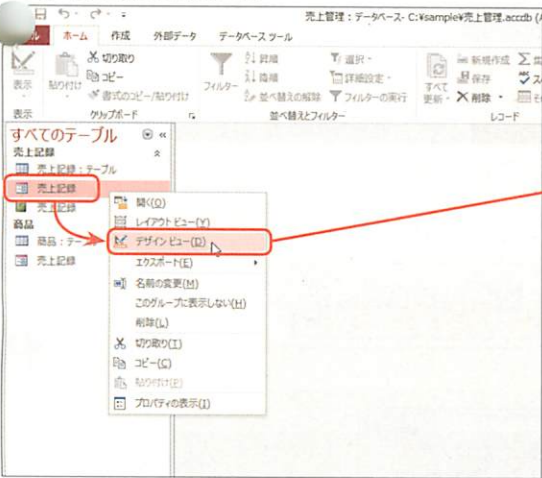

 OnePoint

Process

既存のフォームをデザインビューで開くには

既存のフォームをデザインビューで開くには、次のようにします。

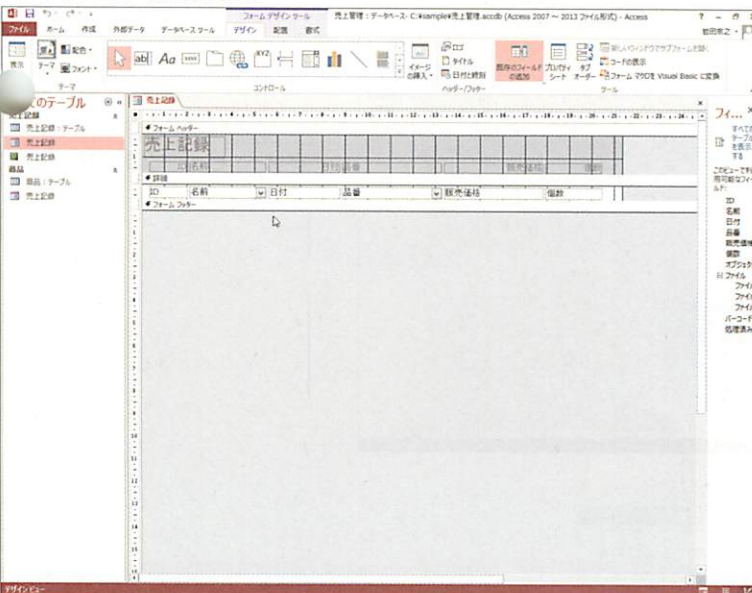
▼フォームの右クリックメニュー



- ① フォームの右クリックメニューから、デザインビューを選択します。
- ② デザインビューが表示されます。

① フォームを右クリックして「デザインビュー」を選択する

▼デザインビューが表示される



デザインビューが表示される

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

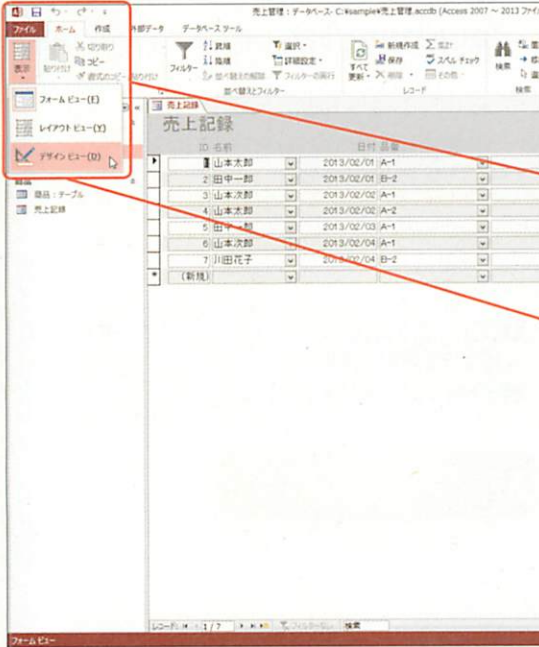
索引
Index

Process

開いているフォームをデザインビューに切り替えるには

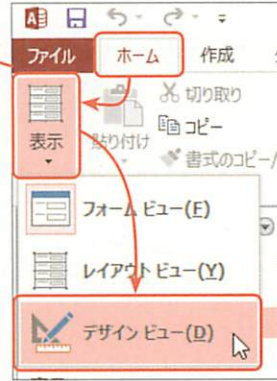
すでに開いているフォームをデザインビューに切り替えるには、次のようにします。

▼ビューのリスト

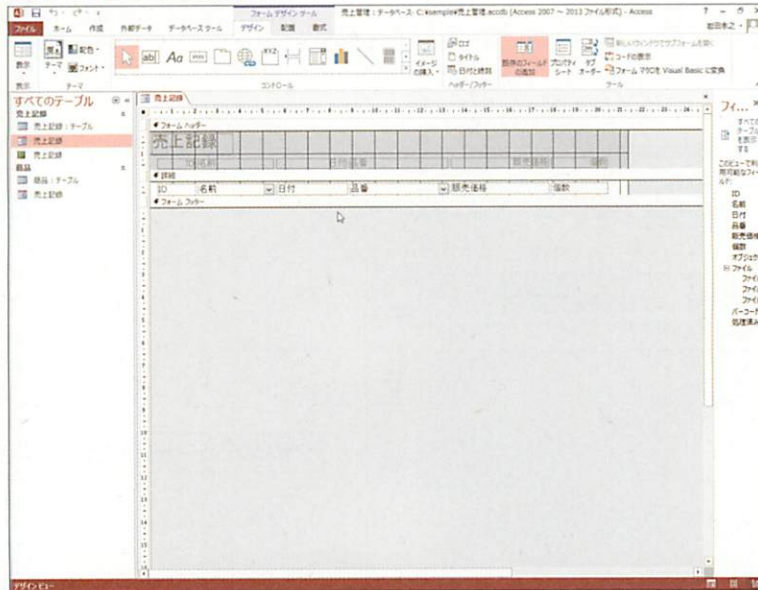


- ① ホームコマンドタブの表示ボタンで、表示されるビューのリストから、デザインビューを選択します。
- ② デザインビューに切り替わります。

1 [表示] ボタンをクリックし、
[デザインビュー] を選択する



▼デザインビューに切り替わる



デザインビューに切り替わった

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

Onepoint



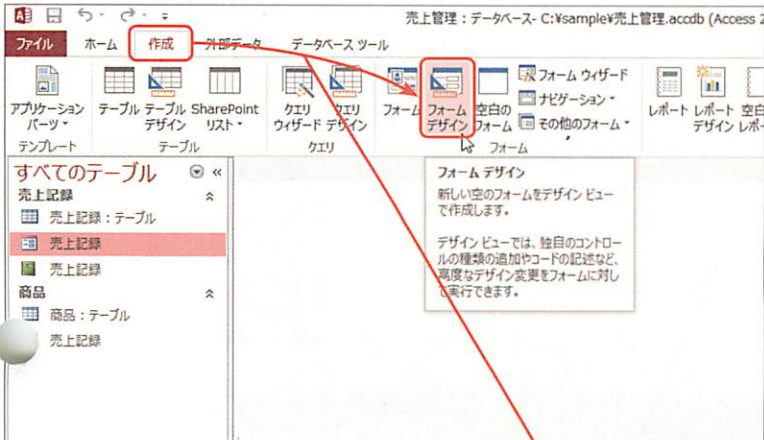
この方法は、「6.2.3 その他の方法でフォームを作成する」でも説明しました。こちらも参照してください。

Process

デザインビューでフォームを作成するには

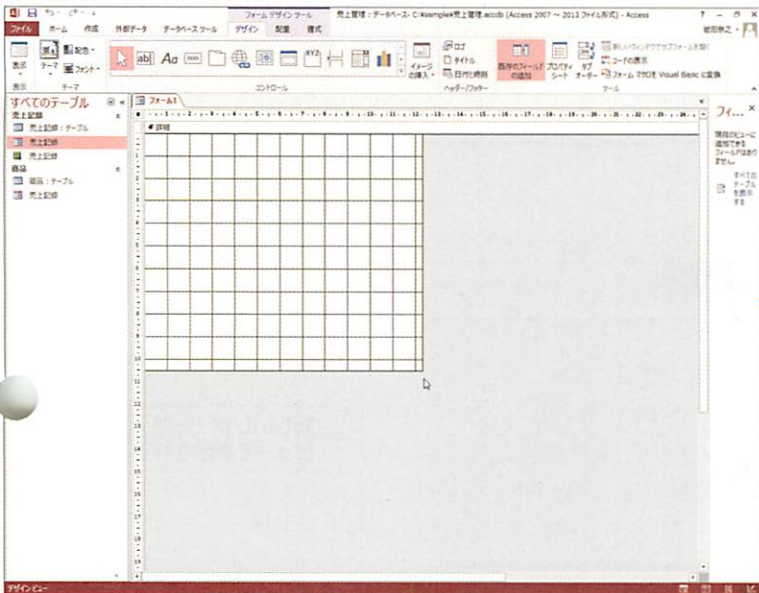
フォームを何も無い状態からデザインビューで作成する場合には、次のようにします。

▼ [フォームデザイン] コマンド



1 [フォームデザイン] コマンドを実行する

▼新しいフォームが表示される



新しいフォームがデザインビューで表示された

Onepoint



この方法でフォームを作成すると、何も無い真っ白のフォームが作成されてしまいます。データの入力や表示用のフォームに独自のコントロールを付け加えたい場合には、「6.2.1 テーブルやクエリに対応したフォームを作成する」で説明した方法を使っていったんフォームを作成し、そのあとでデザインビューに切り替える方が簡単です。ここで説明した方法は、完全に独自のフォームを作る場合に使います。

- 1 作成コマンドタブのフォームデザインコマンドを実行します。
- 2 新しいフォームが作成され、デザインビューで表示されます。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

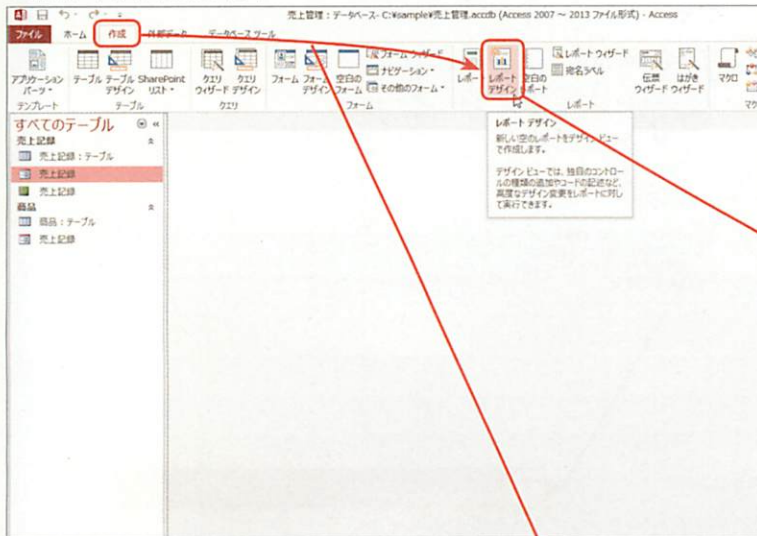
索引
Index

Process

デザインビューでレポートを作成するには

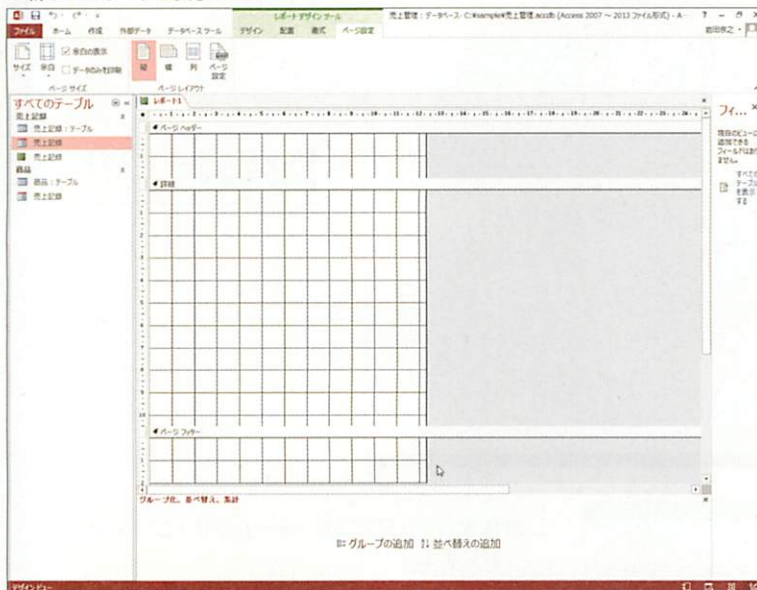
レポートを何も無い状態からデザインビューで作成する場合には、次のようにします。

▼ [レポートデザイン] コマンド



- 1 [作成] コマンドタブを選択して、[レポートデザイン] コマンドを実行する

▼ 新しいレポートが表示される



新しいレポートがデザインビューで表示される

- 1 作成コマンドタブのレポートデザインコマンドを実行します。
- 2 新しいレポートが作成され、デザインビューで表示されます。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

10.1.2

デザインビューの構成



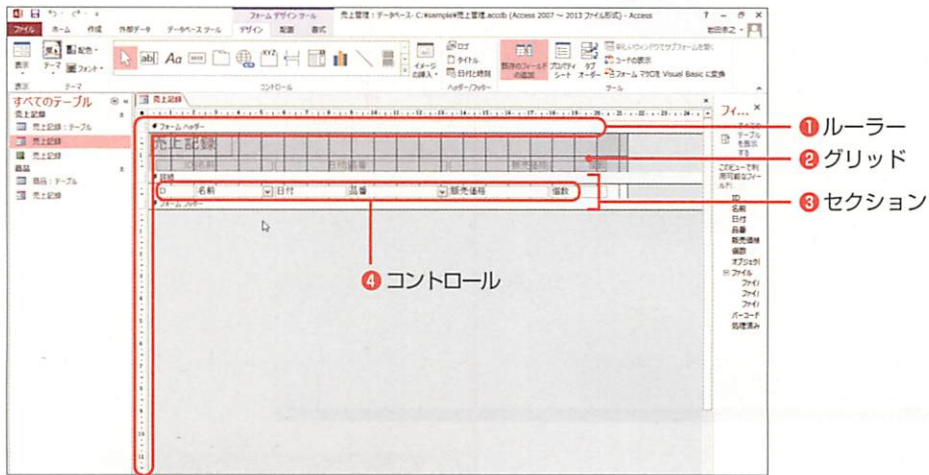
デザインビューでは、データの内容が表示されず、フォームに並べられたコントロールだけが表示されます。そして、正確な位置合わせに役立つルーラーとグリッドが表示されます。

Process

デザインビューの構成

フォームやレポートは、さらにいくつかのセクションで構成されます。セクションの詳細については次の項で説明します。

▼デザインビューの構成



① ルーラー

フォームやレポートの位置を知らせるための目盛りです。

② グリッド

1 cm間隔でマス目が描かれます。

③ セクション

フォームやレポートの内容は、その役割に応じていくつかのセクションに区切られています。

④ コントロール

フォームに配置され、データを表示したり入力を受け付けたりする働きをします。

Onepoint



ルーラーに書かれている数値は、通常はcm単位ですが、使用しているPCの地域設定によって変わります。コントロールパネルの**地域と言語のオプション**で地域を米国などに変更すると、インチ単位で表示されるようになります。

Onepoint



フォームのページヘッダーやページフッターは、フォーム画面では表示されませんが、フォームを印刷したときには表示されます。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

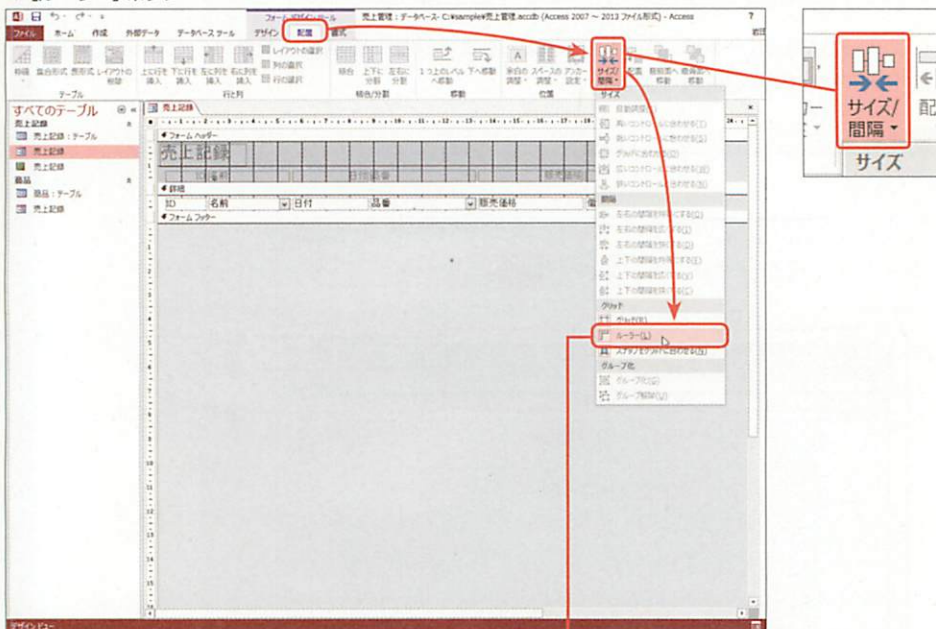
Process

ルーラーの表示／非表示を切り替えるには

ルーラーの表示／非表示を切り替えるには、次のようにします。

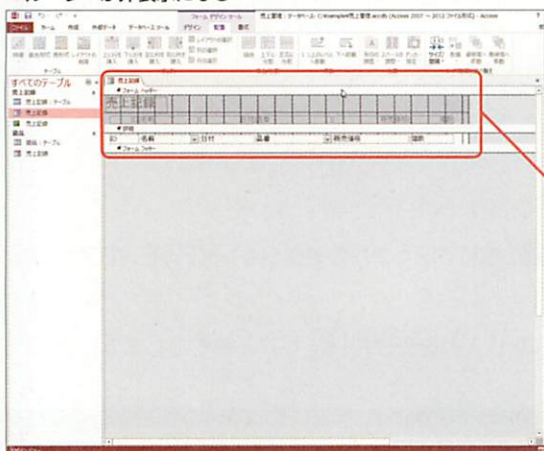
- 1 配置コマンドタブのサイズ／間隔の中にあるルーラーボタンをクリックします。

▼ [ルーラー] ボタン



- 1 [ルーラー] ボタンをクリックする

▼ ルーラーが非表示になる



- 2 ルーラーが非表示になります。

ルーラーが非表示になった



Onepoint



同じ操作をもう一度実行すると、非表示になったルーラーが再び表示されます。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

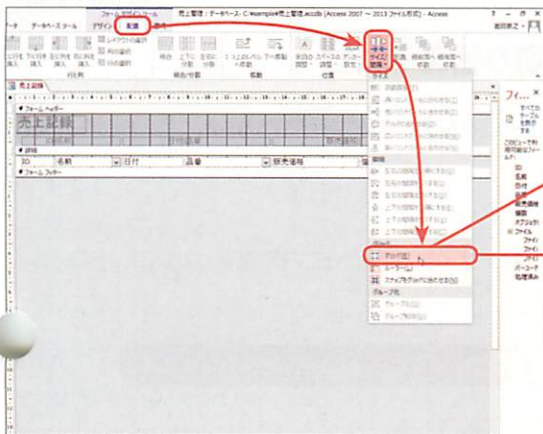
索引
Index

Process

グリッドの表示／非表示を切り替えるには

グリッドの表示／非表示を切り替えるには、次のようにします。

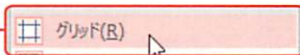
▼ [グリッド] ボタン



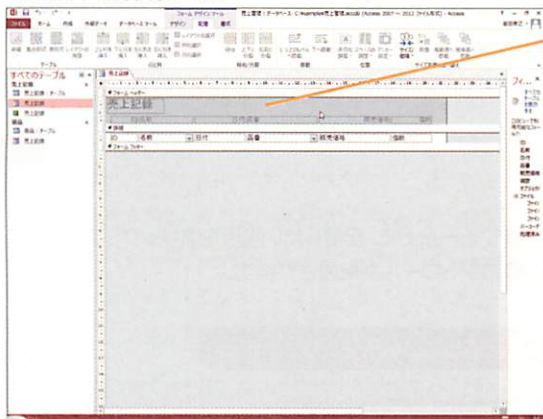
① 配置コマンドタブのサイズ／間隔の中にあるグリッドボタンをクリックします。

② グリッドが非表示になります。

① [グリッド] ボタンをクリックする



▼ グリッドが非表示になる



グリッドが非表示になった

Onepoint



同じ操作をもう一度実行すると、非表示になったグリッドが再び表示されます。

Onepoint



グリッドはコントロールの配置を揃える際の目安になりますが、グリッドを表示させたままだと、コントロールの枠線などがグリッドと重なった場合、見分けがつかなくなってしまいます。用途に応じて、表示と非表示を使い分けるようにします。



Memo セクションとは

セクションとは、フォームやレポートの内容を、役割に応じて区切ったものです。

フォームやレポートには、次のセクションがあります。

名前	機能
フォームヘッダー (レポートヘッダー)	フォームやレポートの最初に表示されます。
フォームフッター (レポートフッター)	フォームやレポートの最後に表示されます。
ページヘッダー	ページの上部に表示されます。
ページフッター	ページの下部に表示されます。
詳細	表示対象であるそれぞれのレコードに対応します。
グループヘッダー	それぞれのグループの始めに表示されます。(レポートのみ)
グループフッター	それぞれのグループの終わりに表示されます。(レポートのみ)

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

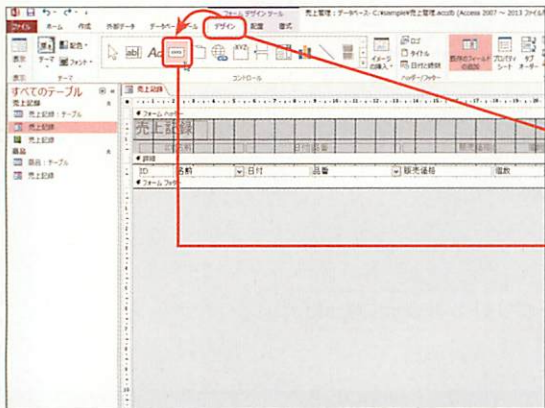
10.1.3 コントロールの共通操作

デザインビューでは、主にコントロールを配置することで設計を進めていきます。ここでは、デザインビューにおけるコントロールの基本操作を説明します。

Process ルーラーの表示／非表示を切り替えるには

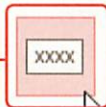
デザインモードでは、様々なコントロールを配置することができます。コントロールを配置するには、次のように操作します。

▼ [デザイン] コマンドタブ

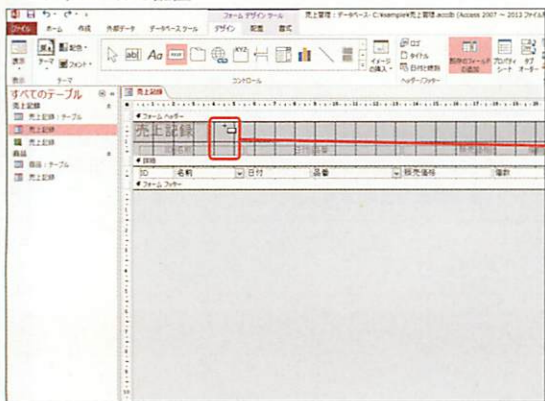


① デザインコマンドタブで、配置したいコントロールをクリックします。

① 配置したいコントロールをクリックする



▼ コントロールの配置

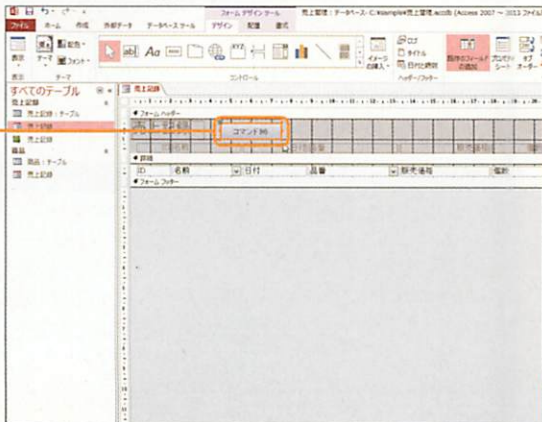


② フォーム上で、配置したい場所をクリックします。
③ コントロールが配置されます。

② 配置したい場所をクリックする

コントロールが配置された

▼ コントロールが配置される



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

Onepoint

多くのコントロールでは、配置されたあとに、コントロールの設定を行うウィザードが起動します。コントロールの種類ごとの詳しい配置方法は、「10.3 入力のためのコントロール」～「10.6 他のアプリケーションとの連携」で説明します。

Onepoint

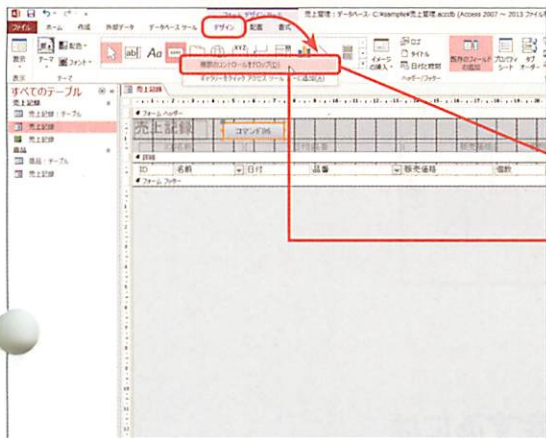
配置したい場所をクリックする代わりに、ドラッグして大きさを指定することもできます。

Process

コントロールを連続して配置するには

同じ種類のコントロールを連続して配置するには、次のようにします。

▼ [デザイン] コマンドタブ



① デザインコマンドタブで、配置したいコントロールの右クリックメニューを出し、複数のコントロールをドロップを実行します。

① [複数のコントロールをドロップ]をクリックする

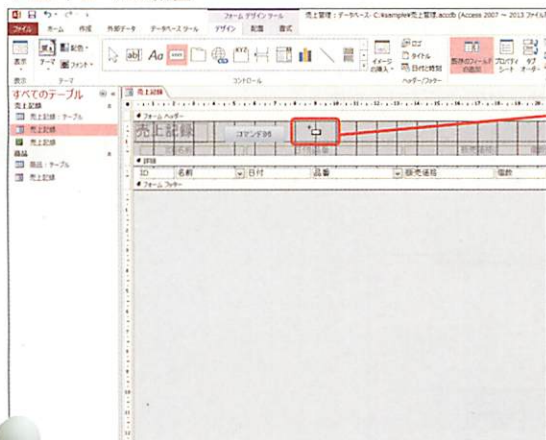
複数のコントロールをドロップ(D)

Onepoint



使いたいコントロールが選択されていない状態で実行します。

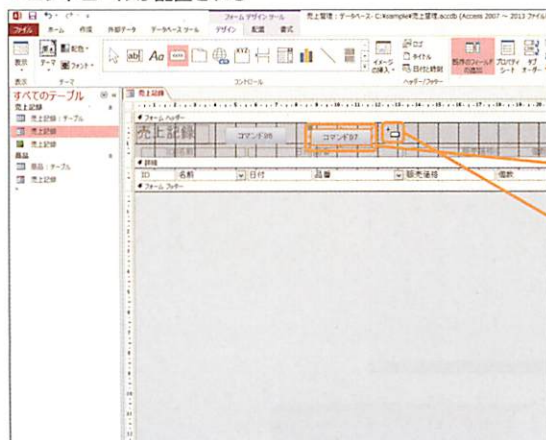
▼ コントロールの配置



② フォーム上で、配置したい場所をクリックします。

② 配置したい場所をクリックする

▼ コントロールが配置される



③ コントロールが配置されますが、コントロールの選択状態は解除されません。この状態で②を複数回実行して、コントロールを配置していきます。

コントロールが配置される

コントロールの選択が解除されない

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

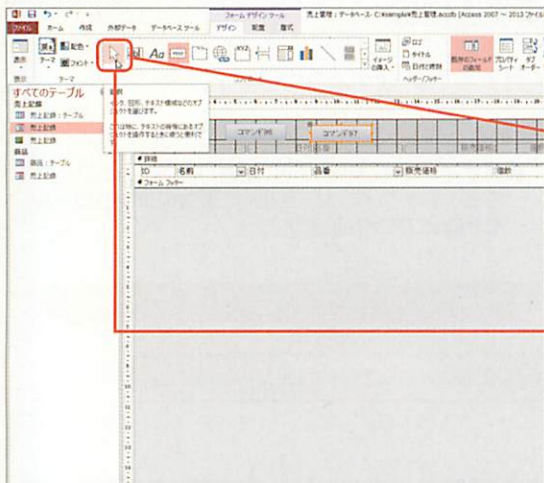
12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

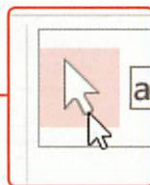
索引
Index

▼【選択】ボタン



4 コントロールの配置を終了するには、**選択ボタン** をクリックします。

4 **【選択】ボタン** をクリックする



Process

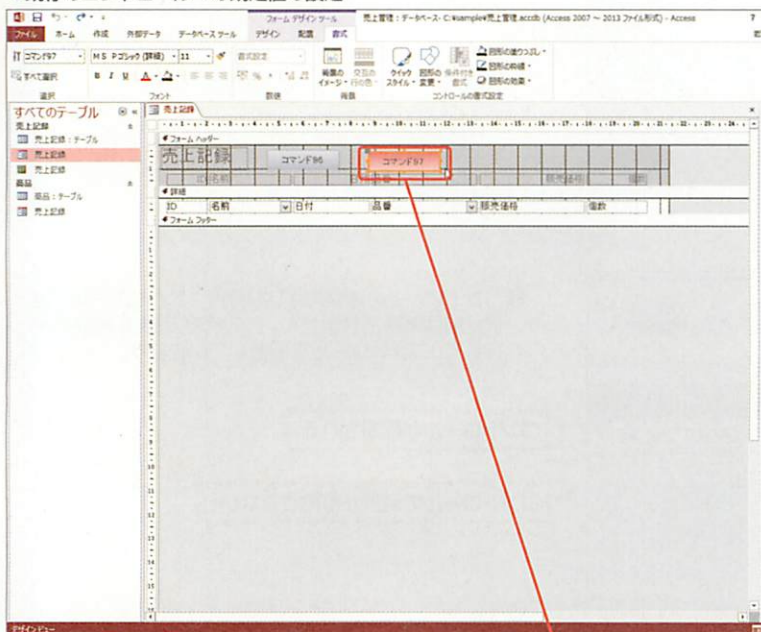
コントロールの既定値を設定するには



コントロールを連続して配置するとき、コントロールの色やフォントなどの設定は、あらかじめ設定された値が使用されます。この既定値を変更することで、新しく配置したコントロールに対して、いちいち色やフォントなどの設定をする手間を省くことができます。コントロールの既定値を設定するには、次のようにします。

1 既定値にしたいコントロールを選択します。

▼既存のコントロールへの既定値の設定



1 コントロールを選択する

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

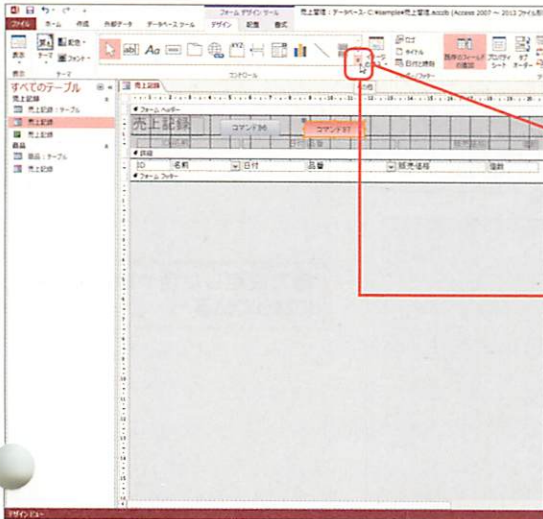
12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

▼ [その他] ボタン

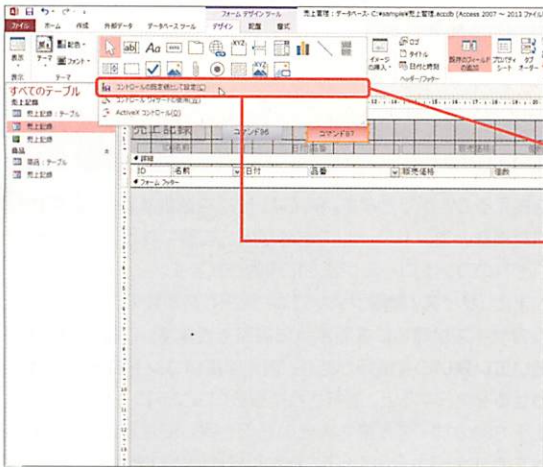


2 デザインコマンドタブのその他ボタンをクリックします。

2 [その他] ボタンをクリックする



▼ [コントロールの既定値として設定] ボタン

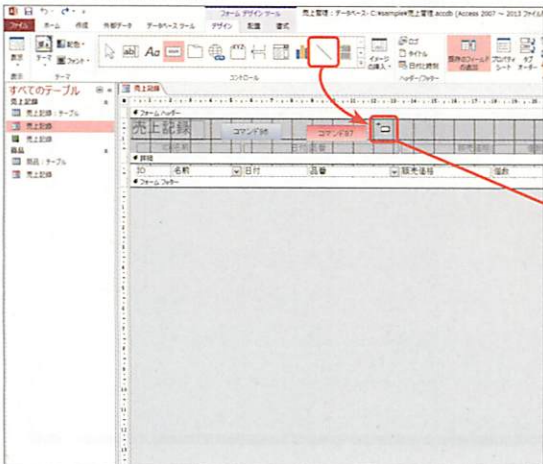


3 コントロールの既定値として設定ボタンをクリックします。

3 [コントロールの既定値として設定] ボタンをクリックする

コントロールの既定値として設定(C)

▼ [デザイン] コマンドタブ



4 デザインコマンドタブで、コントロールの種類を選択し、コントロールを追加します。

5 追加されたコントロールの色や線の形式が、既定値として設定した値になっています。

4 設定したのと同じ種類のコントロールを選択し、フォーム上をクリックしてする

Onepoint



既定値はコントロールの種類ごとに格納されますので、ある種類のコントロールに対して色などを設定しても、違う種類のコントロールには適用されません。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

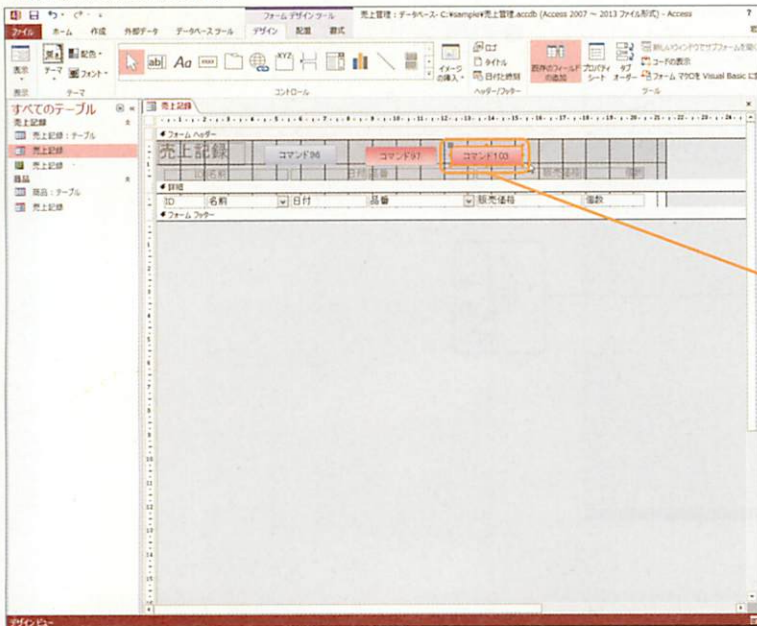
12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

▼既定値が変更されている



①で設定した色や線の形式になっている

Memo コントロールを揃えるには

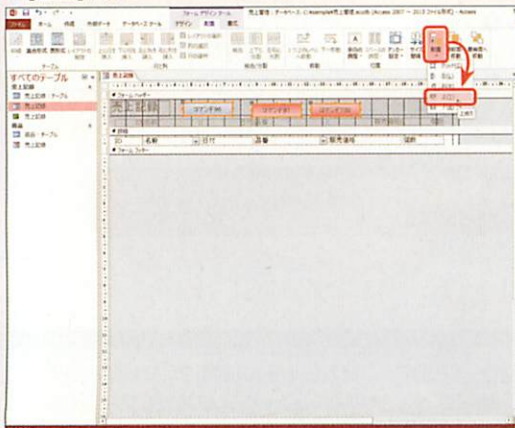
コントロールを縦横に並べるには、通常は「6.5.3 コントロールをグループ化する」で説明したグループ化の機能を使います。しかし、グループ化の機能を使うと、コントロールの位置が完全に固定されてしまいます。配置にある程度の柔軟性を持たせたい場合は、グループ化を使わずにコントロールを揃える機能が有効です。

コントロールを複数選択すると、**配置**コマンドタブの**配置**ボタンにある**左右****上下**コマンドが選択可能になります。これらのコマンドを使うと、選択した複数のコントロールの配置

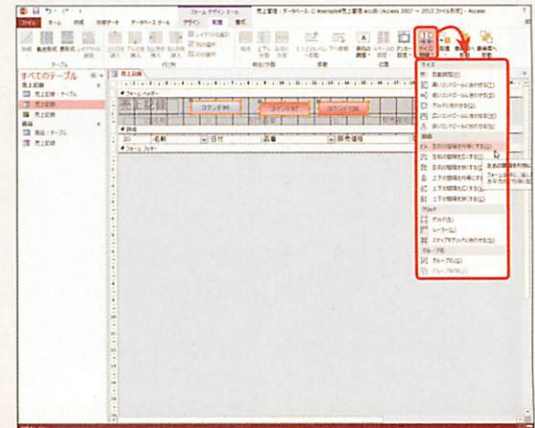
を揃えることができます。例えば、[左]を選択すると、選択された複数のコントロールの左端が同じ位置になるように、それぞれのコントロールが左右に移動されます。

また、**サイズ/間隔**ボタンでは、選択した複数のコントロールのサイズが同じになるように調整できます。これも、高い低い広い狭いの4種類があり、例えば高いコントロールに合わせるを実行すると、選択された複数のコントロールのうち、上下方向のサイズが最も大きいものと同じになるように、すべてのコントロールが上下方向に引き伸ばされます。

▼ [配置] ボタン



▼ [サイズ/間隔] ボタン



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

プロパティを設定する

• SampleData

http://www.shuwasy.com.co.jp/
books/accessper2013/



chap10 sec02

Keyword • プロパティシート • フォームのプロパティ • レポートのプロパティ • コントロールのプロパティ

プロパティとは、フォームやレポート、コントロールなどの各種設定のことです。いままで、色やフォントなどを変更する方法を説明してきましたが、こうした設定はすべてプロパティに格納されます。

フォームやレポートには、リボンから操作できるプロパティのほかにも様々なプロパティがあります。ここでは、そうしたプロパティを変更する方法を説明します。

Point プロパティの設定

プロパティを直接設定するには、プロパティシートを使います。

● プロパティシートの表示

● イベントの設定

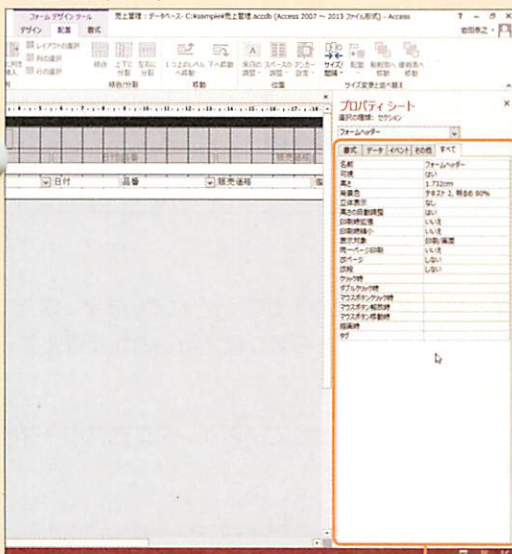
● フォームのプロパティ

● レポートのプロパティ

● コントロールのプロパティ

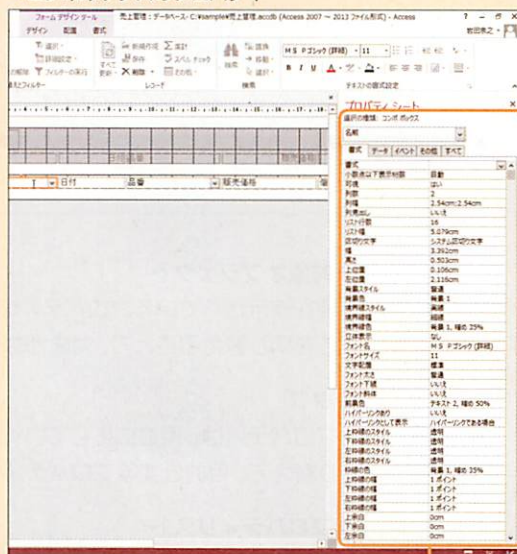
フォームやレポートなどにはたくさんのプロパティがあり、細かい動作を設定しています。リボンに用意されていない様々な細かい設定を変更するには、プロパティシートを使います。

▼ プロパティシート



プロパティシート

▼ コンボボックスのプロパティ



オブジェクトごとにプロパティシートが異なる

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

10.2.1 プロパティを表示する

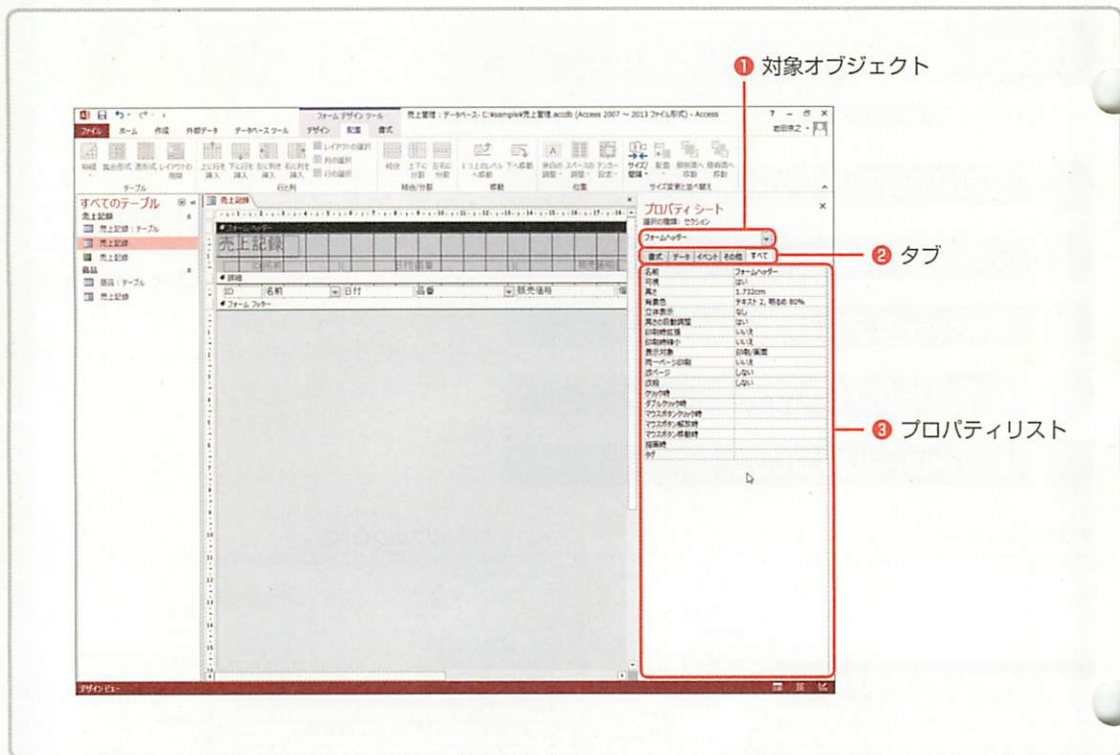
プロパティを直接変更するには、プロパティシートを使います。まずは、プロパティシートの表示方法と使い方を説明します。

プロパティシートの構造



プロパティシートは、デザインビューでは画面右側に表示されます。プロパティシートは、次の図のような構造になっています。

▼プロパティシート



① 対象オブジェクト

現在表示されているプロパティの対象となるオブジェクトが表示されています。また、ここを切り替えることで、対象となっているオブジェクトを切り替えることができます。

② タブ

プロパティは、用途に応じていくつかのグループに分かれています。タブでグループを切り替えて、目的とするプロパティを探します。

③ プロパティリスト

プロパティの名前と、それに対する値が表示されます。右側の値を編集することで、プロパティを変更します。

Process

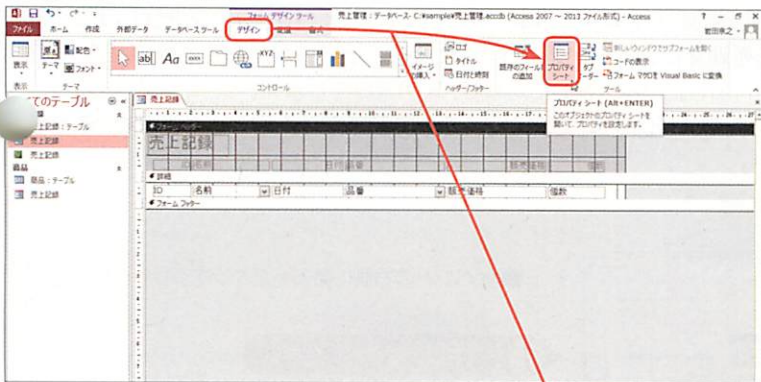
プロパティシートを表示するには

デザインビューでは、通常はプロパティシートが表示されていますが、何らかの方法で閉じてしまうと、次にデザインビューを開いたときにもプロパティシートは表示されなまになってしまいます。

非表示になってしまったプロパティシートを開くには、次のようにします。

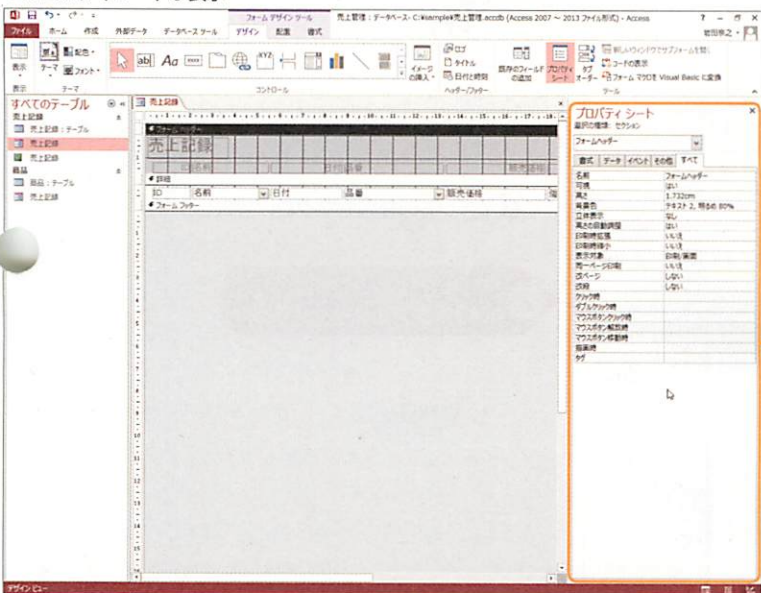
- ① デザインコマンドタブのプロパティシートボタンをクリックします。
- ② プロパティシートが表示されます。

▼ [プロパティシート] ボタン



① [プロパティシート] ボタンをクリックする

▼ プロパティシートが表示



プロパティシートが表示された

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

Onepoint



タブの一番右側に、「すべて」という名前のタブがあります。ここを選択すると、グループに関係なくすべてのプロパティが表示されます。

資料
Appendix

索引
Index

10.2.2 イベントを設定する

イベントは、特定の事が起きたときに、指定した処理を実行する機能です。例えば、フォームを開いたときに何か特別な処理をさせる、ということができます。

イベントに対する処理を記述する方法として、マクロとVBA (Visual Basic for Application) の2種類があります。後者はプログラミング言語の知識が必要になり、本書の範囲を超えますので、ここではマクロを使う方法のみ説明します。



Process

イベントの処理をマクロで記述するには

イベントの処理を記述するには、プロパティシートの[イベント]タブを使います。ここには、イベントを処理するタイミングが、「〇〇した時」というかたちで並べられています。その中で、自分が付加したいイベントに対して、次の操作をします。



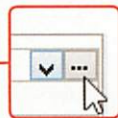
イベント処理の実例については、Chapter 13の実例で詳しく紹介しますので、そちら参照してください。

▼ イベントの追加

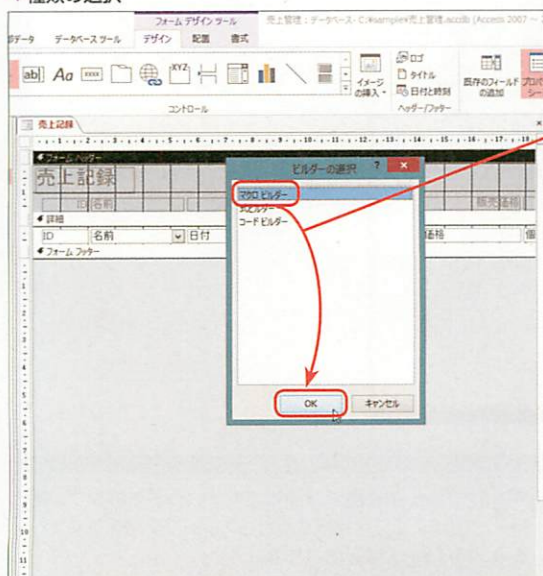


1 イベントの右側にある…ボタンをクリックします。

1 [...] ボタンをクリックする



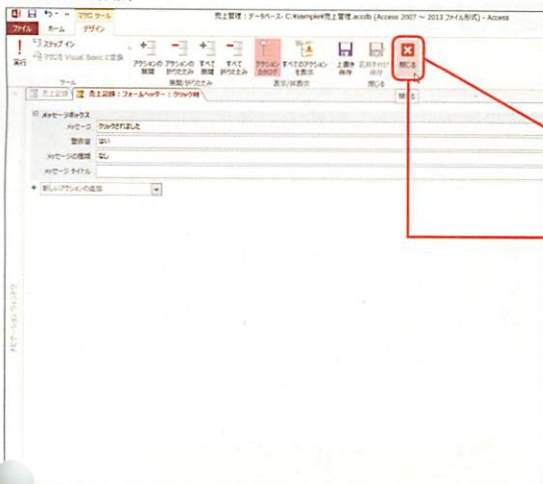
▼ 種類の選択



2 イベントの種類をマクロに設定します。

2 [マクロビルダー]を選択し、[OK]ボタンをクリックする

▼マクロの設計

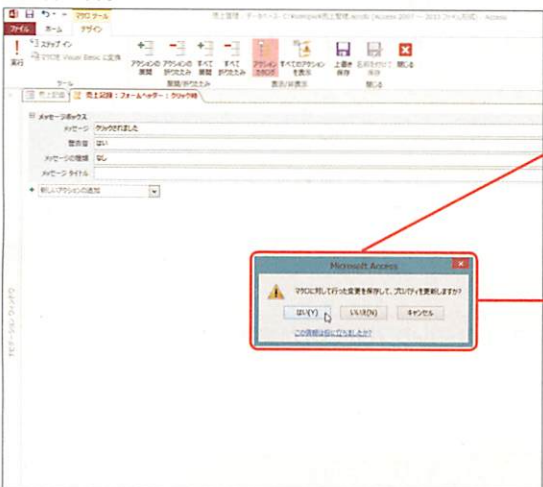


③ マクロ作成画面になりますので、ここで処理を指定します。

③ 処理を指定して、[閉じる]ボタンをクリックする

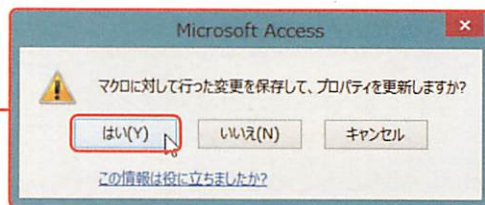


▼更新の確認

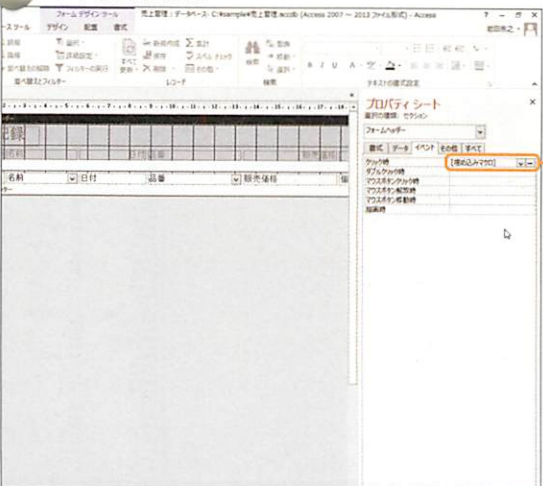


④ マクロが編集された場合、更新の確認メッセージが表示されます。

④ [はい]ボタンをクリックする



▼イベントが追加された



⑤ イベントが追加されました。

イベントが追加された

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

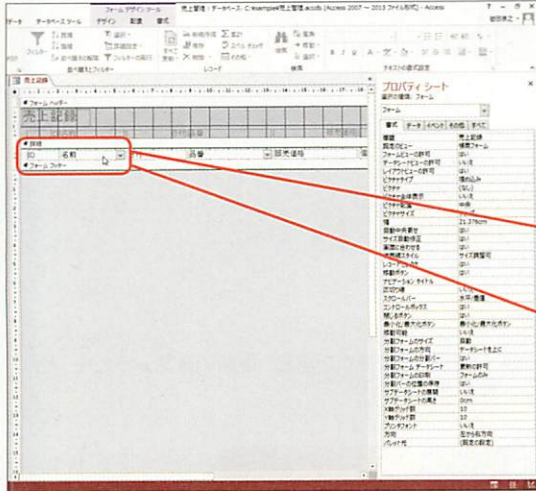
Process

プロパティシートの対象を選択するには



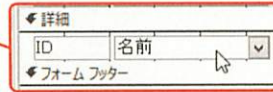
フォーム上でコントロールやセクションを選択すると、選択された対象に対するプロパティシートが開きます。また、複数の対象を選択すると、複数の対象のプロパティを一度に変更することができます。

▼コントロールの選択

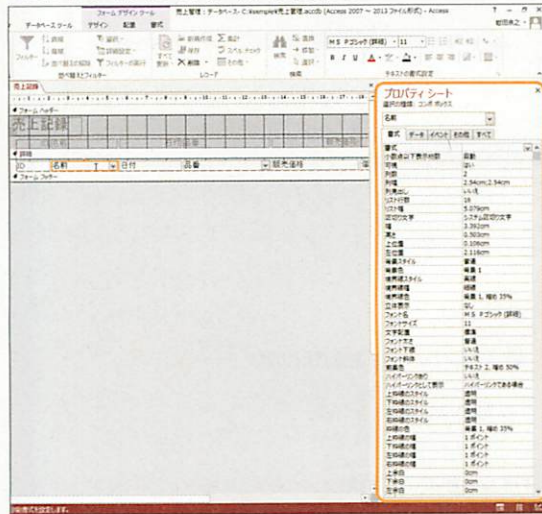


- ① フォーム上でコントロールを選択します。
- ② コントロールのプロパティが表示されます。
- ③ 複数のコントロールを範囲選択します。
- ④ 複数のコントロールを選択すると、選択されたコントロールに共通するプロパティが表示されます。

1 コントロールをクリックして選択する



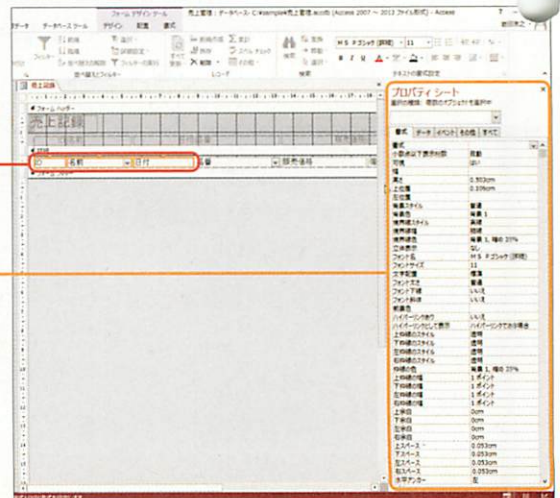
▼コントロールのプロパティが表示される



コントロールのプロパティが表示される

3 複数のコントロールを選択する

▼共通のプロパティが表示される



共通のプロパティが表示される

Onepoint

複数のコントロールを選択した場合、選択したすべてのコントロールに同じ値が設定されているプロパティは、その値が表示されます。それに対して、それぞれ値が違えばプロパティの値は空白になります。

- 10 フォームやレポートの設計
- 11 アプリを作成する
- 12 テンプレートの使用
- 13 データベース作成の手順

資料 Appendix

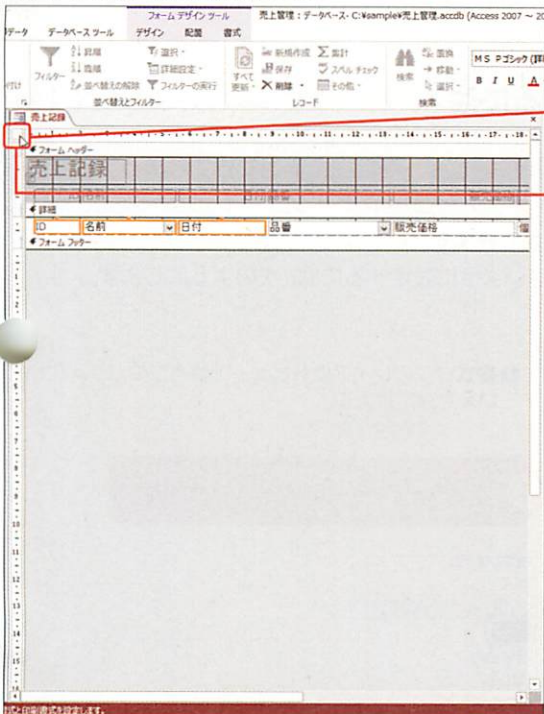
索引 Index

Process

フォーム自体のプロパティシートを表示するには

フォームやレポート自体を選択するには、デザインビューの左上部分をクリックします。

▼デザインビューの左上部分をクリック

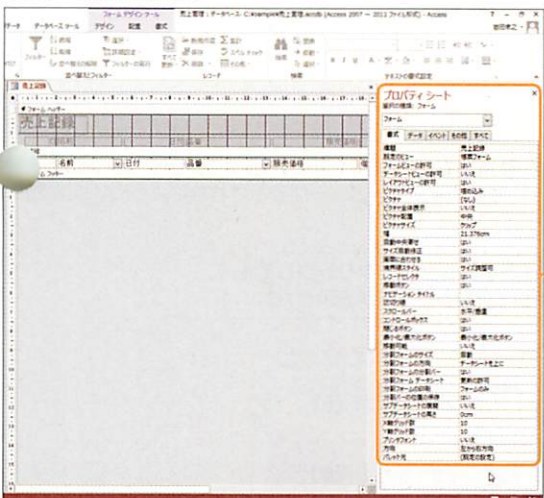


① デザインビューの左上部分をクリックします。

① 左上部分ををクリックする



▼フォームのプロパティ



② フォームのプロパティが表示されます。

フォームのプロパティが表示される

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

10.2.3 フォームのプロパティ

フォームのプロパティを変更することで、細かいフォームの設定ができます。フォームのプロパティは非常にたくさんの種類がありますが、ここではよく使われるものについて見ていくことにします。

Process

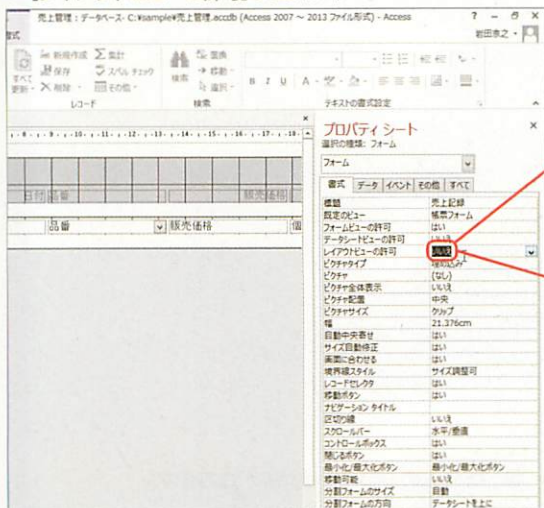
フォームのビューを制限するには



フォームを他の人に使ってもらう場合に、ビューを自由に変更できてしまっては困る場合があります。このような場合、レイアウトビューやデータシートビューなど、特定のビューを選択できないようにすることができます。

例えば、レイアウトビューを許可しないように設定するには、次のようにします。

▼ [レイアウトビューの許可] プロパティ

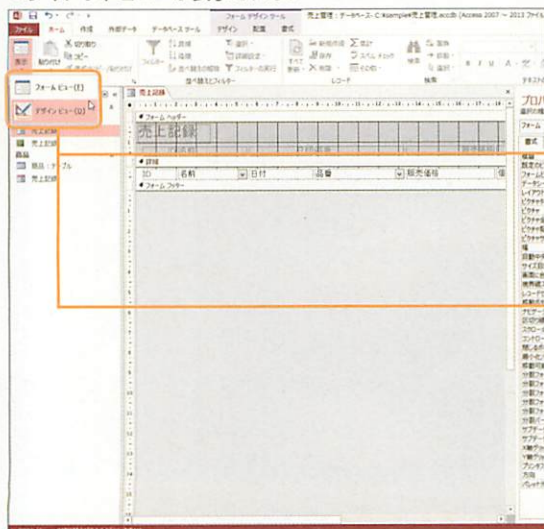


① 書式タブのレイアウトビューの許可プロパティに「いいえ」を設定します。

① [レイアウトビューの許可] プロパティに「いいえ」を設定する

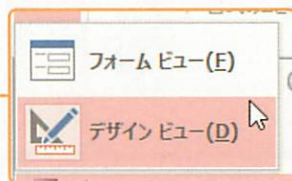
表示フォーム
はい
いいえ
いいえ
埋め込み
(なし)
いいえ

▼ レイアウトビューが表示されない



② ホームコマンドタブの表示ボタンをクリックした後、レイアウトビューが表示されなくなります。

[表示] ボタンをクリックしてもレイアウトビューが表示されない



Process

既定のビューを設定するには

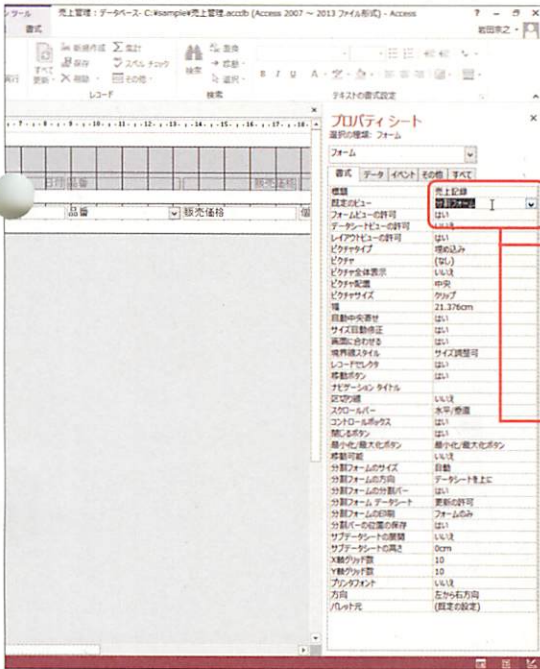


通常、フォームをダブルクリックして開くと、フォームビューで表示されます。これを、別の形式で表示するように変更することができます。

また、フォームを作成する時点で選択した、単票フォーム、分割フォーム、帳票フォームの種類を変更したい場合にも、このプロパティを変更します。

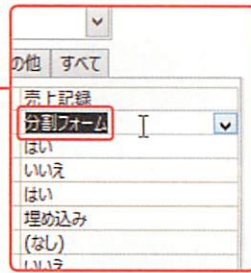
ここでは例として、分割フォームに変更する操作の手順を示します。

▼ [既定のビュー] プロパティ

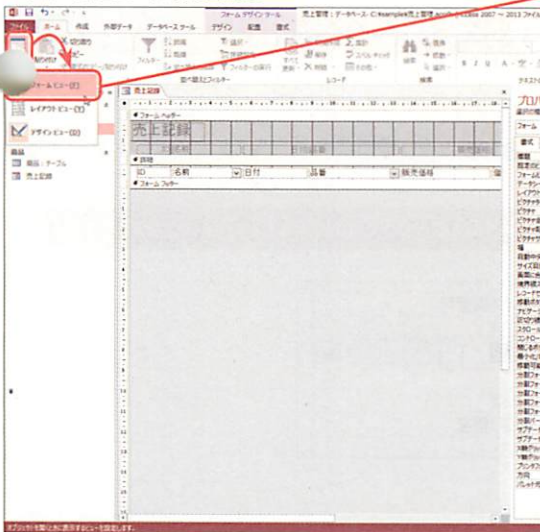


- 1 既定のビュープロパティに分割フォームを設定します。
- 2 デザインコマンドタブの表示ボタンをクリックして、フォームビューに切り替えます。
- 3 分割フォームになっています。

1 [既定のビュー] プロパティに [分割フォーム] を設定する



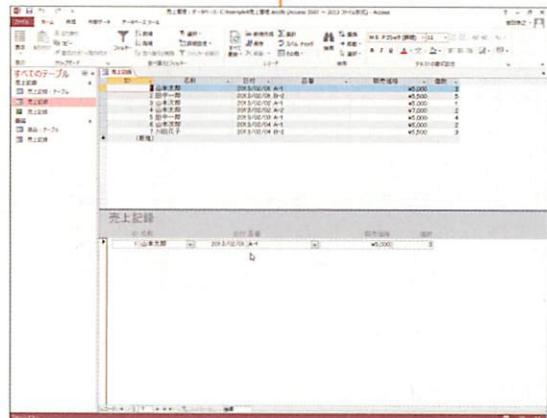
▼ フォームビューに切り替える



2 [表示] ボタンをクリックして [フォームビュー] を選択する

分割フォームになっている

▼ 分割フォームになっている



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

Process

移動ボタンやレコードセクタを非表示にするには

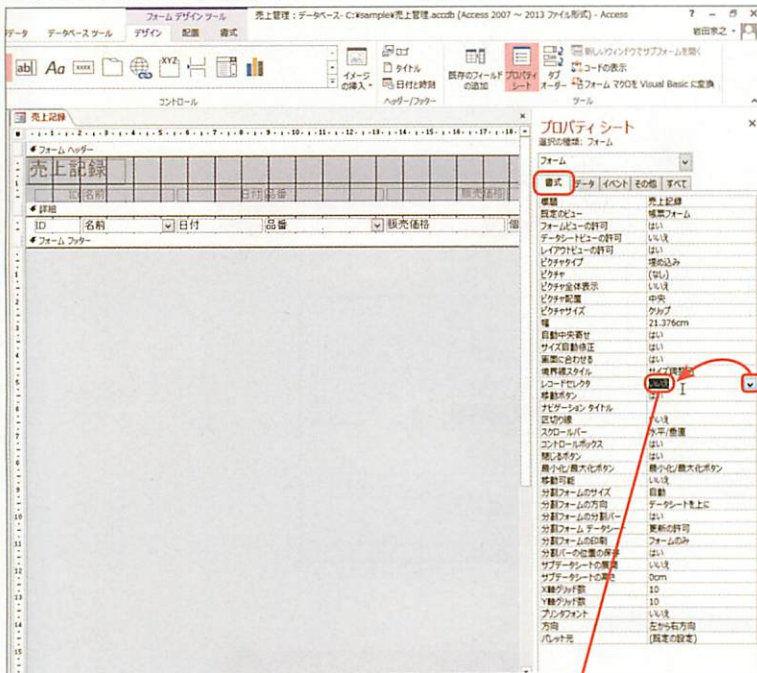


フォームでは通常、画面左側にレコードセクタが表示され、下側に移動ボタンが表示されます。しかし、単票フォームやデータを表示しないフォームでは、これらがかえって邪魔になることがあります。

移動ボタンやレコードセクタを非表示にするには、次のように操作します。

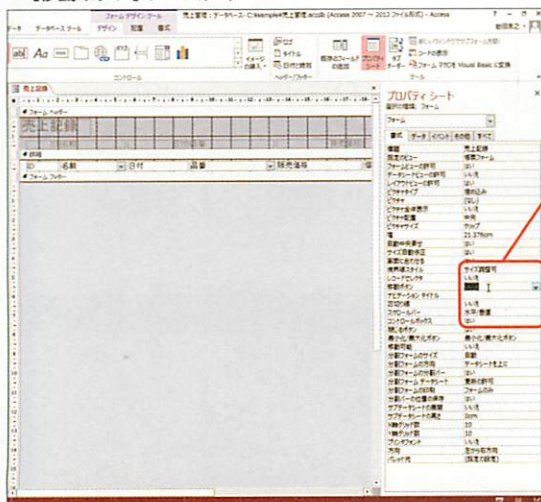
① 書式タブを選択して、レコードセクタプロパティにいいえを設定します。

▼ [レコードセクタ] プロパティ



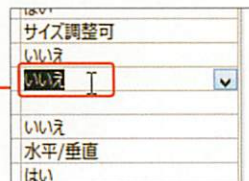
① [レコードセクタ] プロパティに [いいえ] を設定する

▼ [移動ボタン] プロパティ



② 移動ボタンプロパティにいいえを設定します。

② [移動ボタン] プロパティに [いいえ] を設定する



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

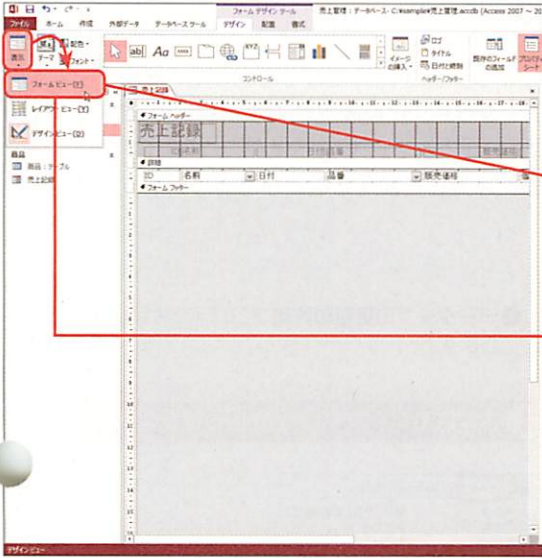
12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

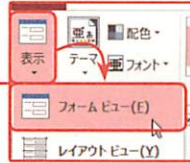
索引
Index

▼フォームビューに切り替える

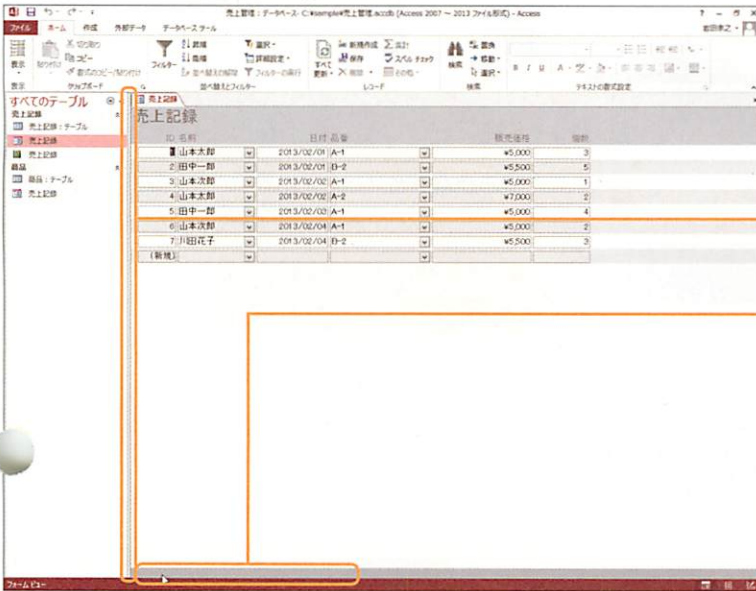


- ③ デザインコマンドタブの表示ボタンをクリックして、フォームビューに切り替えます。
- ④ 移動ボタンとレコードセクタが消えています。

3 [表示] ボタンをクリックし、
[フォームビュー] を選択する



▼移動ボタンとレコードセクタが消えている



レコードセクタが表示されない

移動ボタンが表示されない

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

Memo 他のビューの許可

ビューの許可・非許可を設定するプロパティには、次のものがあります。それぞれ、プロパティにいいえを設定すると、そのビューに切り替えることができなくなります。

- フォームビューの許可
- データシートビューの許可
- レイアウトビューの許可

資料
Appendix

索引
Index

Process

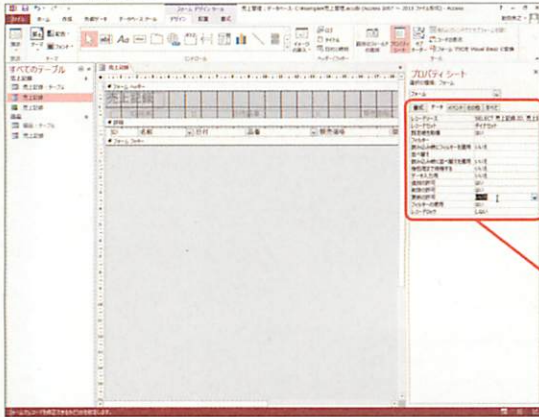
データの変更を制限するには

通常、フォームではデータの表示とデータ入力を同時に行うことができます。テキストボックスの内容を編集すると、それがデータベースに反映されます。しかし、データを表示するだけのフォームでは、そこでデータが編集できてしまうと、かえって困ります。

このような場合に、データを表示するだけで書き換えることができないように設定することができます。



▼ [更新の許可] プロパティ

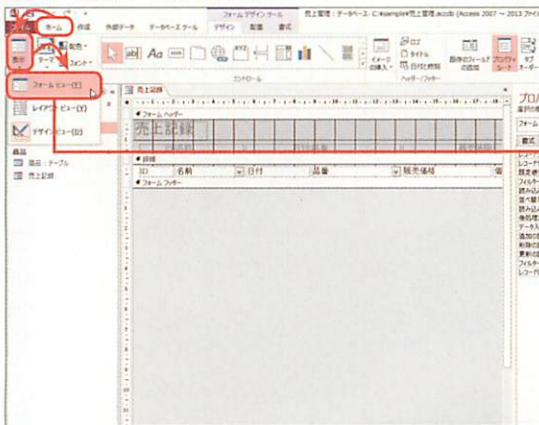


1 データタブの更新の許可プロパティにいいえを設定します。

1 [更新の許可] プロパティに [いいえ] を設定する

書式	データ	イベント	その他	すべて
レコードソース	SELECT 売上記録.ID, 売上			
レコードロック	タイアセット			
既定値を取得	はい			
フィルター				
読み込み時にフィルターを適用	いいえ			
並べ替え				
読み込み時に並べ替えを適用	いいえ			
後処理まで待機する	いいえ			
データ入力用	いいえ			
追加の許可	はい			
削除の許可	いいえ			
更新の許可	いいえ			
フィルターの使用	いいえ			
レコードロック	いいえ			

▼ フォームビューに切り替える



2 ホームコマンドタブの表示ボタンをクリックし、フォームビューに切り替えます。

2 [表示] ボタンをクリックし、[フォームビュー] を選択する

▼ データを編集できない

ID	名前	日付	品番	販売価格	単位
1	山本太郎	2013/02/01	A-1	¥5,000	3
2	田中一郎	2013/02/01	B-2	¥5,500	3
3	山本太郎	2013/02/02	A-1	¥5,000	1
4	山本太郎	2013/02/02	A-2	¥7,000	2
5	田中一郎	2013/02/03	A-1	¥5,000	4
6	山本太郎	2013/02/04	A-1	¥5,000	2
7	川田花子	2013/02/04	B-2	¥5,500	3
	(新規)				

3 テキストボックスに値を入力して、データを編集できないことを確かめます。

データを編集できない

- 10 フォームやレポートの設計
- 11 アプリを作成する
- 12 テンプレートの使用
- 13 データベース作成の手順

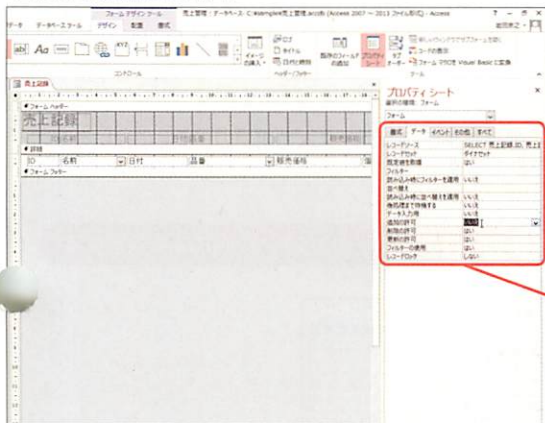
Process

データを追加できないようにするには



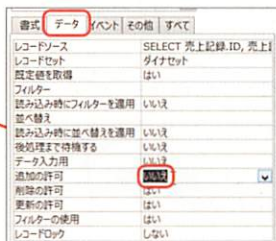
通常、帳票フォームを開くと、一番下に新規データを追加するための行が表示されます。これを表示させないようにするには、次のようにします。

▼ [追加の許可] プロパティ

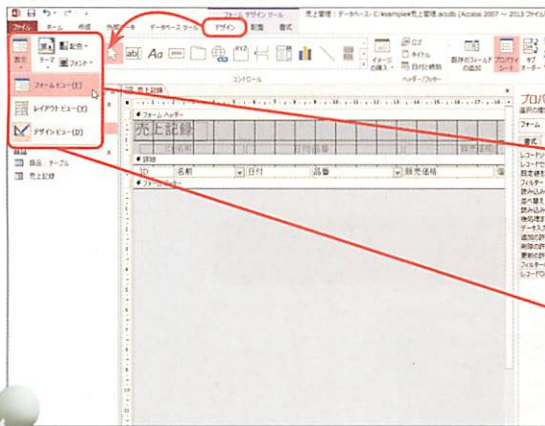


① データタブの追加の許可プロパティにいいえを設定します。

① [追加の許可] プロパティに [いいえ] を設定する

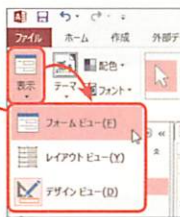


▼ フォームビューに切り替える

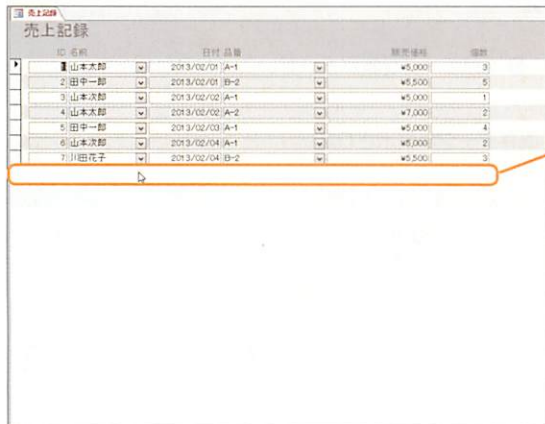


② デザインコマンドタブの表示ボタンをクリックして、フォームビューに切り替えます。

② [表示] ボタンをクリックし、[フォームビュー] を選択する



▼ 新規入力のための行が表示されない



③ 新規入力のための行が表示されないことを確かめます。

新規入力のための行が表示されない

OnePoint



既存データをリスト表示するフォームでは、**変更の許可**プロパティと**追加の許可**プロパティを両方もいいえに設定して、ユーザーがフォームを通じてデータを操作できないようにします。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

Process

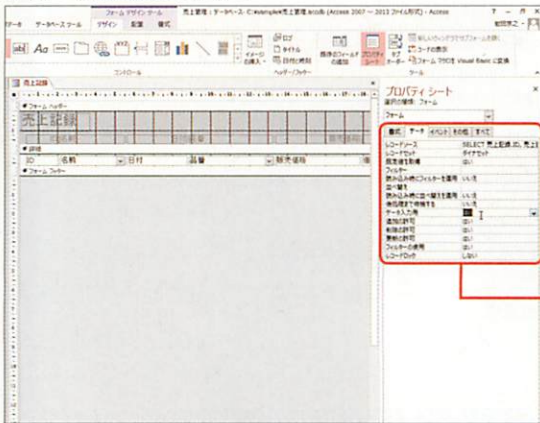
データ入力用に設定するには

通常、フォームを開くと、データベース内のデータが一覧表示されて、自由に編集できるモードになります。しかし、データを大量に入力したい場合には、過去のデータが表示されない方がよい場合があります。



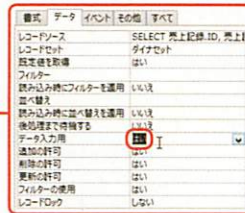
フォームをデータ入力用に設定すると、フォームを開いたときに既存データが表示されないようになります。

▼ [データ入力用] プロパティ

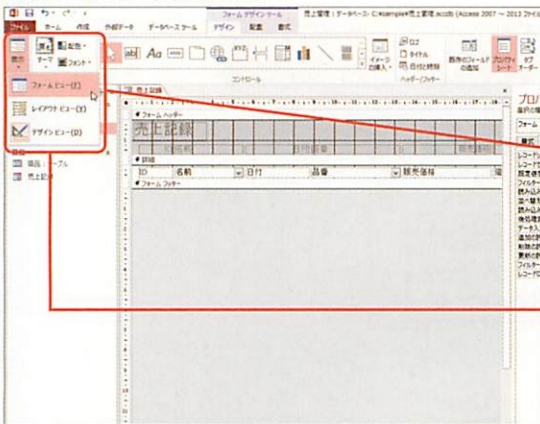


1 データタブのデータ入力用プロパティにははいを設定します。

1 [データ入力用] プロパティに [はい] を設定する

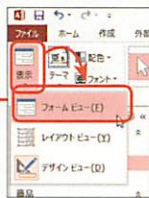


▼ フォームビューに切り替える

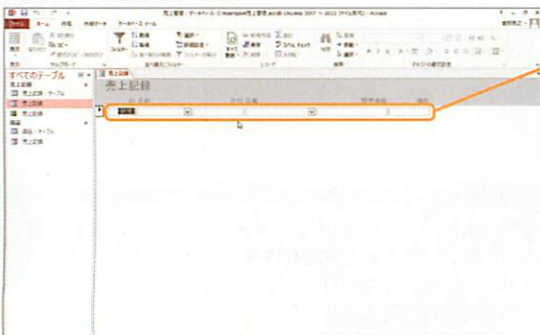


2 デザインコマンドタブの表示ボタンをクリックして、フォームビューに切り替えます。

2 [表示] ボタンをクリックし、[フォームビュー] を選択する



▼ 既存データが表示されない



3 既存データが表示されないことを確かめます。

既存データが表示されない

Onepoint



この動作は、データの入力だけを行う人にとって都合のいい動作です。既存データが表示されないので、他の人が入力したデータが間違っ書き換えられてしまう心配がありません。フォームを開いてから入力したデータだけが書き換えられるようになります。しかし、いったんフォームを閉じてしまうと、過去のデータを編集することができなくなってしまいます。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

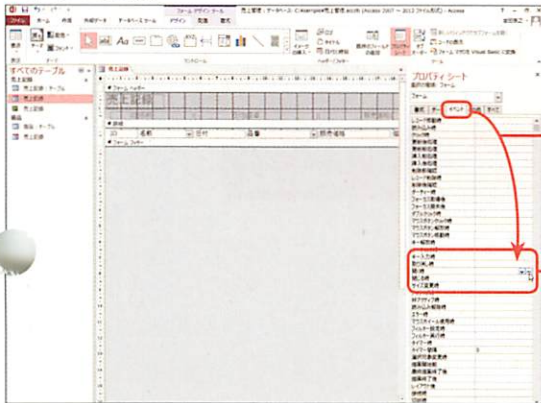
索引
Index

Process

フォームにイベントを設定するには

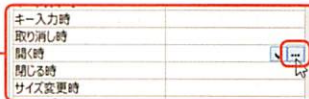
フォームに対して、イベントを設定することで、特定のタイミングで独自の処理をさせることができます。ここでは例として、フォームを開くときにメッセージを表示するように設定します。

▼イベントの追加

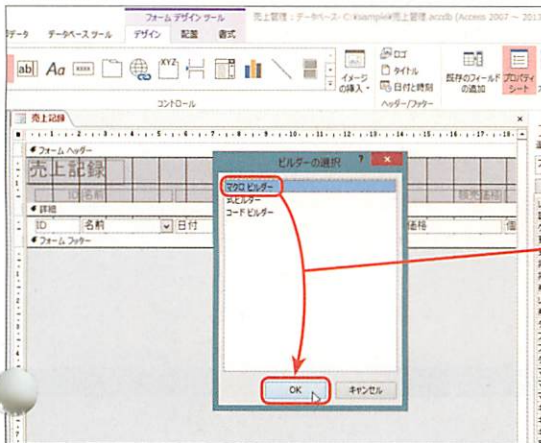


① プロパティシートでイベントタブを選択し、開く時イベントの右側の…ボタンをクリックします。

① [開く時]イベントの[…]ボタンをクリックする



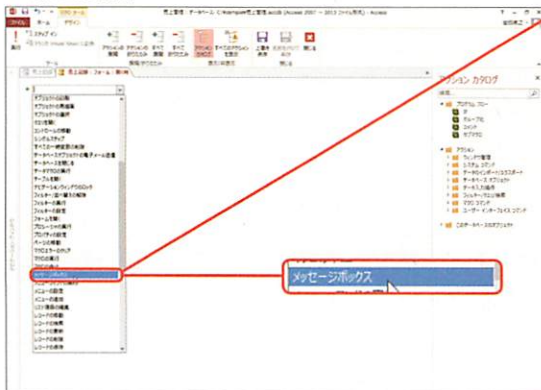
▼種類の選択



② イベントの種類をマクロに設定します。
③ マクロ作成画面で、メッセージボックスアクションを追加します。
④ メッセージボックスアクションの内容を指定して、マクロ作成を終了します。

② [マクロビルダー]を選択し、[OK]ボタンをクリックする

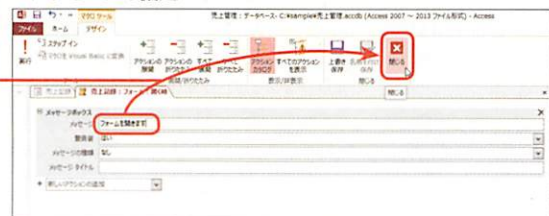
▼マクロの設計



③ [メッセージボックス]を選択する

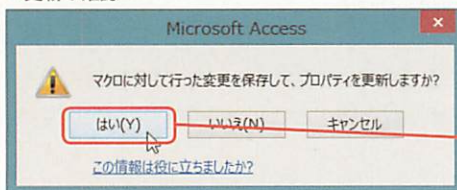
④ [メッセージ]欄に、「フォームを開きます」と入力し、[閉じる]をクリックする

▼メッセージの指定

10
フォームや
レポートの設計11
アプリを
作成する12
テンプレートの
使用13
データベース
作成の手順資料
Appendix索引
Index

10.2 プロパティを設定する

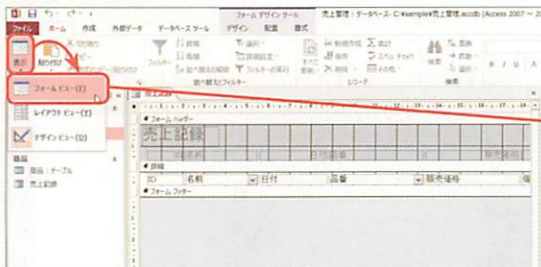
▼更新の確認



5 更新の確認メッセージが表示されるので、はいボタンをクリックします。

5 [はい]ボタンをクリックする

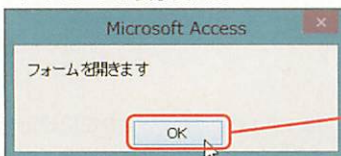
▼フォームの実行



6 フォームビューに切り替えます。

6 [表示]ボタンをクリックし、
[フォームビュー]を選択する

▼メッセージが表示された



7 メッセージが表示されました。

7 [OK]ボタンをクリックする



Memo フォームの主なイベント

フォームにはたくさんのイベントがありますが、よく使われるのは以下のイベントです。

▼フォームの主なイベント

名前	説明
開く時	フォームが開かれるときに実行されます。
閉じる時	フォームが閉じるときに実行されます。
レコード移動時	選択されているレコードが変更されるときに実行されます。
更新前処理	レコードが更新される前もしくは後に実行されます。
更新後処理	レコードが更新される前もしくは後に実行されます。
挿入前処理	レコードが挿入される前もしくは後に実行されます。
挿入後処理	レコードが挿入される前もしくは後に実行されます。
削除前確認	レコードが削除される前もしくは後に実行されます。
削除後確認	レコードが削除される前もしくは後に実行されます。
レコード削除時	レコードの削除処理が終わり、削除後確認の処理が実行されたあとに実行されます。
ダーティー時	レコードの新規追加や編集が始まるタイミングで実行されます。
アクティブ時	別のフォームからフォーカスが移動したときなど、フォームがアクティブになったときに実行されます。
読み込み解除時	フォームが閉じられたあと、最後の処理として実行されます。
エラー時	何らかのエラーが起きたときに実行されます。
タイマー時	一定間隔で実行されます。タイマー間隔プロパティで、実行の間隔を指定します。

10

フォームや
レポートの設計

11

アプリを
作成する

12

テンプレート
の使用

13

データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

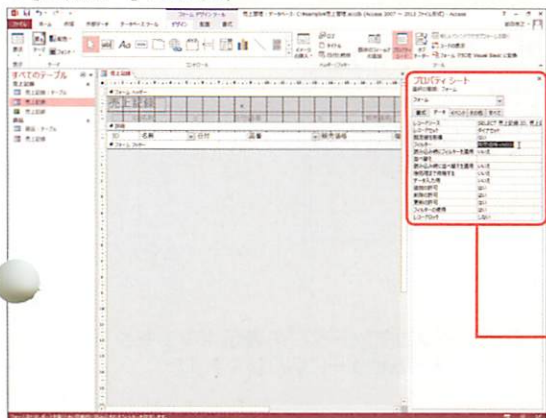
Process

フィルターや並べ替えを設定するには



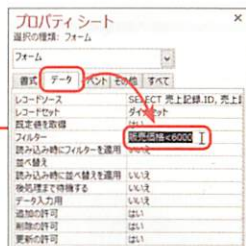
フォームにフィルターや並べ替えを設定することで、フォームを開いたときに、特定のフィルターや並べ替えが自動的に適用されるようにすることができます。

▼ [フィルター] プロパティ

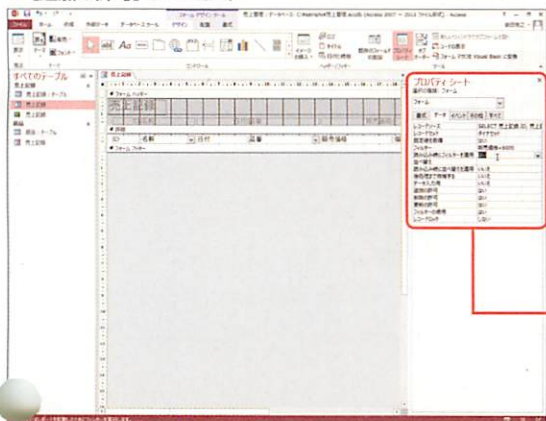


① データタブのフィルタープロパティに条件式を設定します。

① 「[フィルター] プロパティに「販売価格 < 6000」と設定する

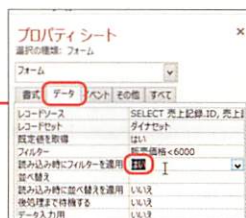


▼ [追加の許可] プロパティ

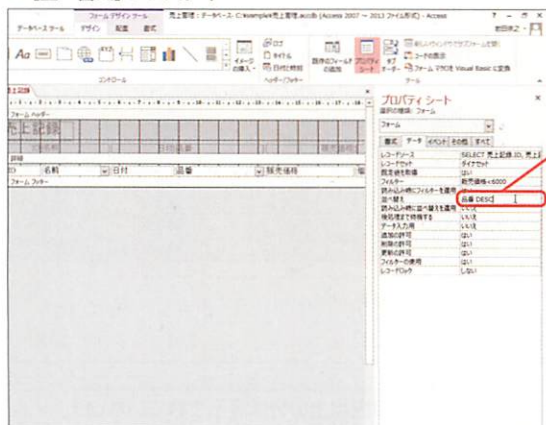


② データタブの読み込み時にフィルターを適用プロパティには「はい」を設定します。

② 「読み込み時にフィルターを適用」プロパティに「はい」を設定する



▼ [並べ替え] プロパティ



③ データタブの並べ替えプロパティにフィールドを設定します。

③ 「並べ替え」プロパティにフィールドを設定する

Onepoint



ここでは並べ替え対象となるフィールドを指定します。「DESC」を指定すると、降順に並べ替えられます。

Onepoint



複数のフィールドで並べ替えるには、フィールドをカンマ(,)で区切って指定します。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

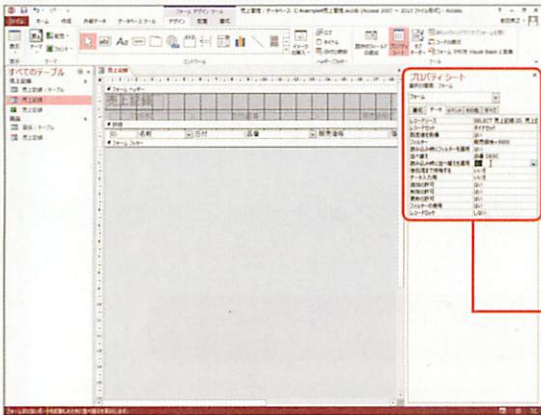
13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

10.2 プロパティを設定する

▼ [読み込み時に並べ替えを適用] プロパティ

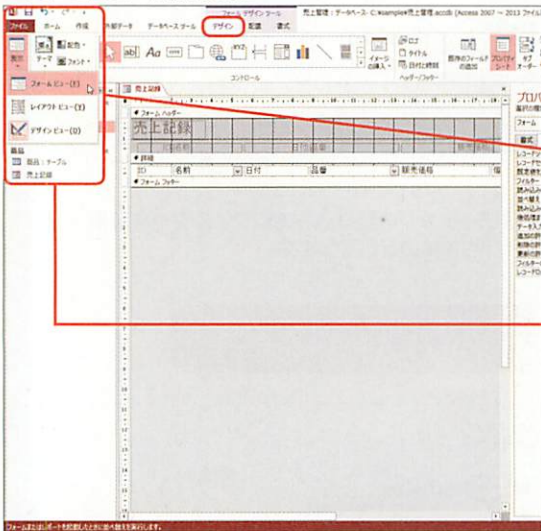


4 データタブの読み込み時に並べ替えを適用プロパティにはいを設定します。

4 [読み込み時に並べ替えを適用] プロパティに [はい] を設定する

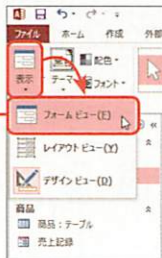


▼ フォームビューに切り替える

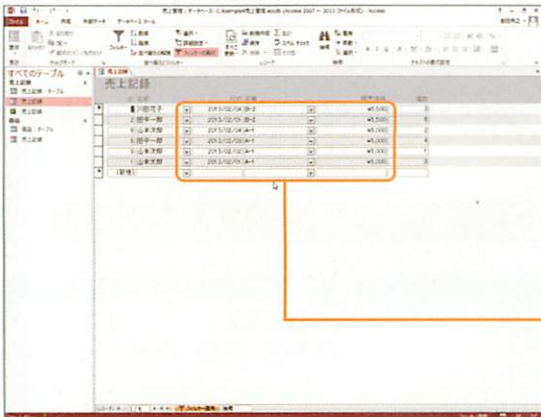


5 デザインコマンドタブの表示ボタンをクリックして、フォームビューに切り替えます。

5 [表示] ボタンをクリックし、[フォームビュー] を選択する



▼ フィルターと並べ替えが適用されている



6 フィルターと並べ替えが適用されています。

商品名の降順で並べ替えられている

日付	品番	販売価格	個数
2013/02/04	B-2	¥5,500	3
2013/02/01	B-2	¥5,500	5
2013/02/04	A-1	¥5,000	2
2013/02/03	A-1	¥5,000	4
2013/02/02	A-1	¥5,000	1
2013/02/01	A-1	¥5,000	3

販売価格が6000円以上の行は表示されていない

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

10.2.4 レポートのプロパティ

フォームと同様に、レポートもプロパティを設定することで、細かい動作を変更することができます。ここでは、レポートでよく使われるプロパティを説明します。

「10.2.3 フォームのプロパティ」で説明したプロパティのいくつかは、レポートにも同様に適用できます。「フォームのビューを制限する」「既定のビューを設定する」「フィルタや並べ替えを設定する」の各項目を参照してください。

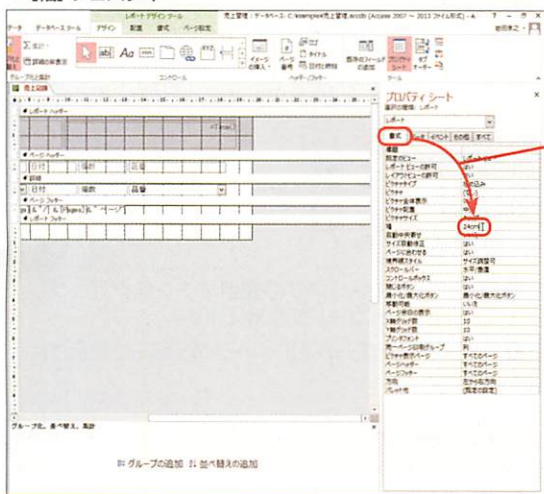


Process

レポートの幅を設定するには

レポートの幅は、レポートの右端をドラッグすることで変更することができます。しかし、印刷対象となる紙の大きさに合わせたいこともあるでしょう。プロパティを使うと、レポートの幅をキーボードから入力することができます。

▼ [幅] プロパティ



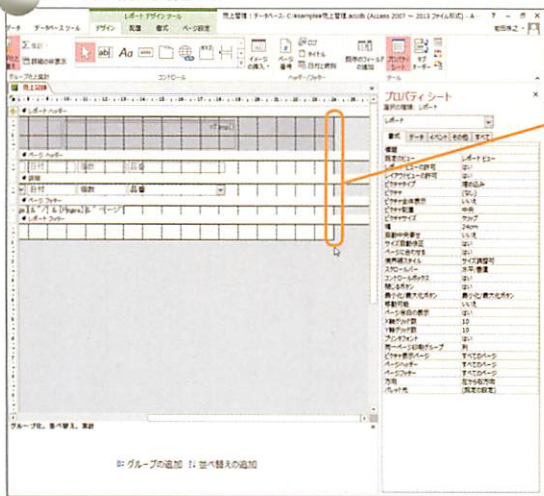
① 書式タブの幅プロパティにレポートの幅を入力します。

① [幅] プロパティに数値を入力する

Onepoint

表示では単位 (cm) が付いていますが、数値だけを入力すれば自動的に単位が付加されます。もちろん、単位を付けて入力してもかまいません。

レポートの幅が変化する



② レポートの幅が変化します。

レポートの幅が変化する

Attention

レポートの幅は、少なくとも既存のコントロールがすべて表示できるだけの幅でなくてはなりません。それより小さな値を入力しても、レポートの幅は既存のコントロールの右端に合わせて修正されます。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

Process

最初のページにページヘッダーが表示されないようにするには

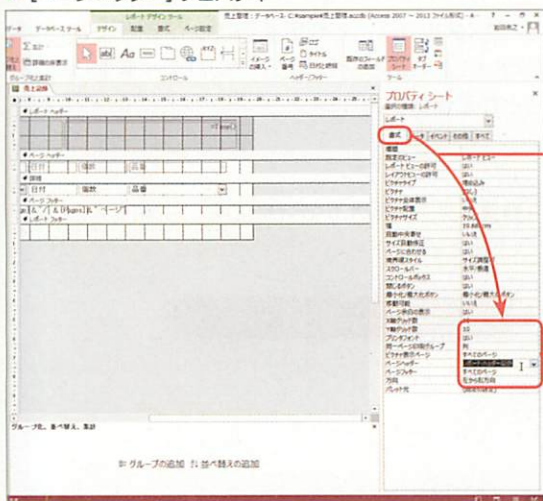
通常は、ページヘッダーとページフッターのセクションの内容が、すべてのページに表示されます。プロパティを設定することで、この表示を制限することができます。



レポートヘッダーのページでは、ページヘッダーはレポートヘッダーの下に表示されます。ページヘッダーのデザインによっては、これが格好悪く見えることがあります。そのような場合に、レポートヘッダーやレポートフッターのページにページヘッダーやページフッターを表示させないようにすることができます。

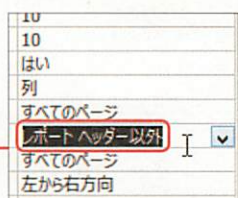
このように設定するには、レポートのプロパティを次のように変更します。

▼ [ページヘッダー] プロパティ



① 書式タブのページヘッダープロパティにレポートヘッダー以外を設定します。

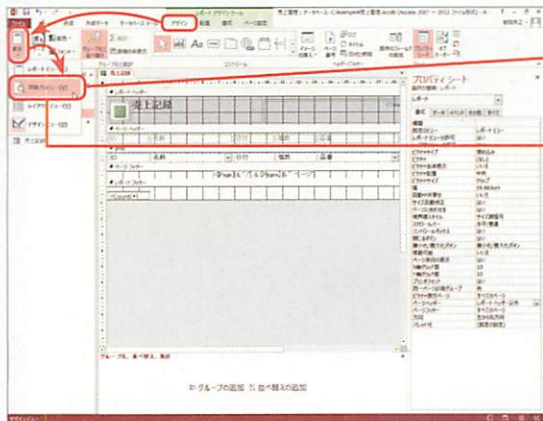
① [ページヘッダー] プロパティに [レポートヘッダー以外] を設定する



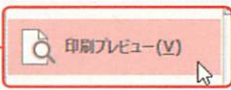
② デザインコマンドタブの表示ボタンをクリックして、レポートビューに切り替えます。

③ レポートヘッダーの下にページヘッダーが表示されません。

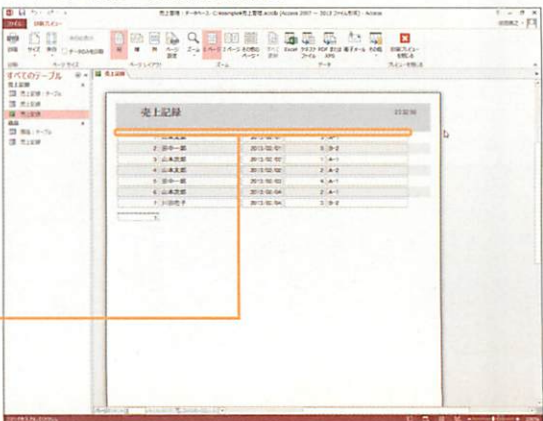
▼ レポートビューに切り替える



② [表示] ボタンをクリックし、[レポートビュー] を選択する



▼ ページヘッダーが表示されない



ページヘッダーが表示されない

10 フォームやレポートの設計

11 アプリを作成する

12 テンプレートの使用

13 データベース作成の手順

資料 Appendix

索引 Index

10.2.5 コントロールのプロパティ

10.3節以降で、それぞれのコントロールについて配置やプロパティを説明しますが、その前に、ほとんどのコントロールに共通のプロパティを説明します。

Process

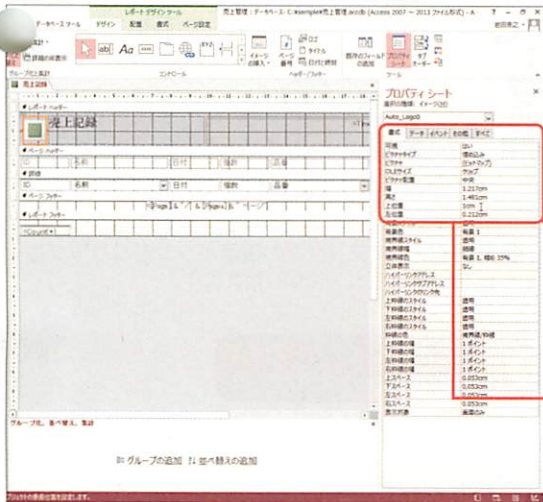
コントロールの位置を数値で設定するには

コントロールは、画面上をドラッグすることで自由に配置することができますが、正確な位置合わせをしたい場合など、数値で入力の方がやりやすい場合もあります。

プロパティを使うと、フォームやレポートの上端や左端からの距離を数値で入力することで、コントロールを位置合わせすることができます。



▼ [上位置] プロパティ

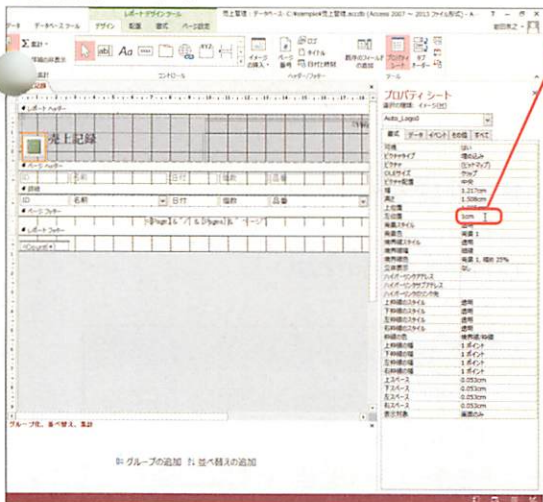


- ① 書式タブの上位置プロパティに、上端からの距離を設定します。
- ② 書式タブの左位置プロパティに、左端からの距離を設定します。
- ③ コントロールが指定の位置に配置されます。

① [上位置] プロパティに"1cm"と設定する

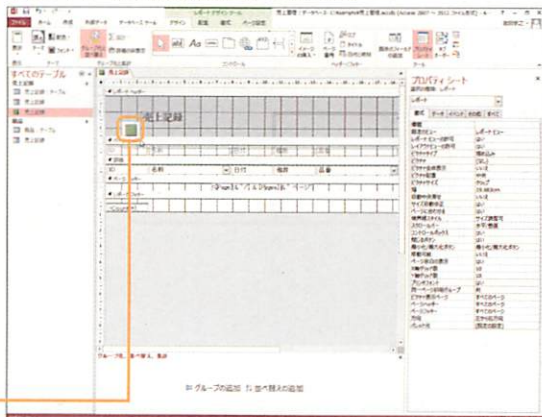
書式	データ	イベント	その他	すべて
可視			はい	
ピクチャタイプ			埋め込み	
ピクチャ			(ビットマップ)	
OLEサイズ			グループ	
ピクチャ配置			中央	
幅			1.217cm	
高さ			1.261cm	
上位置			1cm	
左位置			0.212cm	

▼ [左位置] プロパティ



② [左位置] プロパティに"1cm"と設定する

▼ コントロールが指定の位置に配置される



コントロールが指定の位置に配置される

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

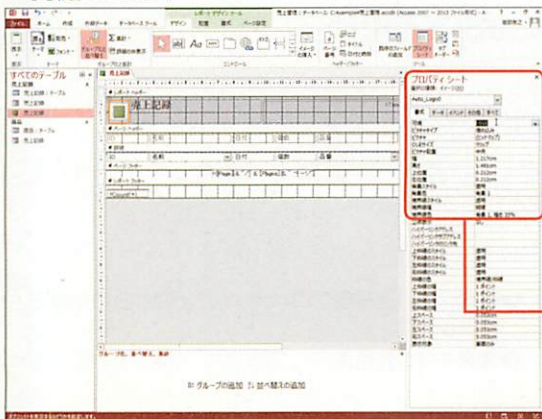
Process

コントロールを不可視にするには



コントロールを不可視に設定すると、デザインビューでは表示されますが、フォームビューやレポートビューでは表示されないようにすることができます。

▼ [可視] プロパティ

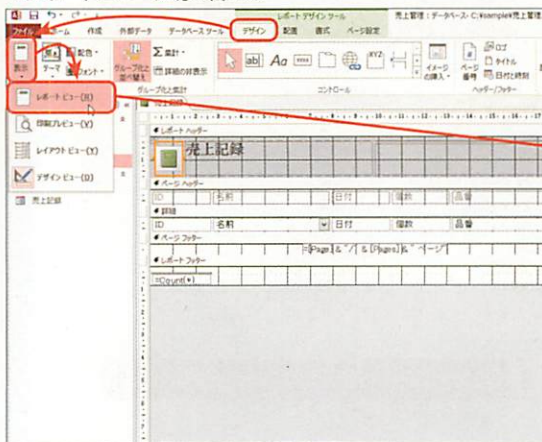


① 書式タブの可視プロパティにいいえを設定します。

① [可視] プロパティに [いいえ] を設定する



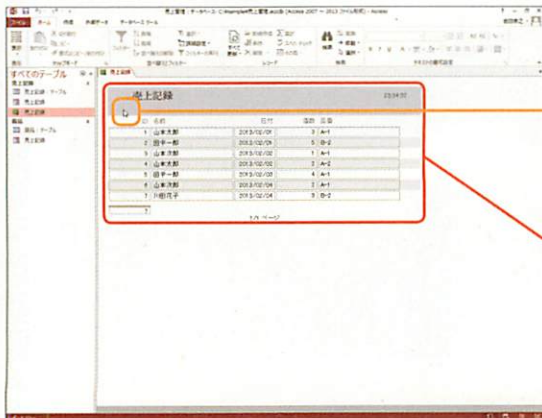
▼ レポートビューに切り替える



② デザインコマンドタブの表示ボタンをクリックして、レポートビューに切り替えます。

② [表示] ボタンをクリックし、[レポートビュー] を選択する

▼ コントロールが表示されない



③ コントロールが表示されません。

コントロールが表示されない

ID	名前	日付	価格	品番
1	山本文部	2013/02/01	3	A-1
2	田中一郎	2013/02/01	5	B-2
3	山本太郎	2013/02/02	1	A-1
4	山本文部	2013/02/02	2	A-2
5	田中一郎	2013/02/03	4	A-1
6	山本太郎	2013/02/04	2	A-1
7	川田花子	2013/02/04	5	B-2

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

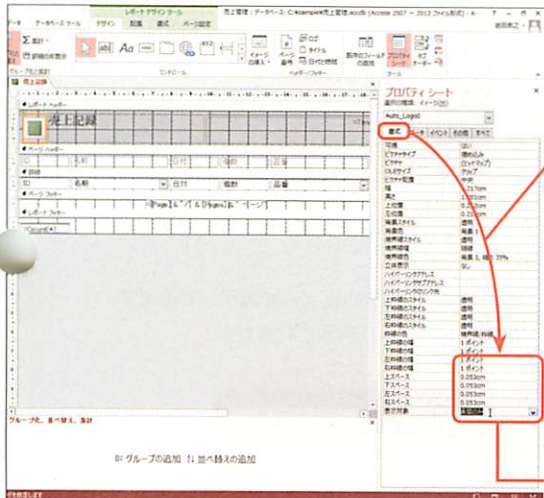
Process

コントロールが印刷されないようにするには



ボタンなど、ユーザーからの入力するためのコントロールは、印刷時には無意味です。フォームやレポートを印刷するとき、こうしたコントロールを印刷から除外するように設定できます。それには、次のようにします。

▼ [表示対象] プロパティ

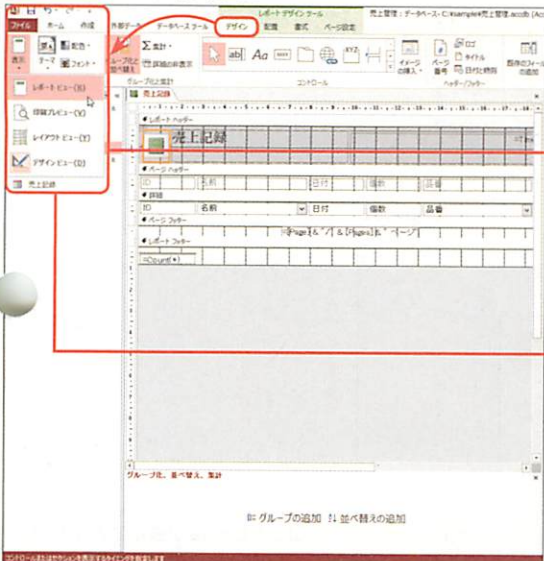


① 書式タブの表示対象プロパティに画面のみを設定します。

① [表示対象] プロパティに [画面のみ] を設定する

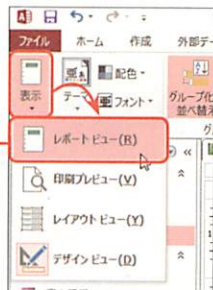


▼ レポートビューに切り替える



② デザインコマンドタブの表示ボタンをクリックして、レポートビューに切り替えます。

② [表示] ボタンをクリックし、[レポートビュー] を選択する



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

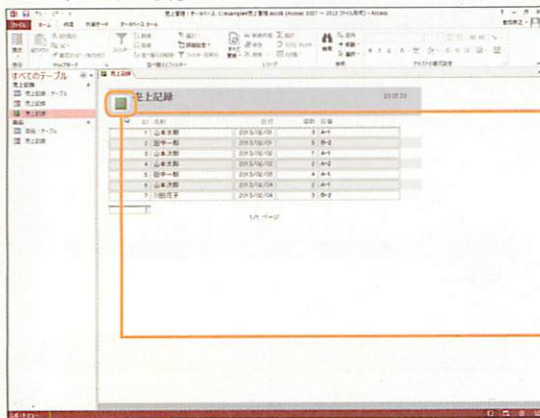
13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

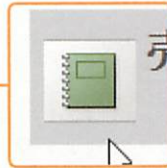
10.2 プロパティを設定する

▼コントロールが表示される

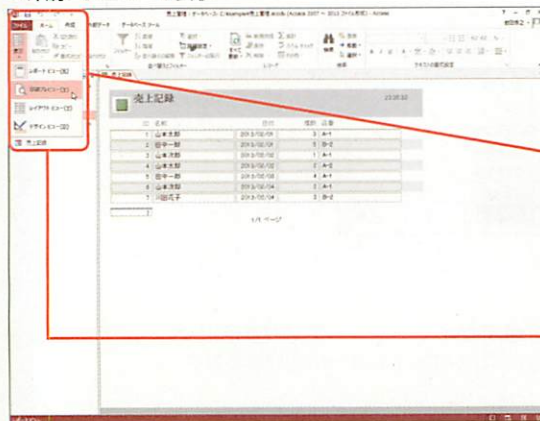


③ 画面には通常どおり表示されます。

コントロールが表示される



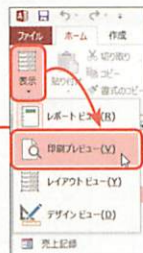
▼印刷プレビューの表示



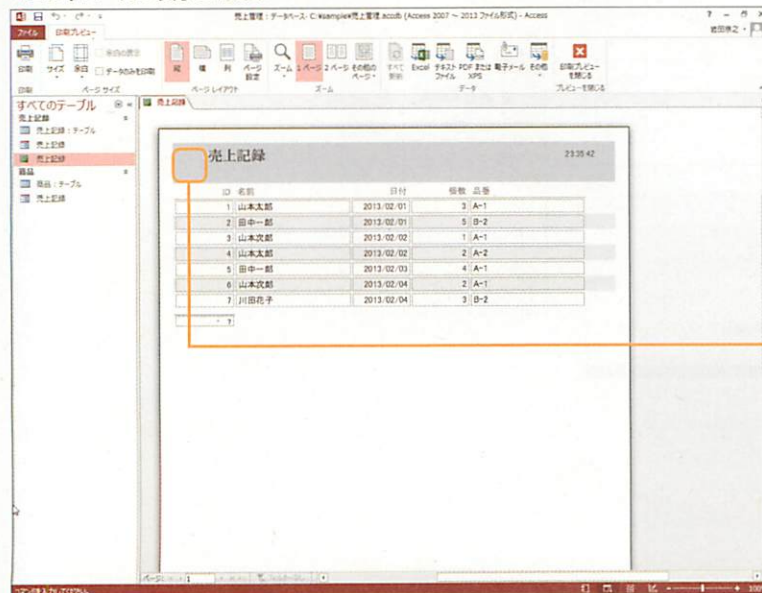
④ 今度は、印刷プレビューを表示してみます。

⑤ コントロールが表示されません。

④ [表示] ボタンをクリックし、
[印刷プレビュー] を選択する



▼コントロールが表示されない



コントロールが表示されない

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

Memo コントロールの主なイベント

コントロールには、その種類に応じて様々なイベントが用意されています。その多くは高度な処理をするために用意されているもので、Visual Basicでプログラミングする際に利用されるのが普通です。

ここでは、多くのコントロールに共通し、マクロによる簡単な処理にも応用できる、一部のイベントを紹介します。

▼コントロールの主なイベント

名前	説明
クリック時	クリックしたときに実行されます。ボタンでよく利用されます。
ダブルクリック時	ダブルクリックしたときに実行されます。
更新前処理	入力フィールドで、内容が更新される前に実行されます。
更新後処理	入力フィールドの内容が更新された後に実行されます。
変更時	コントロールの内容が変更されたときに実行されます。更新前処理や更新後処理とは違って、1文字入力することに発生します。
フォーカス取得時	コントロールへの入力が始まったときに実行されます。
フォーカス喪失時	このコントロールから、他のコントロールへとフォーカスが移ったときに実行されます。
キークリック時	キーボードのキーが押されたときに実行されます。

Memo レポートのイベント

レポートに対してイベントを追加する場合は、VBAを使った複雑な処理になってしまうことがほとんどです。ですので、主なイベントの紹介にとどめます。

▼レポートの主なイベント

名前	説明
開く時	レポートが開かれるときに実行されます。
閉じる時	レポートが閉じるときに実行されます。
空データ時	レポートの中にレコードが1つも無いときに実行されます。確認メッセージを出すなどの処理を追加することが多いです。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index



入力のための コントロール

Keyword ● テキストボックス ● コンボボックス ● リストボックス

Accessでは、フォームやレポートに様々な種類のコントロールを配置できます。ここでは、コントロールの種類とその配置方法を順に見ていくことにします。まずは、データ入力やその表示のためのコントロールについて説明します。

Point 入力のためのコントロール

Accessには様々な種類のコントロールが用意されています。

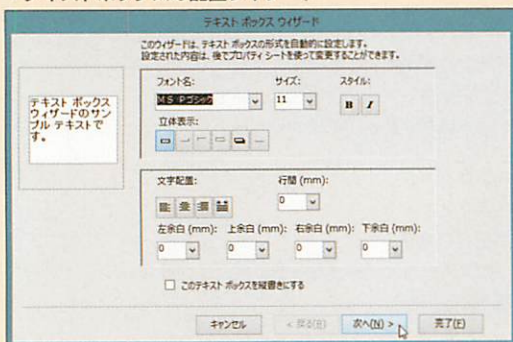
● テキストボックス

フォームやレポートでは、データを表示し入力する機能を持つコントロールが中心的な役割を果たします。

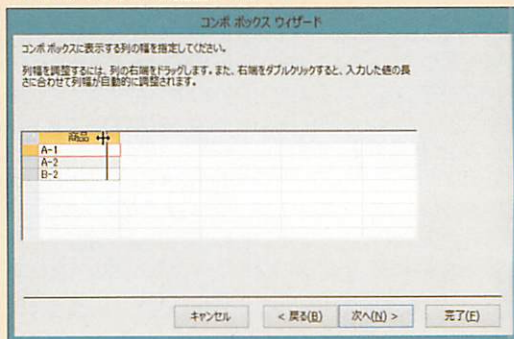
● コンボボックス

● リストボックス

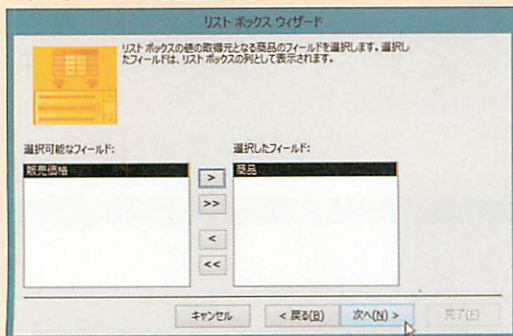
▼テキストボックスの配置ウィザード



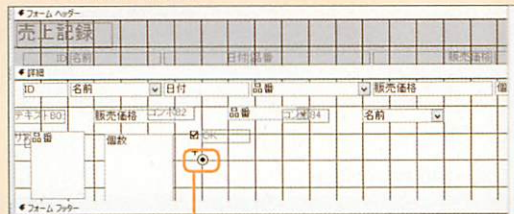
▼コンボボックスの配置ウィザード



▼リストボックスの配置ウィザード



▼ラジオボタンの配置



ラジオボタン

リストボックスを配置する

10.3.1 テキストボックスを配置する



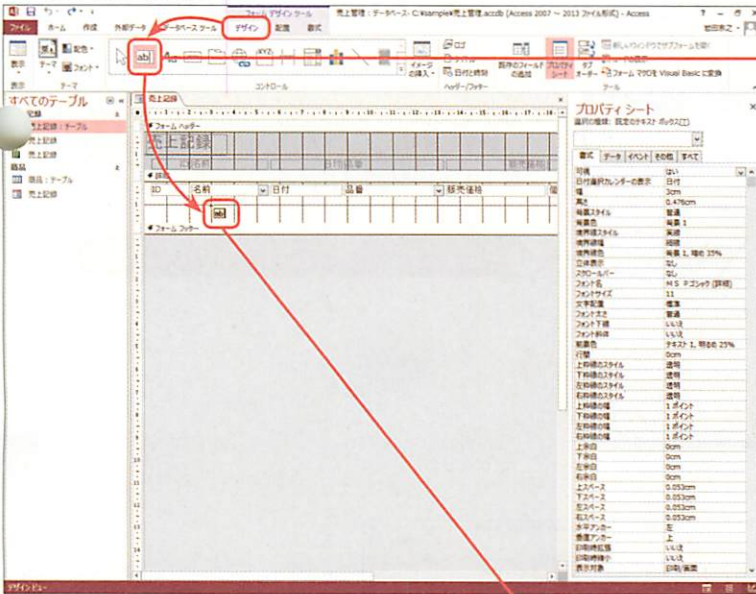
テキストボックスを使うと、フォームにデータを表示し、かつキーボードからデータを編集することができます。このため、フォームやレポートでは中心的な役割を果たします。


Process

テキストボックスを配置するには

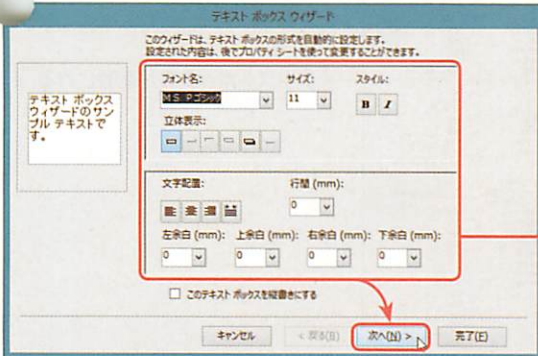
テキストボックスを配置するには、次のようにします。


▼テキストボックスの配置



- 1 [テキストボックス] ボタン  をクリックし、配置したい場所をクリックします。


▼フォントやサイズ、余白の設定



- 1 デザインコマンドタブからテキストボックスボタン  をクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。
- 2 テキストボックスウィザードが起動しますので、フォントやサイズ、余白などを設定します。

- 2 フォント、サイズ、書式、効果、行間、配置、余白、縦書き、横書きを設定し、[次へ] ボタンをクリックする

Attention

-  キャンセルボタンをクリックすると、ウィザードは終了しますが、テキストボックスは配置されたままになります。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

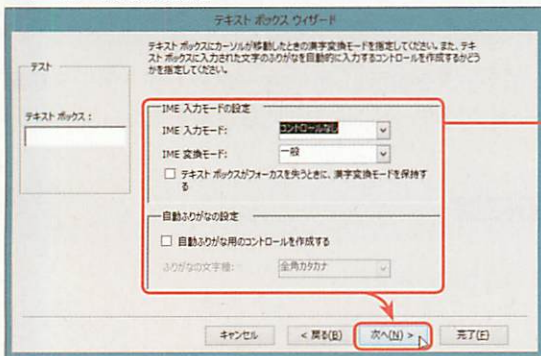
13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

10.3 入力のためのコントロール

▼キーボード入力の設定



③次に、キーボードからの入力の設定をします。

③ IMEモード、IME変換モード、自動ふりがな機能を設定し、[次へ] ボタンをクリックする

Onepoint



IMEモードについては「4.2.6 IMEのモードを設定する」を、自動ふりがな機能については「4.2.5 日本語の入力支援を設定する」を参照してください。

▼テキストボックスの名前の入力

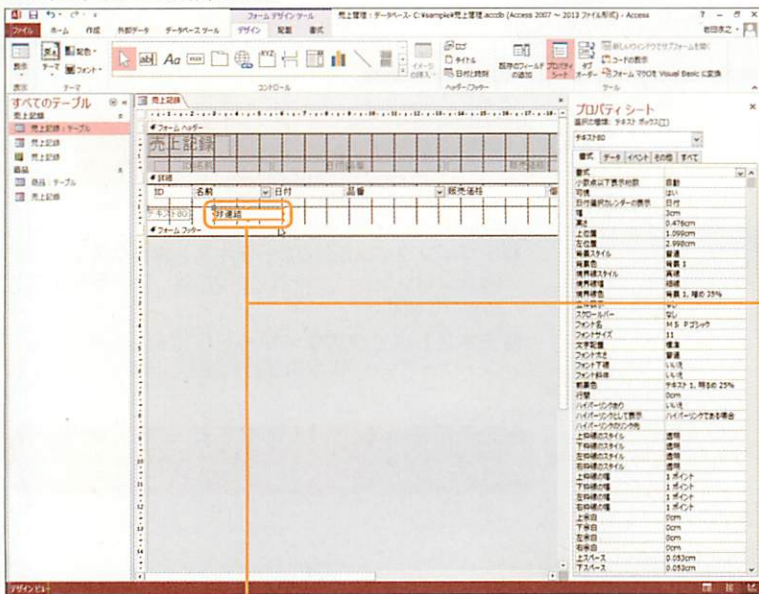


④テキストボックスの名前を指定して、ウィザードを終了します。

⑤テキストボックスが配置されます。

④ 名前を入力し、[完了] ボタンをクリックする

▼テキストボックスが配置される



テキストボックスが配置される

Attention



テキストボックスの名前は、フォーム内で一意でなくてはなりません。通常は自動的に連番が振られますが、自分で名前を付ける場合には注意します。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

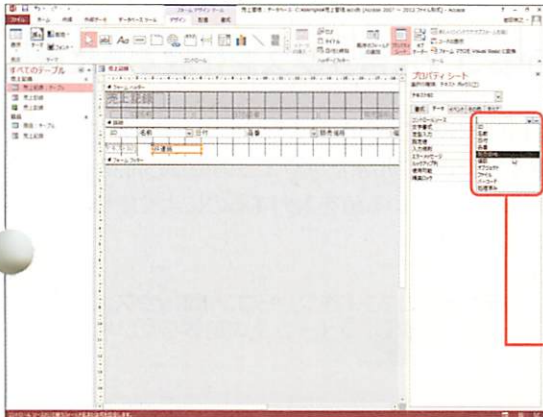
Process

フィールドを割り当てるには



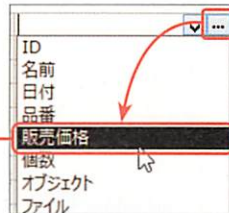
配置したばかりのテキストボックスには、フィールドが割り当てられていません。このテキストボックスを使ってデータを表示したり編集したりすることができるようにするためには、テーブルやクエリのフィールドを割り当てなくてはなりません。

▼ [コントロールフィールド] プロパティ

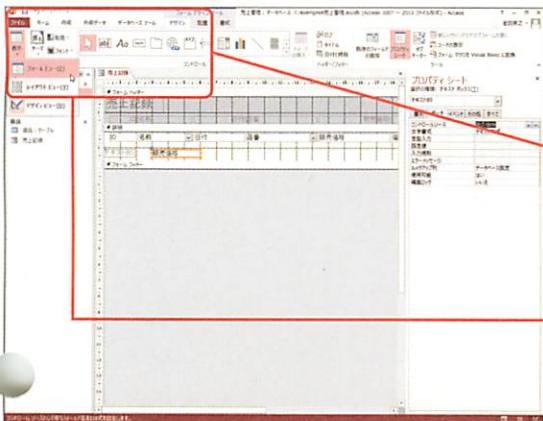


① データタブのコントロールフィールドプロパティに、フィールドを設定します。

① [コントロールフィールド] プロパティに [販売価格] フィールドを設定する

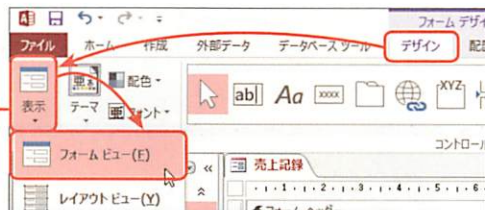


▼ フォームビューに切り替える

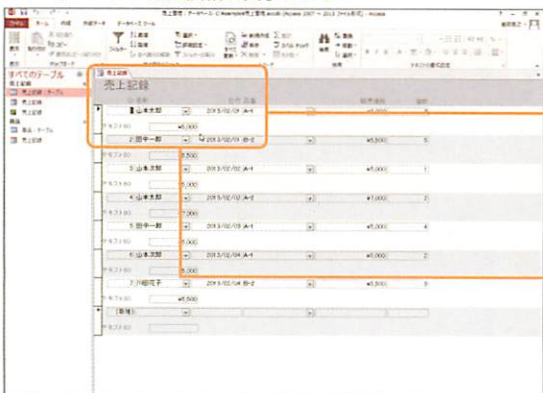


② デザインコマンドタブの表示ボタンをクリックして、フォームビューに切り替えます。

② [表示] ボタンをクリックし、[フォームビュー] を選択する



▼ コントロールに販売価格が表示される



③ コントロールに販売価格が表示されます。

コントロールに販売価格が表示される



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

10.3.2 コンボボックスを配置する

コンボボックスは、リストの中から値を選択するコントロールです。データ入力用としては、テキストボックスの次によく使われます。

コンボボックスを作成するには、コンボボックスのリストのデータをどこから取ってくるか、そしてユーザーが指定した値をどこに格納するかという2つの指定が必要です。

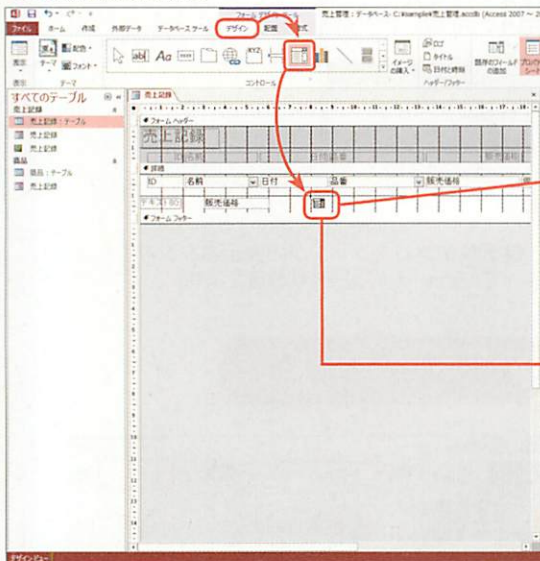



Process

テーブルまたはクエリの値からコンボボックスを作成するには

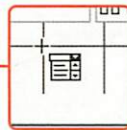
コンボボックスの作成方法には、リストの値をどこから取得するかによって大別できます。大きく分けて2種類ありますが、主に使うのはテーブルまたはクエリの値から取得する方法です。この方法は、リレーションシップが設定されている値を入力するのによく使われます。

▼コンボボックスの配置

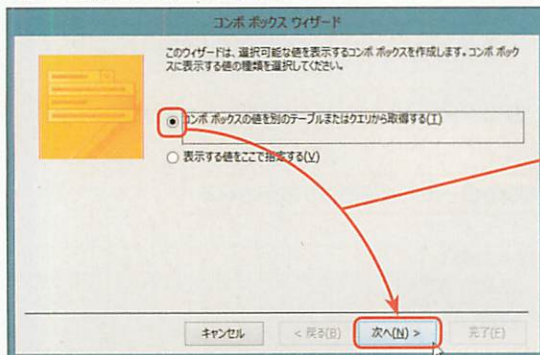


1 デザインコマンドタブからコンボボックスボタンをクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。

1 [コンボボックス] ボタンをクリックし、配置したい場所をクリックする



▼値の種類の表示方法を指定する



2 コンボボックスウィザードが起動しますので、値の種類を表示する方法を選んで次へ進みます。

2 [テーブルまたはクエリの値をコンボボックスに表示する] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

▼リストデータの取得元の指定

3 リストに表示するデータをどのテーブル (もしくはクエリ) から取ってくるかを指定します。

3 [商品] テーブルを選択し、[次へ] ボタンをクリックする

▼フィールドの指定

4 どのフィールドをリストに含めるかを指定します。

4 [商品] フィールドを選択し、[>] ボタンをクリックして追加し、[次へ] ボタンをクリックする

▼並べ替え方法の指定

5 リストの並べ替え方法を指定します。

6 列の幅を指定します。

5 [商品] フィールドを選択し、[次へ] ボタンをクリックする

6 列の幅を調整し、[次へ] ボタンをクリックする

▼列幅の指定

Memo

並べ替えが必要ない場合、空白のままにします。

Onepoint

4 で複数の列を指定した場合には、ここで列をドラッグして順番を入れ替えることができます。また、キー列をリストに表示するかどうかを指定することもできます。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

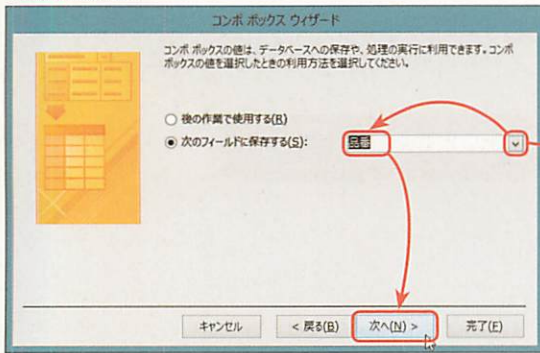
12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

▼格納先の指定



7 選択したデータをどのフィールドに格納するのかを指定します。

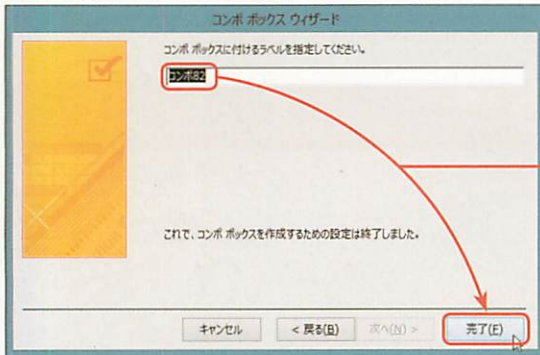
7 [商品] フィールドを指定し、[次へ] ボタンをクリックする

Onepoint



後の作業で使用するを選択すると、コントロールとフィールドとの結び付けが行われません。これは、マクロや Visual Basic を使って様々な機能を作り込むときに必要になります。

▼コンボボックスウィザードの終了

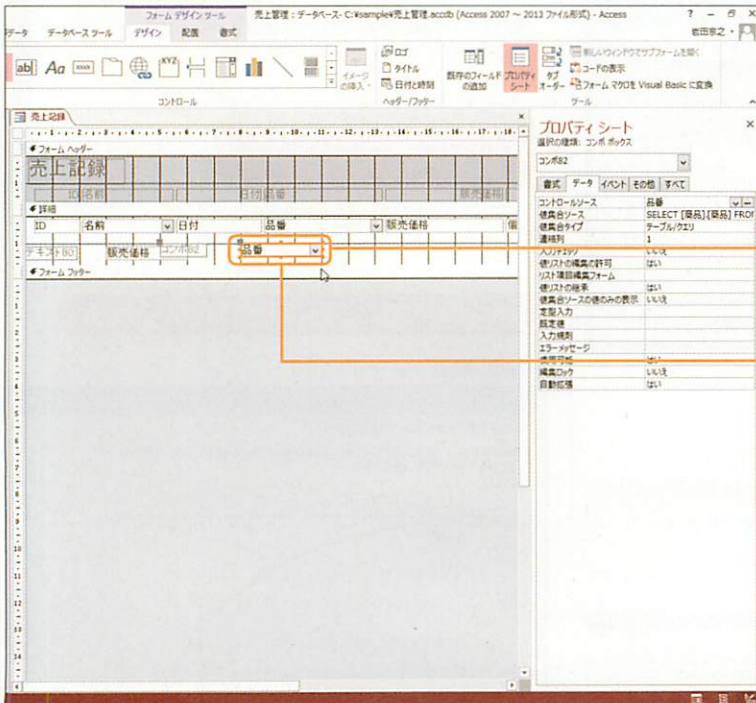


8 名前を指定して、コンボボックスウィザードを終了します。

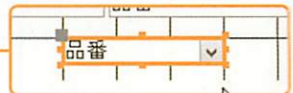
9 コンボボックスが配置されます。

8 名前を入力し、[完了] ボタンをクリックする

▼コンボボックスが配置される



コンボボックスが配置される



- 10 フォームやレポートの設計
- 11 アプリを作成する
- 12 テンプレートの使用
- 13 データベース作成の手順

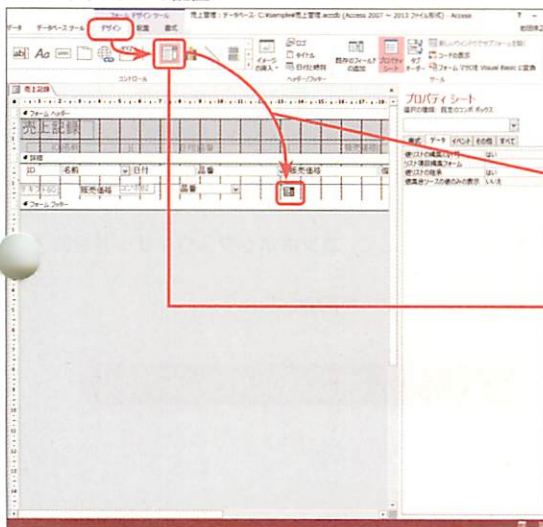
Process

値を指定してコンボボックスを作成するには



コンボボックスのリストをテーブルやクエリから作るのではなく、コンボボックスの中で選択肢を直接指定して作る方法もあります。この方法は、選択肢が事前に決まっていて、その数があまり多くない場合に有効です。

▼コンボボックスの配置

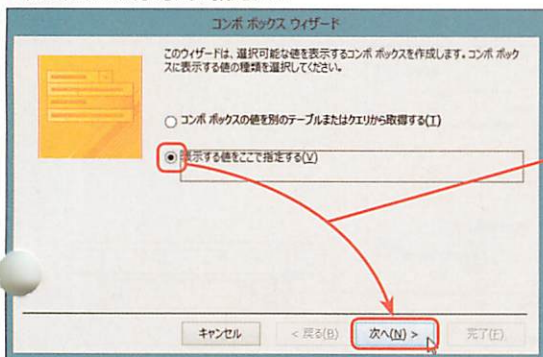


1 デザインコマンドタブからコンボボックスボタンをクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。

1 [コンボボックス] ボタンをクリックし、配置したい場所をクリックします。



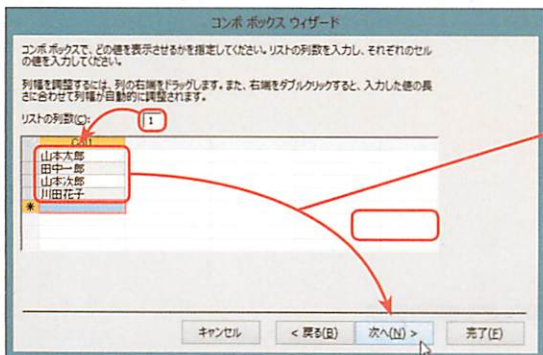
▼値の種類を表示方法を指定する



2 コンボボックスウィザードが起動しますので、値の種類を表示する方法を選んで次へ進みます。

2 [表示する値をここで指定する] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする

▼リストデータの入力



3 リストに表示するデータを入力します。

3 リストの列数を設定し、表にデータを入力して [次へ] ボタンをクリックする

Onepoint

この画面で、列の境界線をドラッグして、表示されるリストの幅を設定することもできます。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

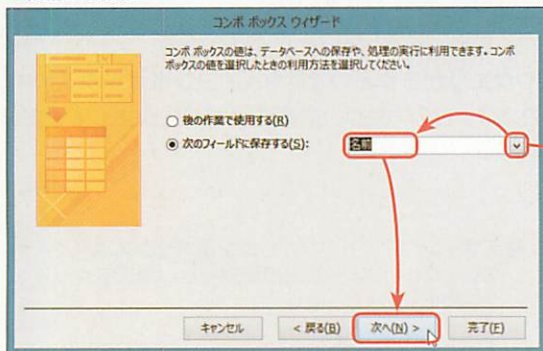
12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

▼格納先の指定



④ 選択したデータをどのフィールドに格納するのかを指定します。

④ [商品] フィールドを指定し、[次へ] ボタンをクリックする

▼コンボボックスウィザードの終了

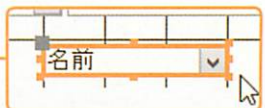
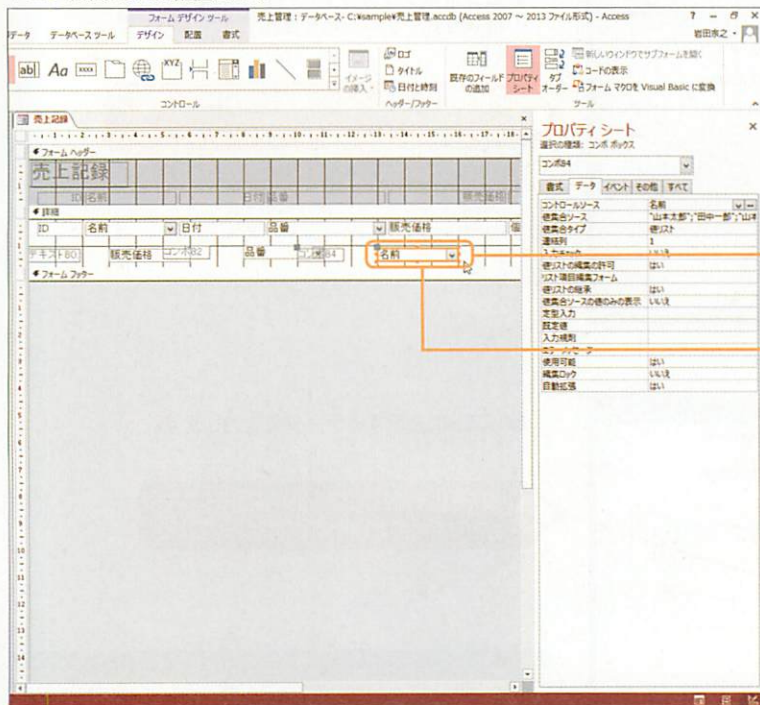


⑤ 名前を指定して、コンボボックスウィザードを終了します。

⑥ コンボボックスが配置されます。

⑤ 名前を入力し、[完了] ボタンをクリックする

▼コンボボックスが配置される



コンボボックスが配置される

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

Process

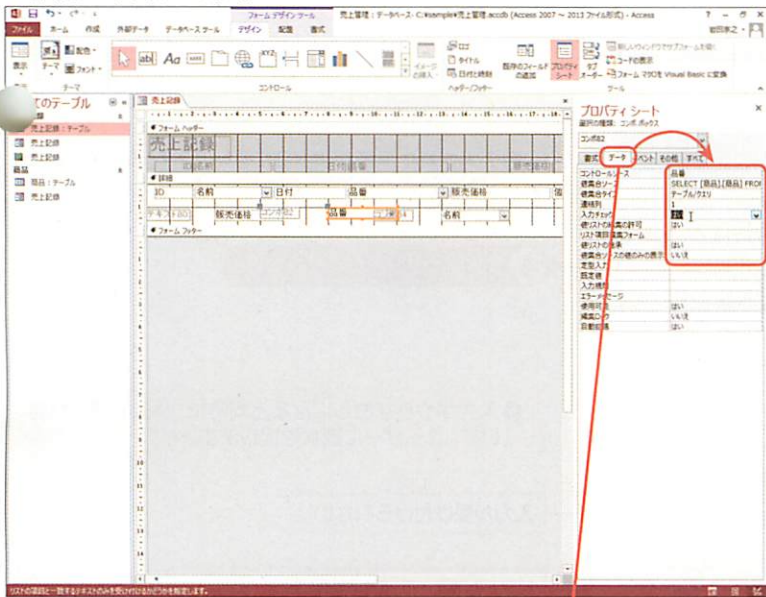
選択肢以外の入力ができないようにするには

コンボボックスには、リストから選択する以外に、キーボードから文字列を直接入力することもできるようになっています。しかし、このことは、選択肢に並んでいる以外の値を直接入力できてしまうということを意味します。このことは、あまり望ましい動作ではありません。

コンボボックスに入力チェックを設定することで、あらかじめ設定されている選択肢以外の入力ができないようにすることができます。これを設定しておけば、間違っただけの入力がされてしまうことを防ぐことができます。

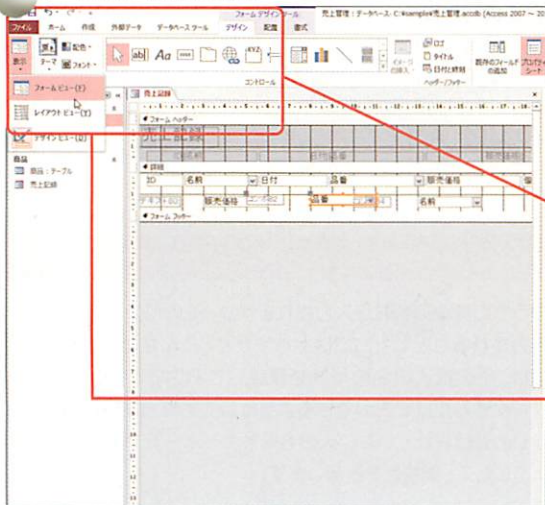
この設定は、プロパティシートで行います。

▼ [入力チェック] プロパティ



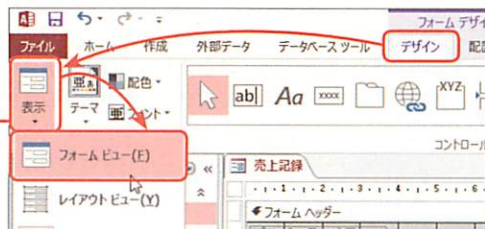
1 [入力チェック] プロパティに [はい] を設定する

フォームビューに切り替える



- 1 データタブの入力チェックプロパティにははいを設定します。
- 2 デザインコマンドタブの表示ボタンをクリックして、フォームビューを選択します。

2 [表示] ボタンをクリックし、[フォームビュー] を選択する



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

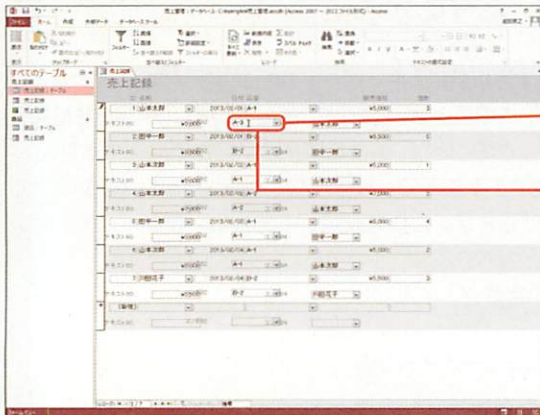
12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

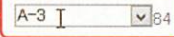
索引
Index

▼選択肢にない品番を入力

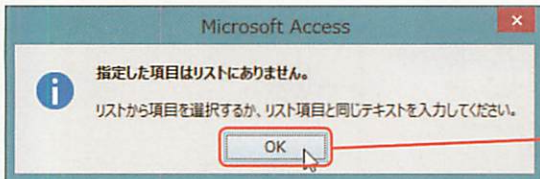


③ キーボードから、選択肢にない品番を入力します。

③ 選択肢にない品番を入力し、[Enter] キーを押す



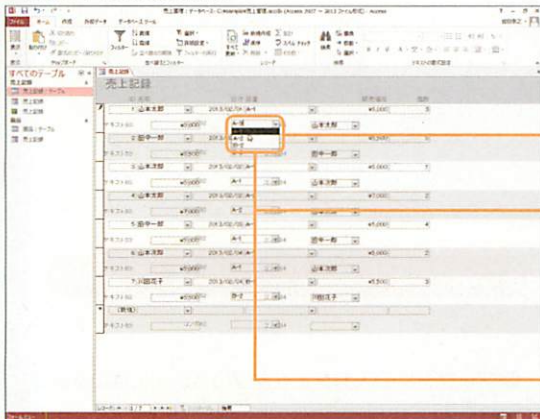
▼メッセージが表示される



④ 入力された品番が選択肢にないことを示すメッセージが表示されるので、OK ボタンをクリックします。

④ [OK] ボタンをクリックする

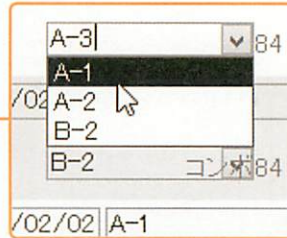
▼入力がやりなおしになる



⑤ 入力がやりなおしになると同時に、リスト部分が開いて、ユーザーに選択を促します。

入力が受け付けられない

リストが開いて、選択を促す



Memo コンボボックスに入力する目的

逆に、選択肢以外の入力をできるようにした方がよいのは、どんなときでしょう。ほとんどの場合で入力項目が決まっているが、たまにそうでない場合もあるという入力項目の場合に、大いに役立ちます。

例えば、売上記録テーブルの名前フィールドを考えてみてください。ほとんどの場合、担当者として決まっている数人

のうちの誰かの名前が入力されますが、その他の人の名前が入力されることもゼロではありません。こんなとき、選択肢には、その数人の名前だけを登録しておいて、マウスをクリックするだけで入力できるようにしておくと同時に、あらかじめ登録されていない人の名前もキーボードで入力できるようにして、柔軟性を確保します。

10.3.3

リストボックスを配置する



リストボックスは、あらかじめ設定された選択肢の中からユーザーが1つを選ぶことができるコントロールです。はたらかきはコンボボックスに似ていますが、キーボードから入力することはできず、マウスで選ぶだけになります。

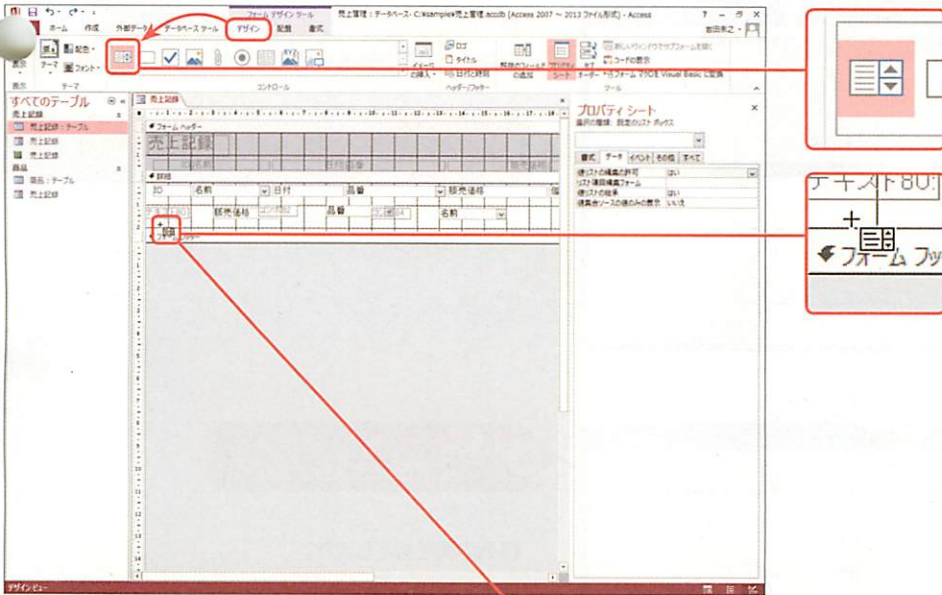
リストボックスの作成方法も、コンボボックスとほぼ同じです。

Process

テーブルまたはクエリの値からリストボックスを作成するには

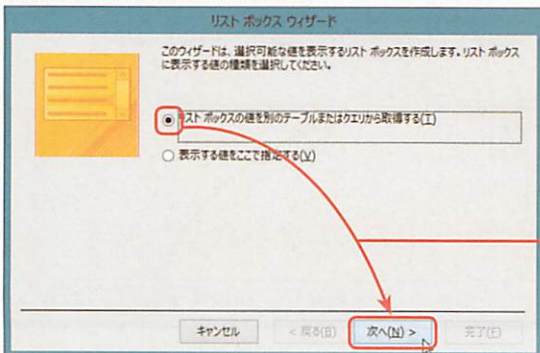
リストボックスに表示する値をテーブルまたはクエリから引き出すには、次のようになります。

▼リストボックスの配置



- 1 [リストボックス] ボタンをクリックし、配置したい場所をクリックする

▼値の種類の表示方法を指定する



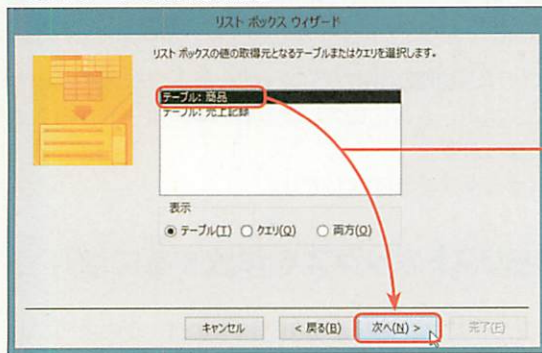
- 1 デザインコマンドタブからリストボックスボタンをクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。
- 2 リストボックスウィザードが起動しますので、値の種類を表示する方法を選んで次へ進みます。

- 2 [テーブルまたはクエリの値をリストボックスに表示する] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする

10
フォームや
レポートの設計11
アプリを
作成する12
テンプレート
の使用13
データベース
作成の手順資料
Appendix索引
Index

10.3 入力のためのコントロール

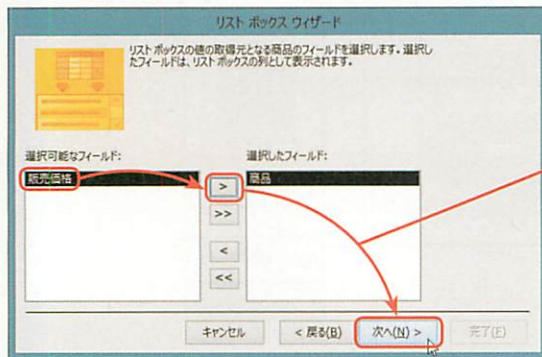
▼リストデータの取得元の指定



③ リストに表示するデータをどのテーブル（もしくはクエリ）から取ってくるかを指定します。

③ [商品] テーブルを選択し、[次へ] ボタンをクリックする

▼フィールドの指定

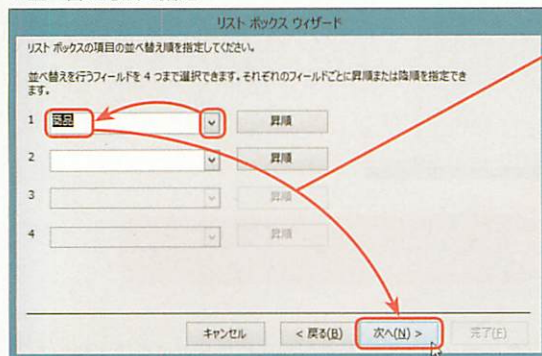


④ どのフィールドをリストに含めるかを指定します。

⑤ リストの並べ替え方法を指定します。

④ [商品] フィールドを選択し、[>] ボタンをクリックして追加し、[次へ] ボタンをクリックする

▼並べ替え方法の指定

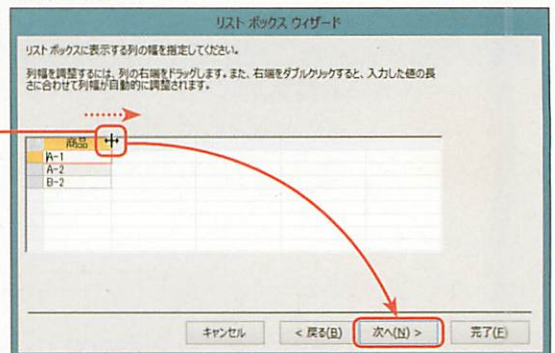


⑤ [商品] フィールドを選択し、[次へ] ボタンをクリックする

⑥ 列の幅を指定します。

⑥ 列の幅を調整し、[次へ] ボタンをクリックする

▼列幅の指定



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

Memo



並べ替えが必要ないなら、空白のままにします。

Hint

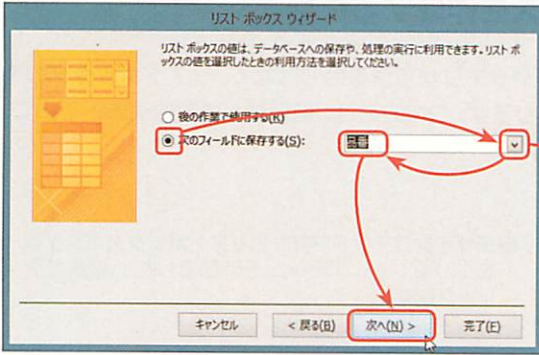


④ で複数の列を指定した場合には、ここで列をドラッグして順番を入れ替えることができます。また、キー列をリストに表示するかどうかを指定することもできます。

資料
Appendix

索引
Index

▼格納先の指定



7 選択したデータをどのフィールドに格納するのかを指定します。

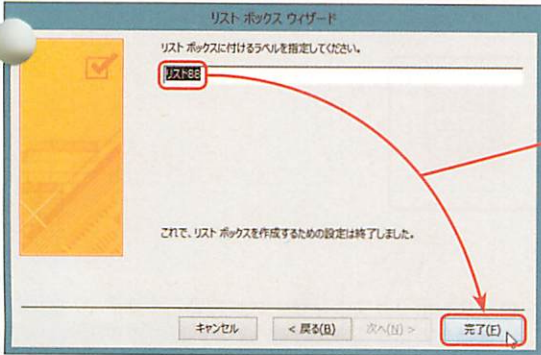
7 [商品] フィールドを指定し、[次へ] ボタンをクリックする

Onepoint



後の作業で使用するを選択すると、コントロールとフィールドとの結び付けが行われません。これは、Visual Basic を使って様々な機能を作り込むときには必要になりますが、通常の使い方では必要になることはありません。

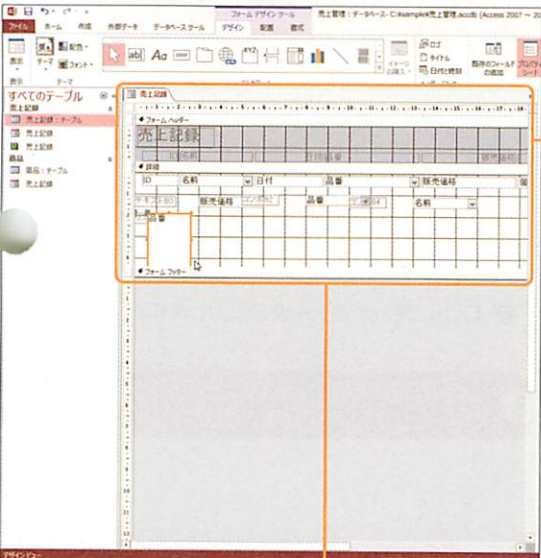
▼リストボックスウィザードの終了



8 名前を指定して、リストボックスウィザードを終了します。

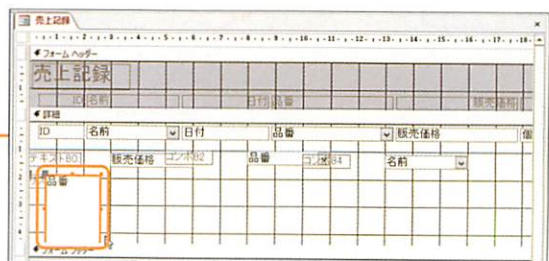
8 名前を入力して [完了] ボタンをクリックする

▼リストボックスが配置される



9 リストボックスが配置されます。

リストボックスが配置される



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

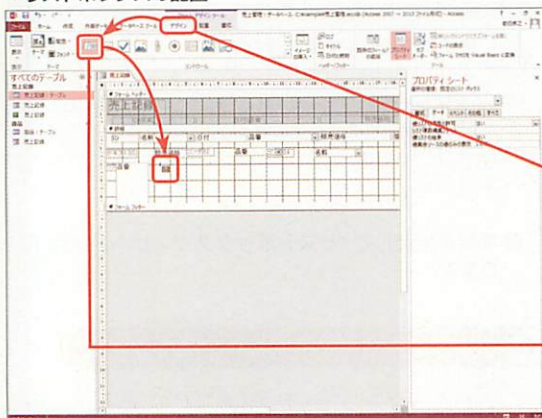
Process

値を指定してリストボックスを作成するには



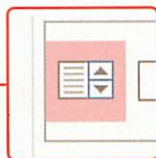
リストボックスのリストをテーブルやクエリから作るのではなく、リストボックスの中で選択肢を直接指定して作る方法もあります。この方法は、選択肢が事前に決まっていて、その数があまり多くない場合に有効です。

▼リストボックスの配置

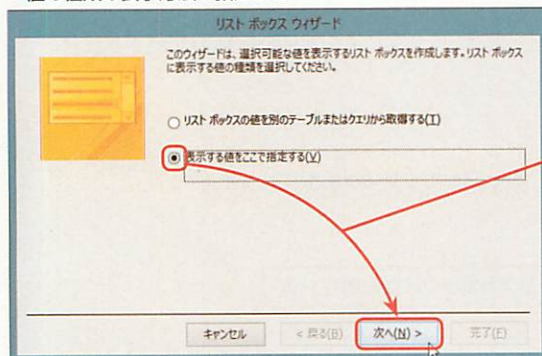


① デザインコマンドタブからリストボックスボタンをクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。

① [リストボックス] ボタンをクリックし、配置したい場所をクリックする



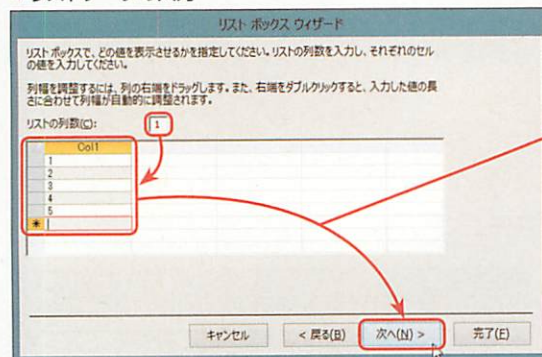
▼値の種類の表示方法を指定する



② リストボックスウィザードが起動しますので、値の種類を表示する方法を選んで次へ進みます。

② [表示する値をここで指定する] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする

▼リストデータの入力



③ リストに表示するデータを入力します。

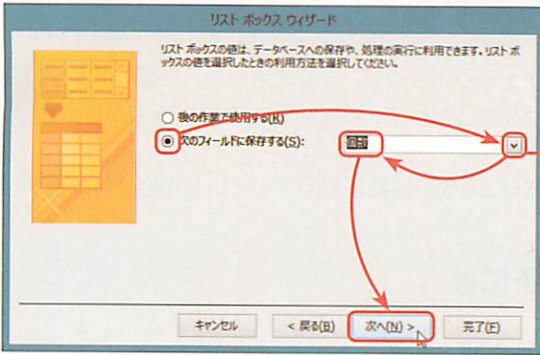
③ リストの列数を設定し、表にデータを入力して [次へ] ボタンをクリックする

Onepoint



この画面で、列の境界線をドラッグして、表示されるリストの幅を設定することもできます。

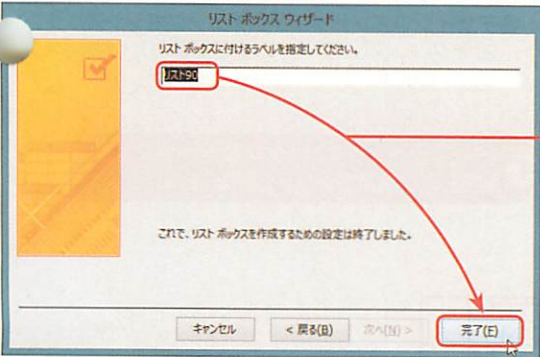
▼格納先の指定



4 選択したデータをどのフィールドに格納するのかを指定します。

4 [商品] フィールドを指定し、[次へ] ボタンをクリックする

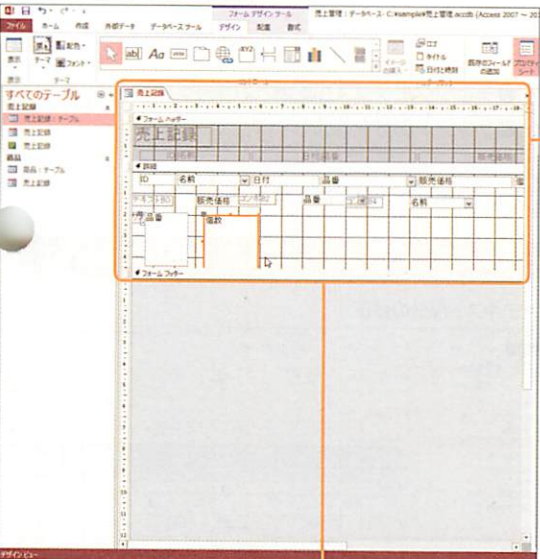
▼リストボックスウィザードの終了



5 名前を指定して、リストボックスウィザードを終了します。

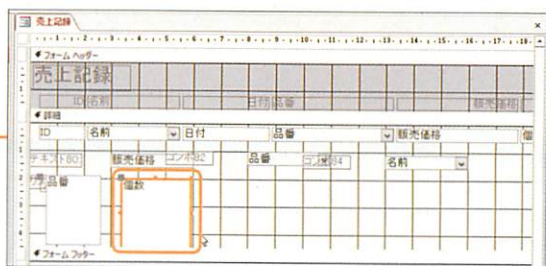
5 名前を入力して、[完了] ボタンをクリックする

▼リストボックスが配置される



6 リストボックスが配置されます。

リストボックスが配置される



- 10 フォームやレポートの設計
- 11 アプリを作成する
- 12 テンプレートの使用
- 13 データベース作成の手順

10.3.4 入力のためのボタンを配置する



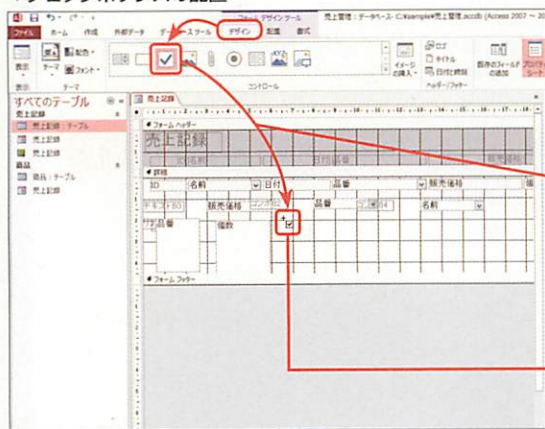
データ入力のためのボタンとして、チェックボックス、ラジオボタン、トグルボタンの3種類があります。この3種類は、見かけが違っただけで、機能は同一です。YesかNoか、といった2つの値を保持します。

こうしたボタンを単独で使用するときは、ボタンに論理型のフィールドを結び付けます。

Process チェックボックスを配置するには

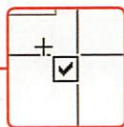
チェックボックスを配置するには、次のようにします。

▼チェックボックスの配置

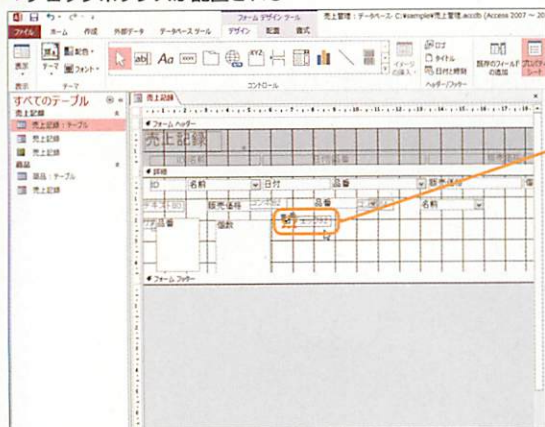


1 デザインコマンドタブからチェックボックスボタン をクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。

1 「[チェックボックス] ボタン 」をクリックし、配置したい場所をクリックする



▼チェックボックスが配置される

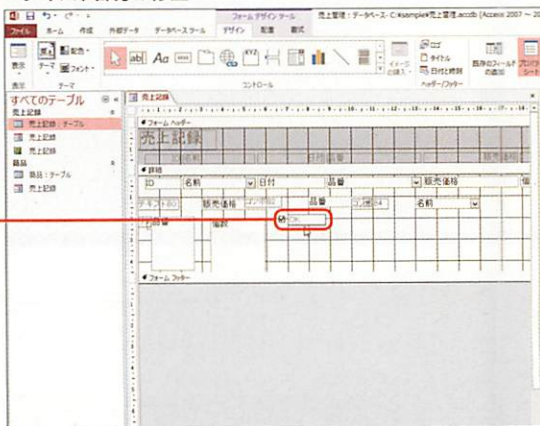


2 チェックボックスが配置されます。
3 テキスト部分を修正します。

チェックボックスが配置される

3 テキスト部分をクリックし、キーボードで編集する

▼テキスト部分の修正



チェックボックスにデータを結び付けるには、「フィールドを割り当てる」で説明した方法を使ってフィールドを割り当てる必要があります。

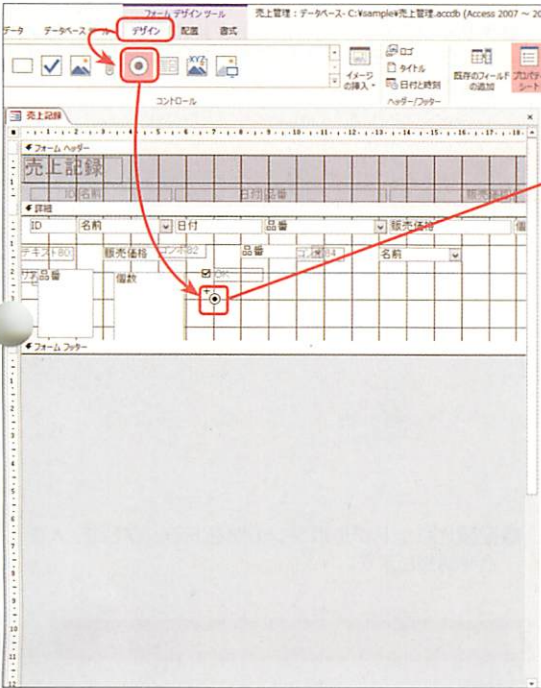
10
フォームや
レポートの設計11
アプリを
作成する12
テンプレートの
使用13
データベース
作成の手順資料
Appendix索引
Index

Process

ラジオボタンを配置するには

ラジオボタンを配置するには、次のようにします。

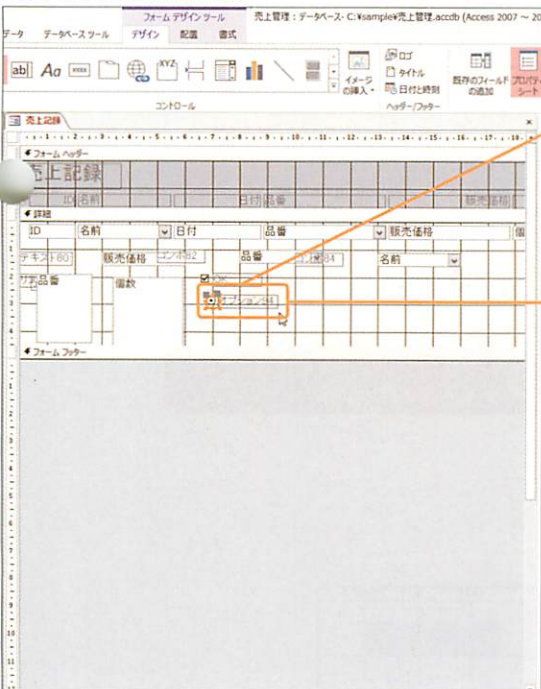
▼ラジオボタンの配置



① デザインコマンドタブからラジオボタンボタンをクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。

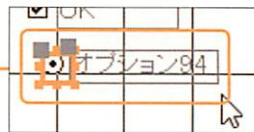
① [ラジオボタン] ボタンをクリックし、配置したい場所をクリックする

▼ラジオボタンが配置される



② ラジオボタンが配置されます。

ラジオボタンが配置される



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

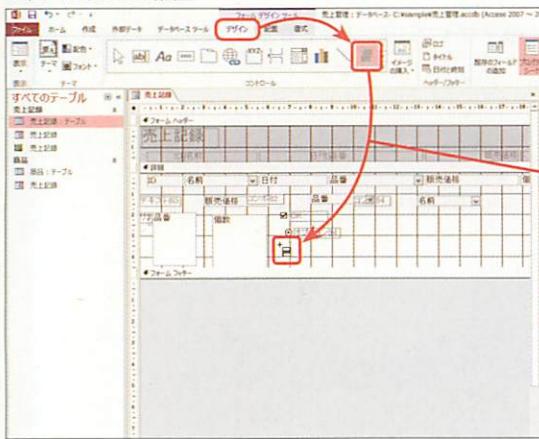
索引
Index

Process

トグルボタンを配置するには

トグルボタンを配置するには、次のようにします。

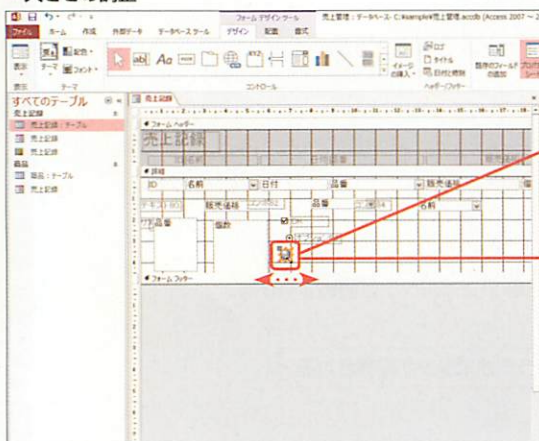
▼トグルボタンの配置



① デザインコマンドタブからトグルボタンをクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。

① [トグルボタン] ボタンをクリックし、配置したい場所をクリックする

▼大きさの調整

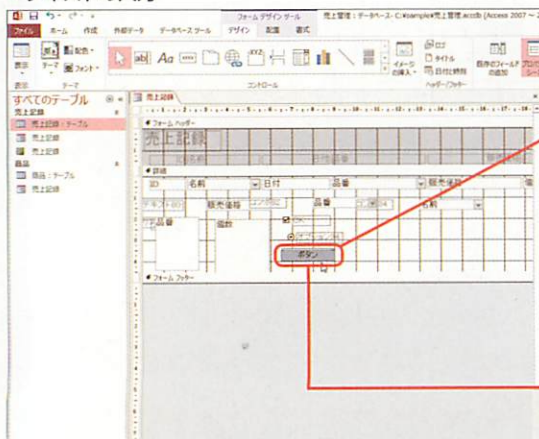


② 配置されたトグルボタンの端をドラッグして、大きさを調整します。

② 配置されたトグルボタンの右端をドラッグする



▼テキストの入力



③ テキストを入力します。

③ トグルボタンの内側をクリックし、テキストを編集する



10.3.5 グループを配置する



グループは、いくつかのボタンを排他的に選択させるための仕組みです。グループの中にはいくつかのボタンがあり、どれかをオンにするとそれ以外のボタンはオフになります。これによって、複数の選択肢からどれか1つを選ぶことができます。

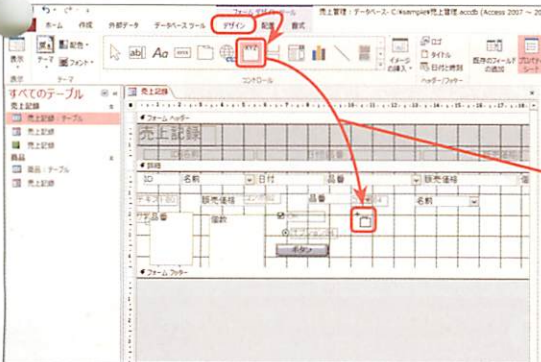
グループで使われるのは主にラジオボタンですが、チェックボックスやトグルボタンを使うこともできます。

Process

グループを配置するには

グループを配置するには、次のようにします。

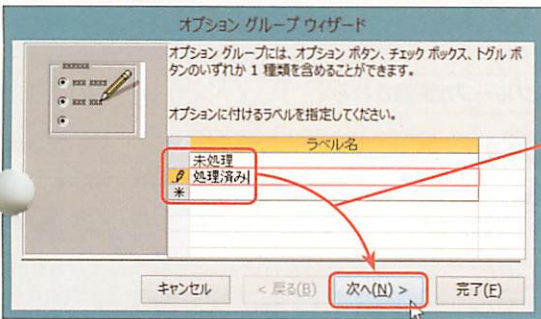
▼ラベルの配置



① デザインコマンドタブからグループボタンをクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。

① [グループ] ボタンをクリックし、配置したい場所をクリックする

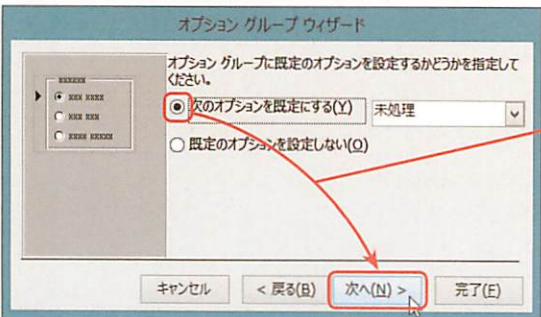
▼グループの項目名を入力する



② オプショングループウィザードが表示されます。まずは、そのグループに含まれる項目名を入力します。

② 項目名を入力し、[次へ] ボタンをクリックする

▼既定のオプションを選択する



③ 既定のオプションを選択します。

③ 既定のオプションを選択し、[次へ] ボタンをクリックする

Onepoint

既定のオプションとは、フォームを最初に開いたとき、どのオプションを選択された状態にするかを指定するものです。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

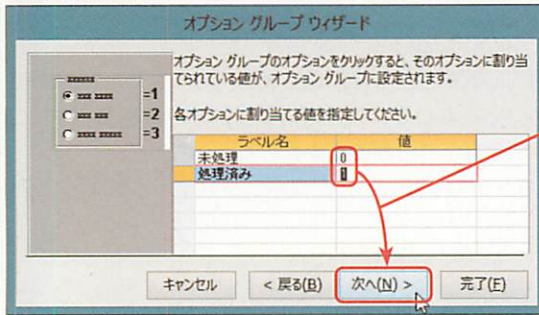
13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

10.3 入力のためのコントロール

▼値を設定する



4 項目名に対して値を設定します。

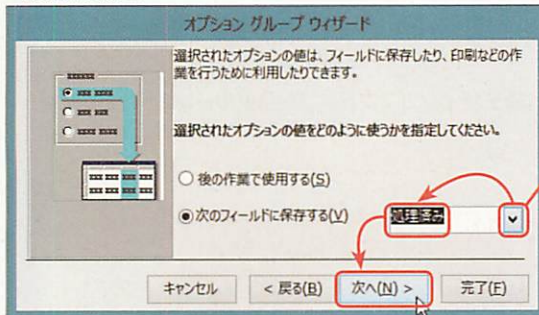
4 項目名に対して値を設定し、**[次へ]** ボタンをクリックする

Onepoint



グループをフィールドに割り当てたとき、ここで指定した値がフィールドの値として格納されます。

▼格納先の指定



5 選択したデータをどのフィールドに格納するのかを指定して、**次へ**ボタンをクリックします。

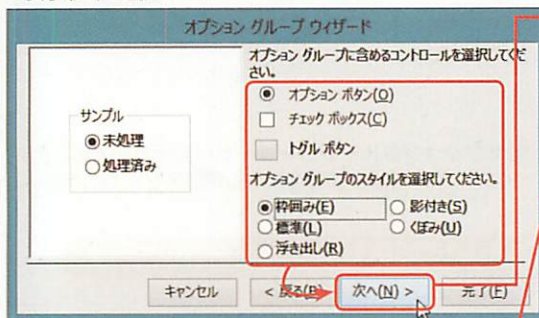
5 **[処理済み]** フィールドを指定し、**[次へ]** ボタンをクリックする

6 表示形式を選択して、**次へ**ボタンをクリックします。

7 グループの名前を指定して、ウィザードを終了します。

8 グループが配置されます。

▼表示形式の選択



6 ボタンの形式と枠の表示形式を選択し、**[次へ]** ボタンをクリックする

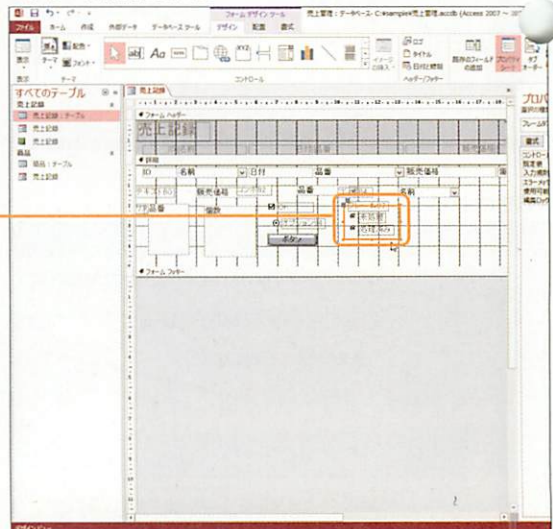
7 名前を入力して、**[完了]** ボタンをクリックする

グループが配置される

▼ウィザードの終了



▼グループが配置される



Onepoint

ここで指定した名前が、グループ枠の上側に表示されます。ですから、意味のある名前を付けるようにします。

10

フォームやレポートの設計

11

アプリを作成する

12

テンプレートの使用

13

データベース作成の手順

資料 Appendix

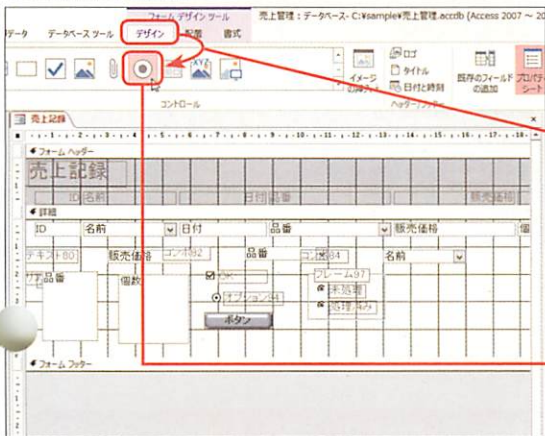
索引 Index

Process

グループに項目を追加するには

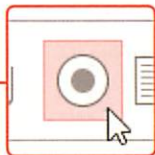
グループを作成したあとで、その中の項目を追加するには、次のように操作します。

▼ラジオボタンの配置

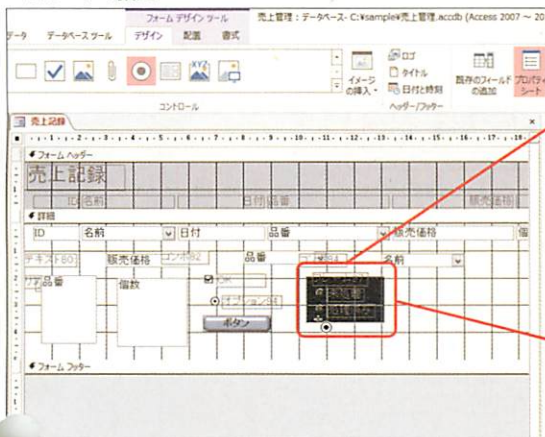


① デザインコマンドタブからラジオボタンボタンをクリックします。

① [ラジオボタン] ボタンをクリックする

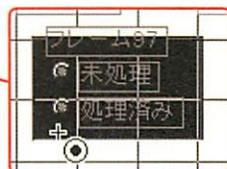


▼グループの指定

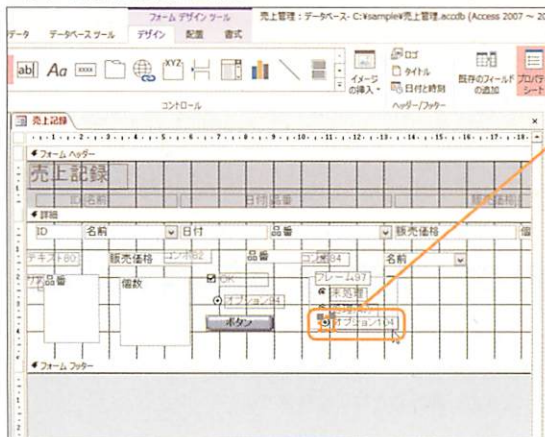


② 配置したいグループをクリックします。

② 配置したいグループをクリックする



▼ラジオボタンが配置される



③ ラジオボタンが配置されます。

ラジオボタンが配置される

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

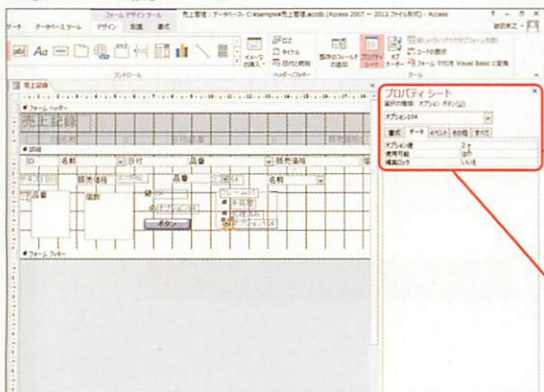
12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

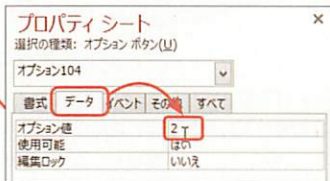
索引
Index

▼ [オプション値] プロパティ

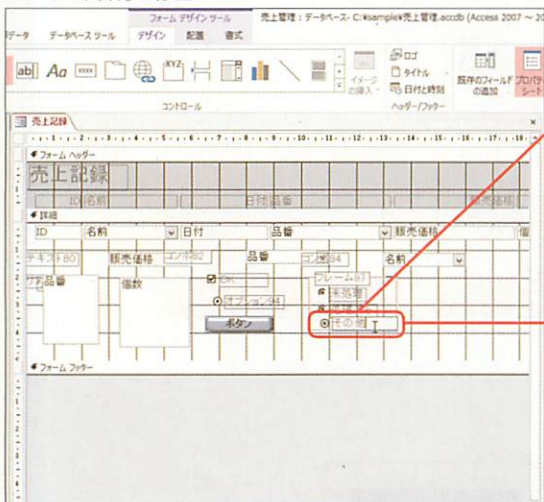


4 プロパティシートで、データタブのオプション値プロパティに値を設定します。

4 [データ] タブを選択し、[オプション値] プロパティに値を設定する

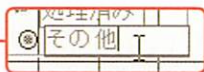


▼ テキスト部分の修正



6 テキスト部分を修正します。

5 テキスト部分をクリックし、キーボードで編集する



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

Memo コントロールを表示専用にする

フォームによっては、あるフィールドを書き換えることができないように設定したいことがあります。フォーム全体を更新不可能に設定する方法は「10.2.3 フォームのプロパティ」で説明しましたが、一部のコントロールだけを更新不可能にするには、**データタブの使用可能**と**編集ロック**という2つのプロパティを変更します。

この2つのプロパティを変更すると、次のように動作が変わります。

使用可能	編集ロック	動作
はい	いいえ	入力が可能になります。
いいえ	いいえ	コントロールが灰色で表示され、選択できなくなります。
はい	はい	カーソルの移動やドロップダウンはできますが、変更はできません。
いいえ	はい	コントロールは通常通りの表示ですが、選択できなくなります。



デザインのための コントロール

● SampleData
http://www.shuwasytem.co.jp/
books/accessper2013/



Keyword ● ラベル ● ハイパーリンク ● ピクチャ ● タブ

ここでは、データには関係せず、見ばえを変化させるだけのコントロールをまとめて説明します。

Point デザインのためのコントロール

デザインのためのコントロールには、次のものがあります。

● ラベル

● 直線

● 四角形

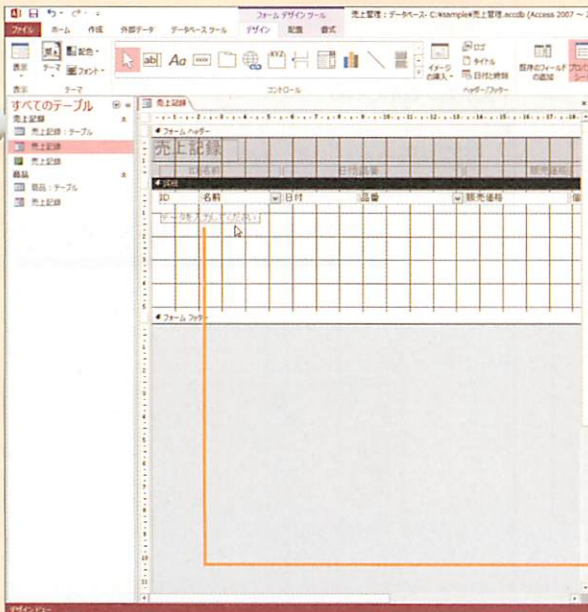
● ピクチャ

● タブ

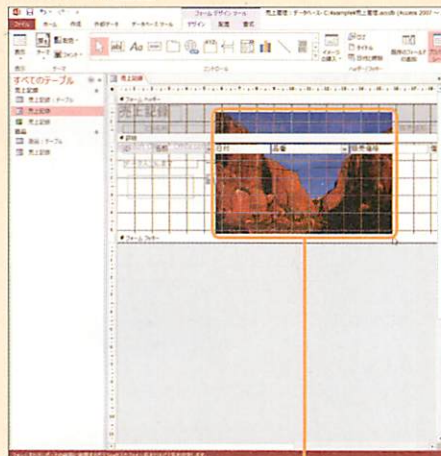
テキストボックスやコンボボックスを並べただけのフォームは、あまり見やすくありません。ラベルや直線、四角形などを使って、フォームやレポートをわかりやすく、見やすくします。

また、タブを使うと、フォームを複数ページに分割することができます。たくさんの情報を持つレコードを編集するときに重宝します。

▼ラベルの配置



▼ピクチャの配置



好きな画像を
挿入できる

ラベルの文字列

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

10.4.1 ラベルを配置する

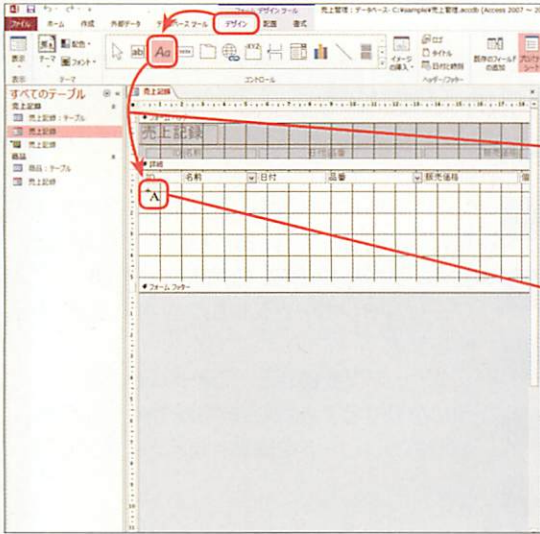


データの内容を表示するテキストボックスに対して、ラベルは見出しを提供します。デザインビューで追加されたラベルは、フォームビューなどに切り替えたときに、そのまま表示されます。

Process ラベルを配置するには

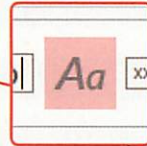
ラベルを配置するには、次のようにします。

▼ラベルの配置



① デザインコマンドタブからラベルボタンをクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。

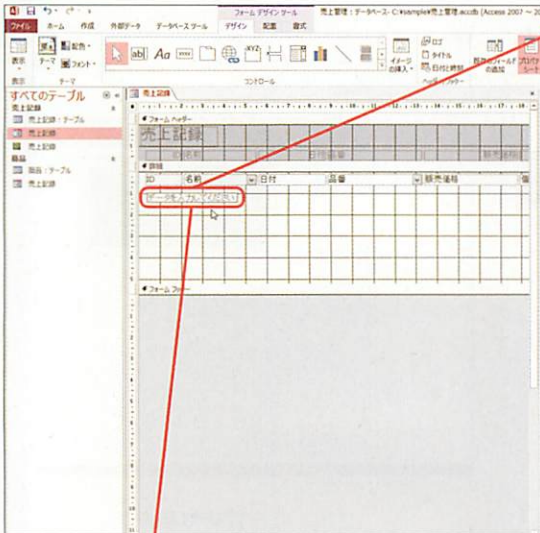
① [ラベル] ボタンをクリックし、配置したい場所をクリックする



② ラベルとして表示したい文字列をキーボードから入力します。

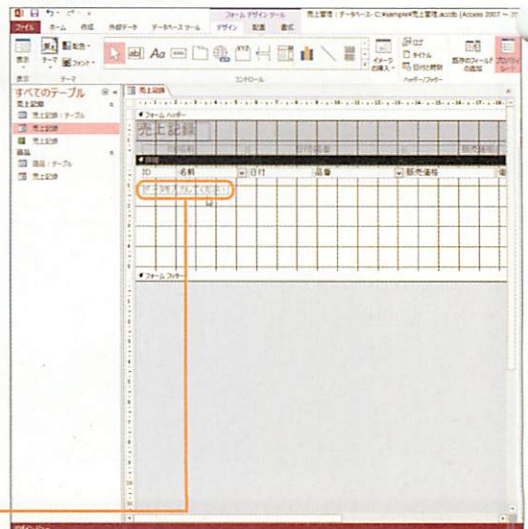
③ 入力した文字列が表示されます。

▼文字列の入力

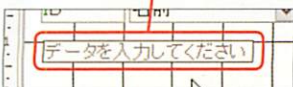


② 文字列を入力する

▼文字列が表示される



文字列が表示される



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

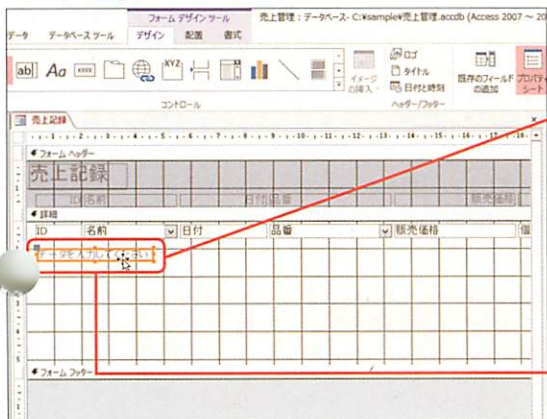
Process

ラベルの文字列を編集するには



一度作成したラベルの文字列を変更したい場合、あるいはテキストボックスやコンボボックスを配置したときに同時に配置されるラベルの内容を変更したい場合は、次のようにします。

▼ラベルの選択

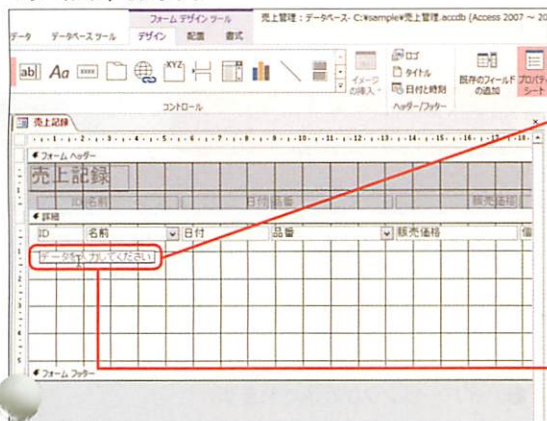


① ラベルを選択します。

① ラベルをクリックする

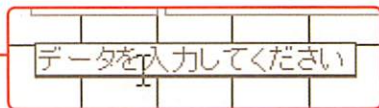


▼ラベルの中をクリック

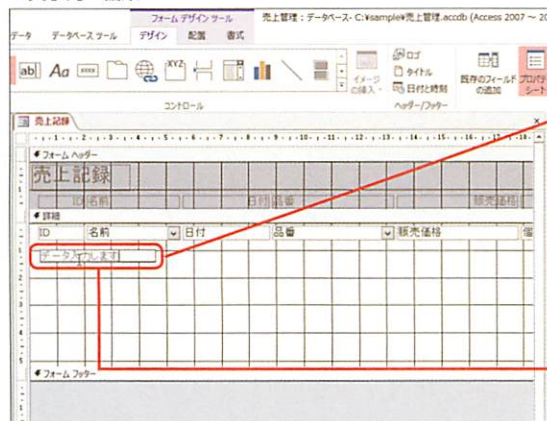


② ラベルの中をもう一度クリックします。

② ラベルの中をもう一度クリックする

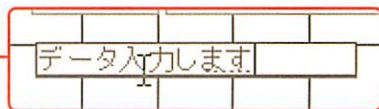


▼文字列の編集



③ 文字列を編集します。

③ 文字列を編集する



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

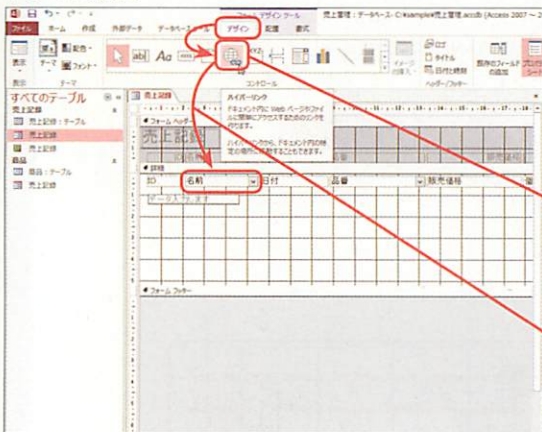
Process

ハイパーリンクを配置するには



ハイパーリンクは、クリックすることでWebページや他のファイルなどが開くようになっているラベルです。ハイパーリンクを配置するには、次のように操作します。

▼ラベルの配置

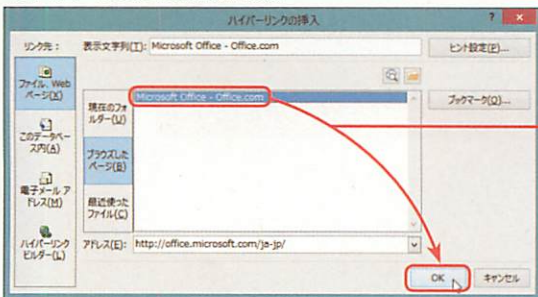


1 デザインコマンドタブからハイパーリンクボタンをクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。



1 [ハイパーリンク] ボタンをクリックし、配置したい場所をクリックする

▼ハイパーリンクの先を設定する



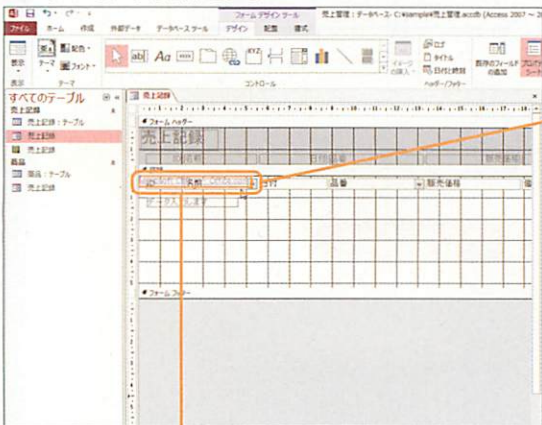
2 ハイパーリンクの先を設定します。

2 ハイパーリンクの先を設定して、[OK] ボタンをクリックする

Onepoint

ハイパーリンク挿入ダイアログの詳しい使い方は、「3.7.5 URLを入力する」を参照してください。

▼ハイパーリンクが表示される

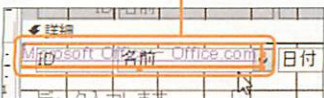


3 ハイパーリンクが表示されます。

ハイパーリンクが表示される

Onepoint

ハイパーリンクに対して「ラベルの文字列を編集する」の要領で文字列を編集することで、表示される文字列を変更することができます。ここを編集しても、ハイパーリンクのジャンプ先は変わりません。



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

10.4.2 直線を配置する

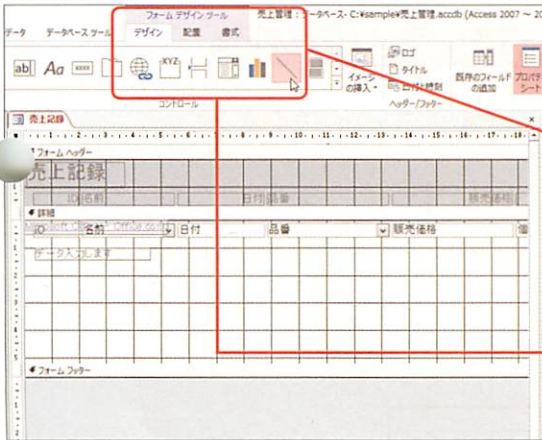
フォームやレポートを見やすくするために、仕切りのための線を入れることができます。

Process

直線を配置するには

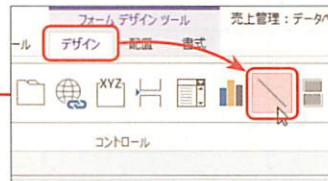
直線を配置するには、次のようにします。

▼ラベルの配置

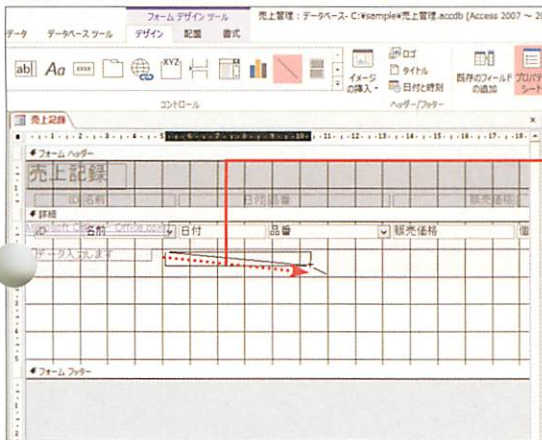


① デザインコマンドタブから直線ボタンを選択します。

① [直線] ボタンを選択する



▼マウスをドラッグする

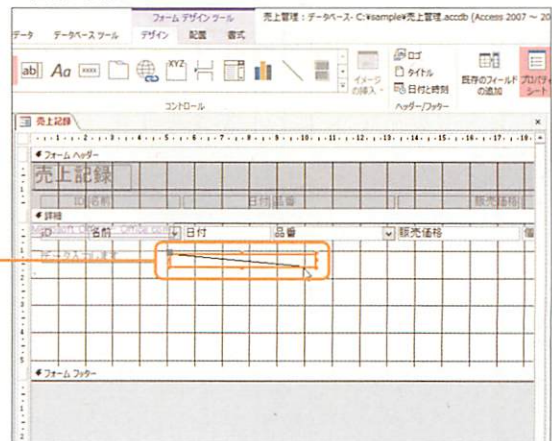


② 直線の始点から終点まで、マウスをドラッグします。

③ 直線が表示されます。

② 始点でマウスの左ボタンを押し、マウスをドラッグする

▼直線が表示される



直線が表示される

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

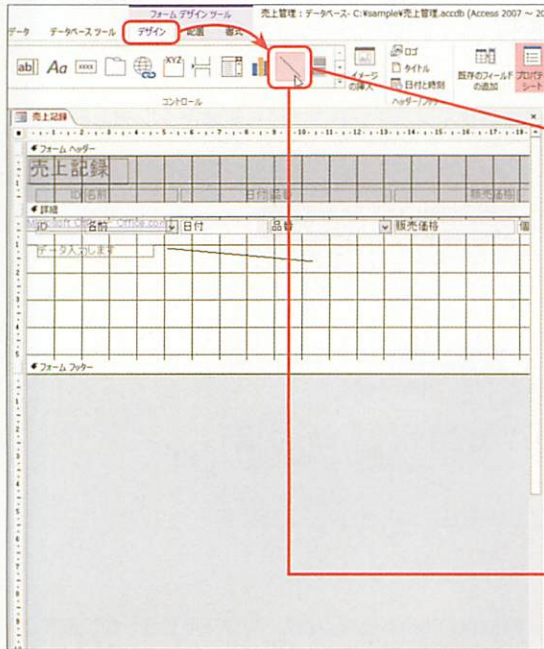
Process

縦あるいは横の線を配置するには



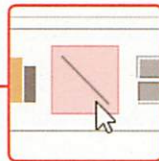
直線を配置するときは、斜めの線ではなく、縦線か横線を引きたい場合がほとんどです。マウスをドラッグする方法では、完全に縦あるいは横に合わせるのは面倒な作業になってしまいますので、縦線あるいは横線を引くには、次のような特別な方法が用意されています。

▼ラベルの配置

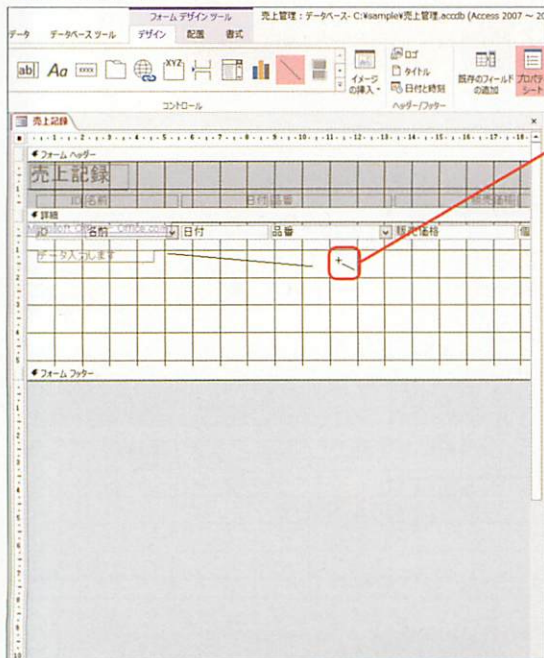


① デザインコマンドタブから直線ボタンをクリックします。

① [直線] ボタンをクリックする



▼始点を決定する



② [Shift] キーを押しながら、マウスの左ボタンを押します。

② [Shift] キーを押しながら、マウスの左ボタンを押す

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

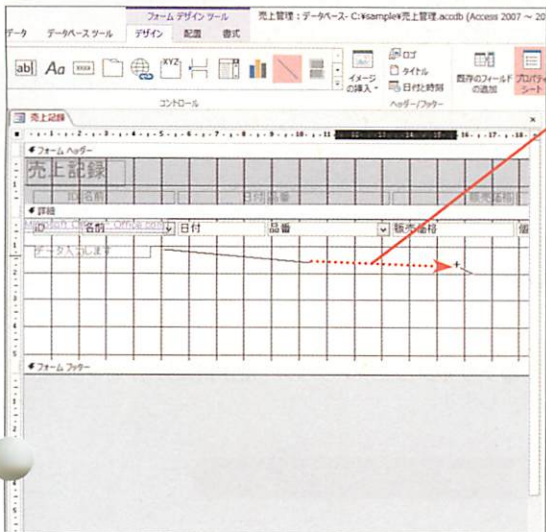
12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

▼マウスをドラッグする



③ 縦または横にマウスをドラッグします。

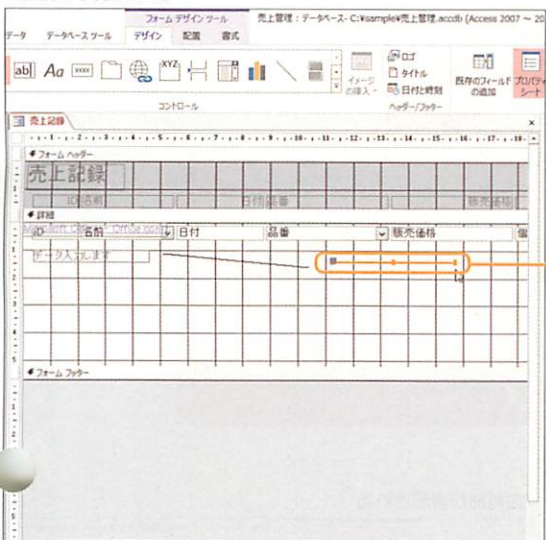
③ マウスをドラッグする

Onepoint



ドラッグ中、描画予定の線が見えにくいことがあるので注意します。ドラッグ中に位置を確認するには、フォーム画面を見るよりは、ルーラーに黒く表示される範囲を見る方がわかりやすいでしょう。

▼直線が表示される



④ 直線が表示されます。

直線が表示される



Hint

Shiftキーを使った操作の有効範囲

ここで説明した方法は、直線だけでなく、すべてのコントロールについて有効です。また、配置時だけでなく、コントロールの大きさを変更するときにも有効です。テキストボックスの大きさを変更するとき、**[Shift]** キーを押しながら変更すると、横あるいは縦方向のどちらかにしかドラッグできないようになります。

[Shift] キーを押しながらのドラッグは、Accessの他にも多くのWindowsアプリケーションで有効な操作法なので、覚えておきましょう。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

10.4.3 四角形を配置する

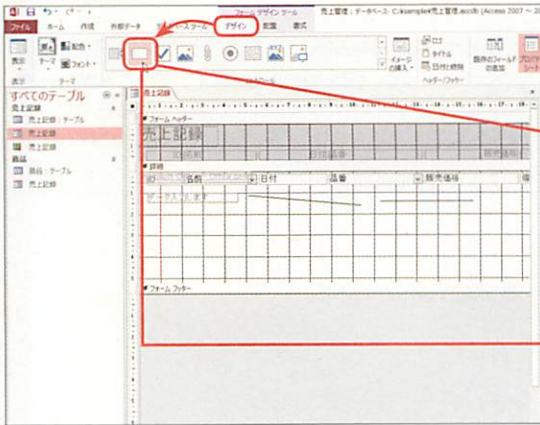


範囲を明確にしたり、枠を表示したりする場合などに、フォームやレポートに四角形を配置することができます。

Process 四角形を配置するには

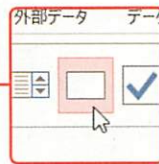
四角形を配置するには、次のようにします。

▼ラベルの配置

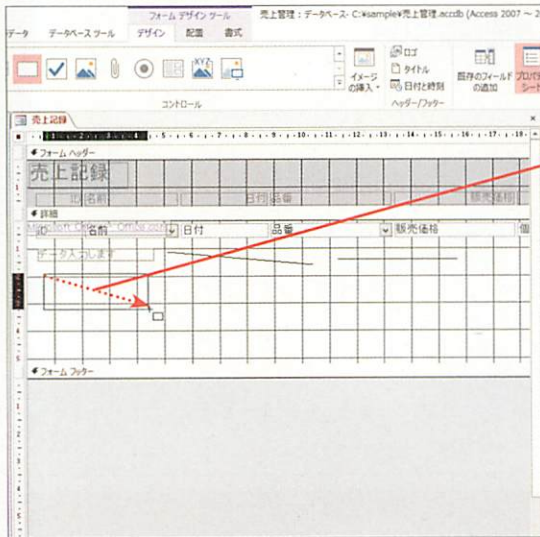


1 デザインコマンドタブから四角形ボタンをクリックします。

1 [四角形] ボタンをクリックする



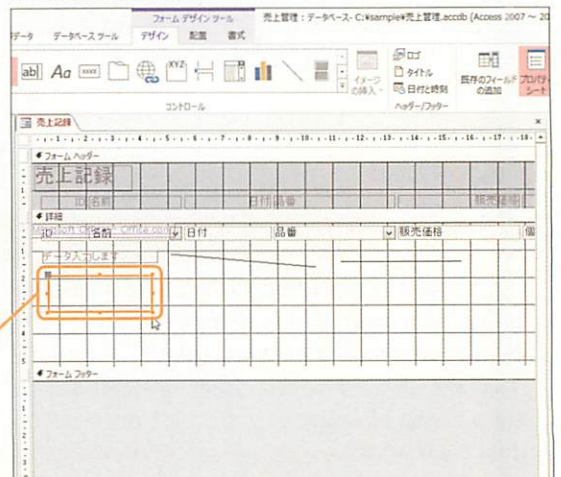
▼マウスをドラッグする



2 四角形の始点から終点まで、マウスをドラッグします。
3 四角形が表示されます。

2 始点でマウスの左ボタンを押し、マウスをドラッグする

▼四角形が表示される



四角形が表示される

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

10.4.4 画像を配置する



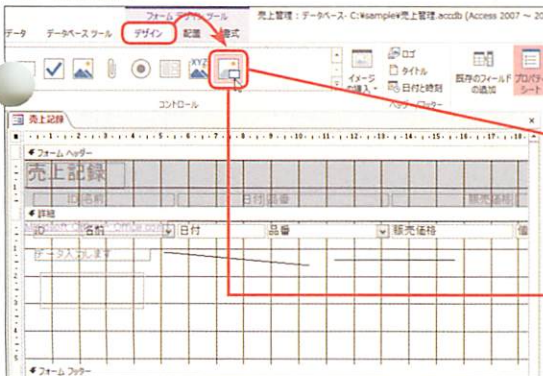
フォームやレポートに画像を配置することができます。小さい画像を用意してアイコンのように配置することもできますし、大きな画像を壁紙のように配置することもできます。

Process

ピクチャを配置するには

フォームやレポートに画像を配置するには、配置対象となる画像ファイルを用意した上で、次のように操作します。

▼ラベルの配置

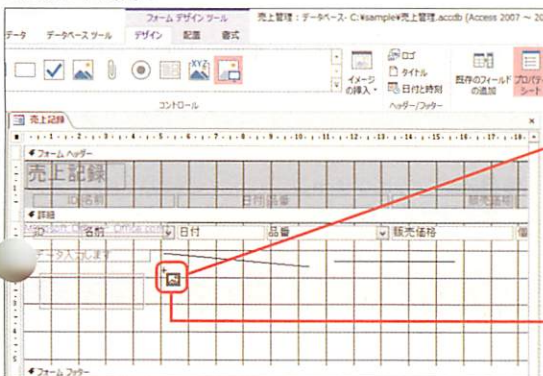


① デザインコマンドタブからピクチャボタンをクリックします。

① [ピクチャ] ボタンをクリックする

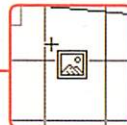


▼ピクチャの配置

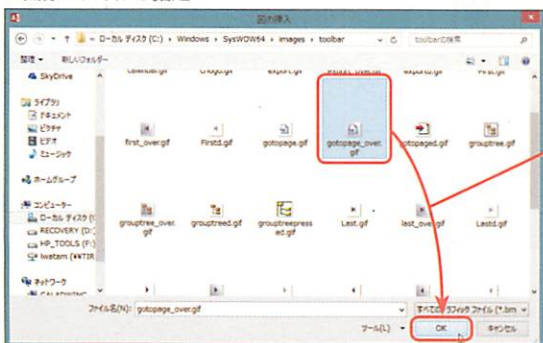


② フォームをクリックして、ピクチャを配置する場所を決めます。

② フォーム上をクリックする



▼画像ファイルの指定



③ 図の挿入ダイアログが表示されますので、画像ファイルを指定します。

③ 画像ファイルを指定する

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

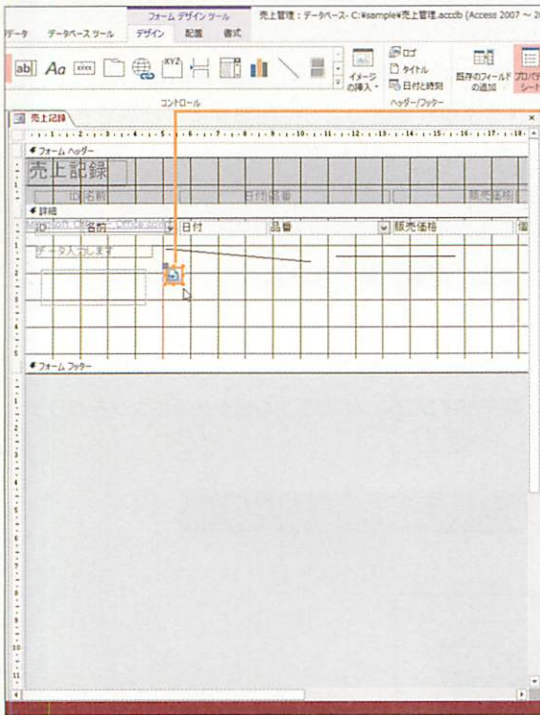
12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

▼画像が表示される



④ 画像が表示されます。

画像が表示される

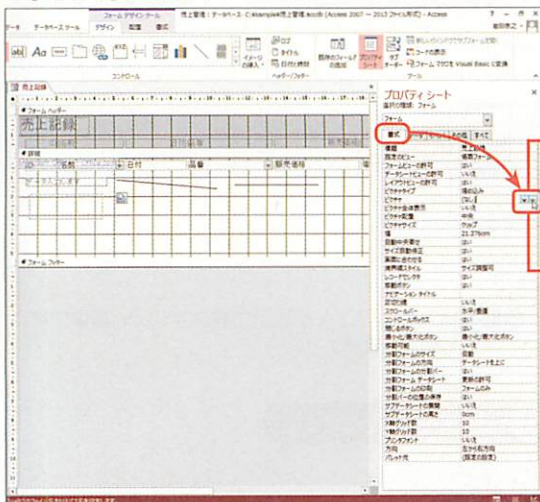
Process

フォームの背景を設定するには



フォームの背景に画像を設定するには、ピクチャコントロールを使う必要はありません。フォームのプロパティを操作して、背景を設定することができます。

▼ [ピクチャ] プロパティ



① 書式タブのピクチャプロパティの横の [...] ボタンをクリックします。

① [ピクチャ] プロパティから [...] ボタンをクリックする



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

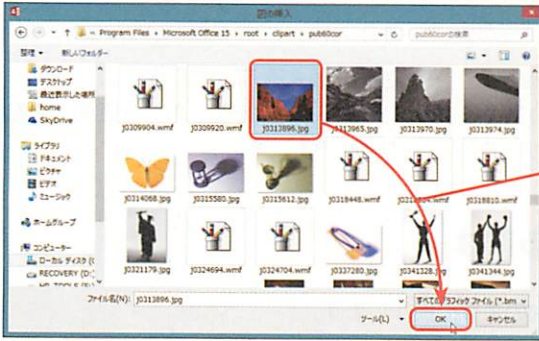
12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

▼画像ファイルの指定

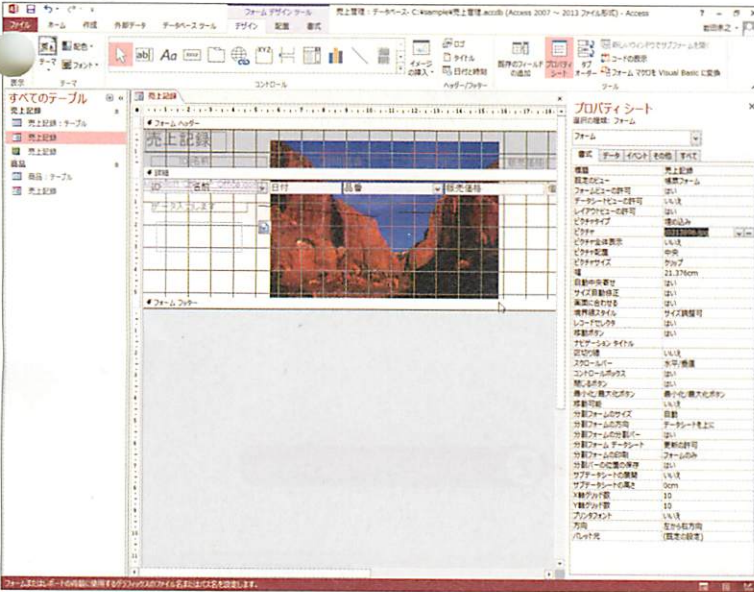


② 図の挿入ダイアログが表示されますので、画像ファイルを指定します。

③ フォームに背景が設定されます。

2 画像ファイルを指定し、[OK] ボタンをクリックする

▼画像が表示される



背景が設定される

Memo 背景に関するプロパティ

背景を設定したとき、次のプロパティを使って、背景の細かな表示方法を設定することができます。

プロパティ	意味
ピクチャ全体表示	「はい」にすると、画像のサイズが小さいとき、繰り返し表示します。
ピクチャ配置	画像をフォームのどこに表示するかを指定します。
ピクチャタイプ	「リンク」にすると、指定した画像ファイルを表示のときに参照します。
ピクチャサイズ	画像のサイズをフォームのサイズに合わせて拡大します。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

10.4.5 タブを配置する



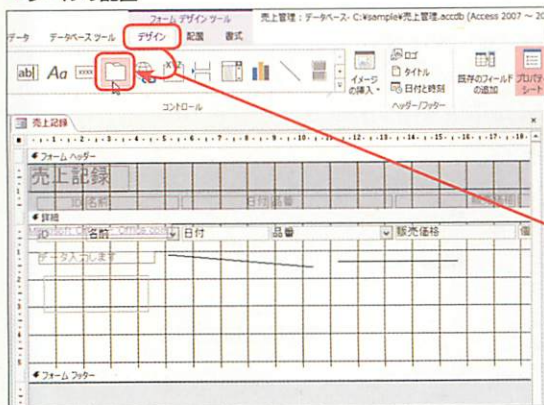
タブコントロールは、タブを使って複数のページを切り替えることのできるコントロールです。フォームの一部をタブで切り替えるようにすることによって、小さな画面でもたくさんのコントロールを配置することができるようになります。

Process

タブコントロールを配置するには

タブコントロールを配置するには、次のように操作します。

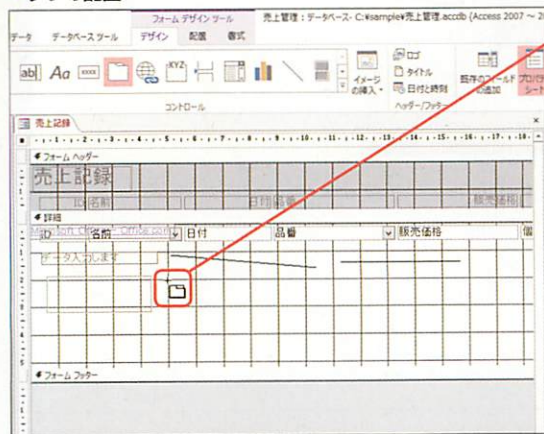
▼ラベルの配置



- 1 デザインコマンドタブからタブボタンをクリックします。
- 2 フォームをクリックして、タブを配置する場所を決めます。
- 3 タブが表示されます。

1 [タブ] ボタンをクリックする

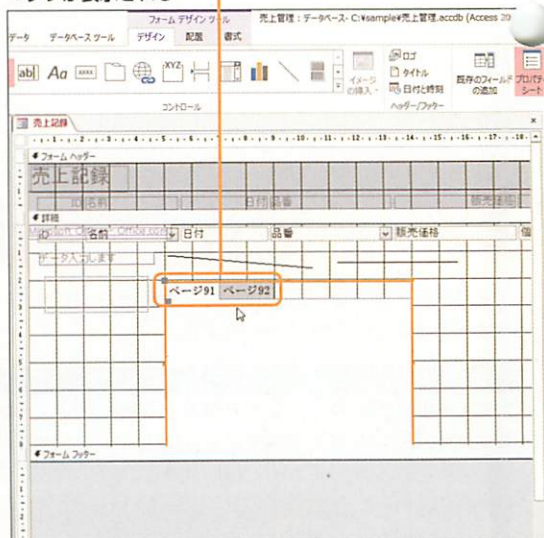
▼タブの配置



2 フォーム上をクリックする

タブが表示される

▼タブが表示される



Onepoint



タブコントロールを配置したら、次に、タブコントロールに対してコントロールを追加します。単に既存のコントロールをページにドラッグするだけでは、ページにコントロールを配置することはできません。既存のコントロールをページ内に移動させたい場合には、コントロールをカットアンドペーストで貼り付けます。

10
フォームや
レポートの設計11
アプリを
作成する12
テンプレートの
使用13
データベース
作成の手順資料
Appendix索引
Index

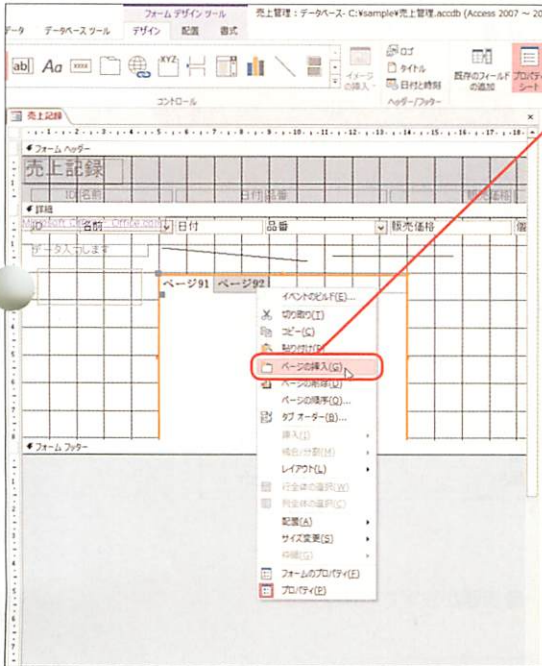
Process

ページを追加するには



タブコントロールを配置すると、2枚のページがあるタブが作成されます。ページを増やすには、次のように操作します。

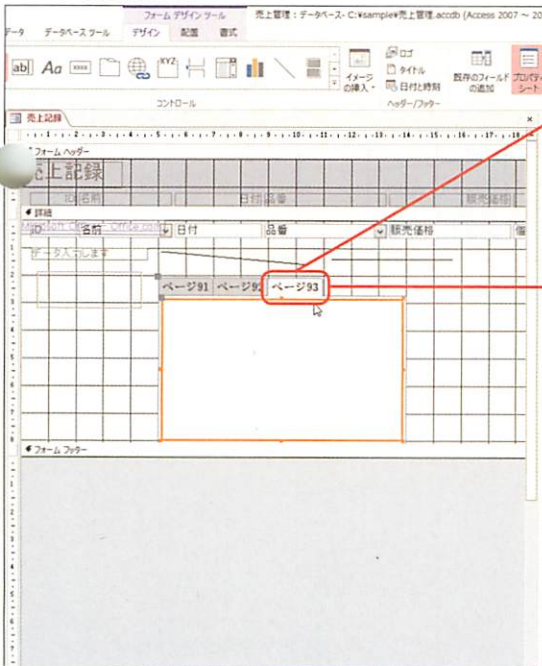
▼ [ページの挿入] ボタン



① デザインタブのページの挿入ボタンをクリックします。

① [ページの挿入] ボタンをクリックする

▼ ページが追加された



② ページが追加されます。

② ページが追加された



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

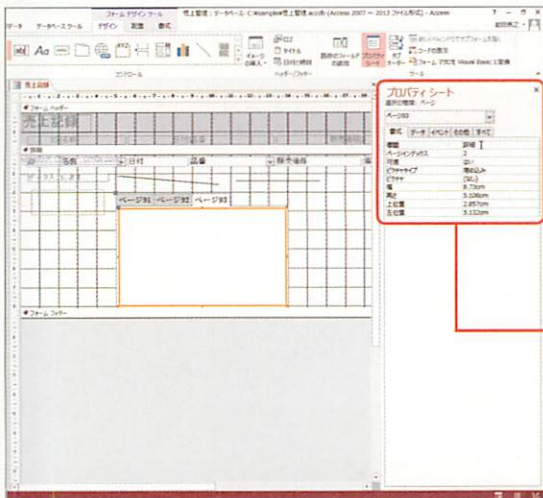
Process

ページの名前を設定するには



ページを作成した時点では、ページ〇〇という通し番号が表題に表示されます。この表題を変更するには、プロパティシートを使用します。

▼【表題】プロパティ

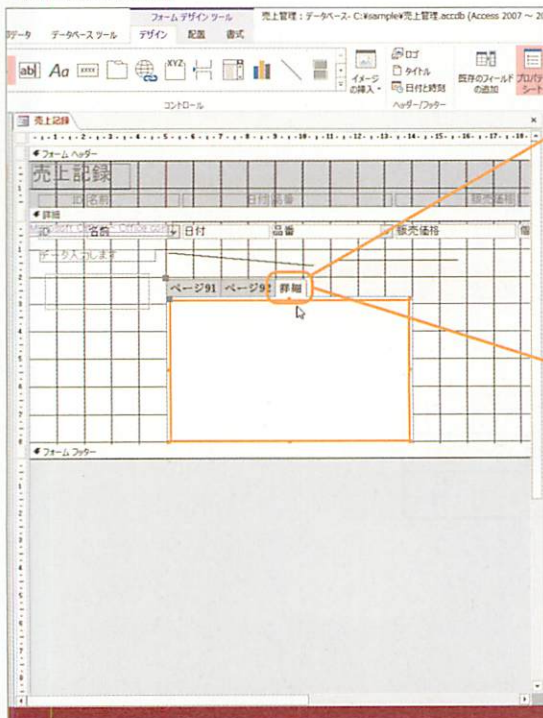


① 書式タブの表題プロパティに表題を入力します。

① 【表題】プロパティに表題を入力する

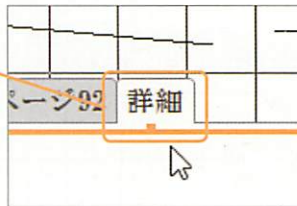


▼表題が入力される



② 表題が設定されます。

表題が設定された



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

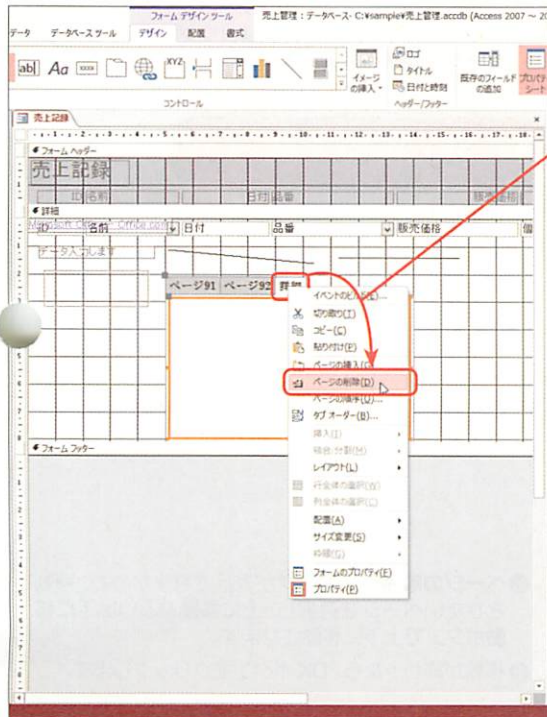
索引
Index

Process

ページを削除するには

ページを削除するには、次のように操作します。

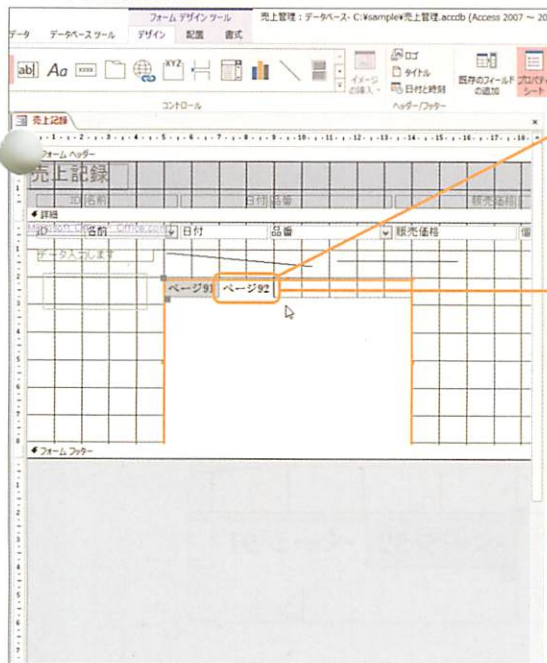
▼ [ページの削除] コマンド



① 右クリックメニューを出し、ページの削除を選択します。

① 右クリックして、[ページの削除] を選択する

▼ ページが削除された



② ページが削除されました。

ページが削除された

ページ92

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

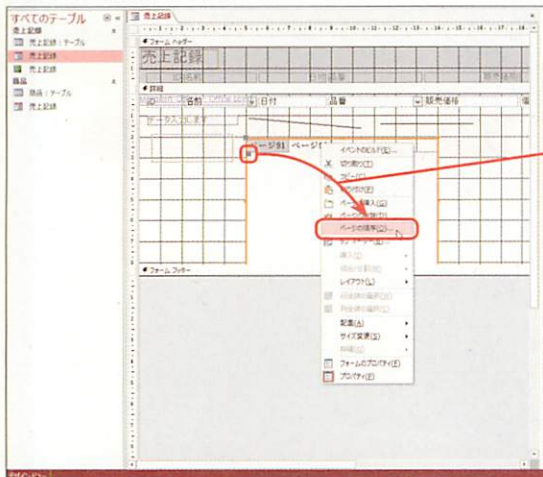
索引
Index

Process

ページの順番を入れ替えるには

配置されているページの順番を入れ替えるには、次のようにします。

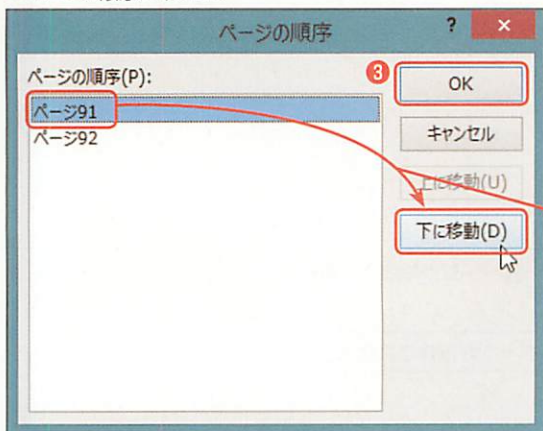
▼ [ページの順序] コマンド



1 タブコントロールで右クリックメニューを出し、ページの順序を選択します。

1 タブコントロールを右クリックし、[ページの順序] を選択する

▼ ページの順序ダイアログ



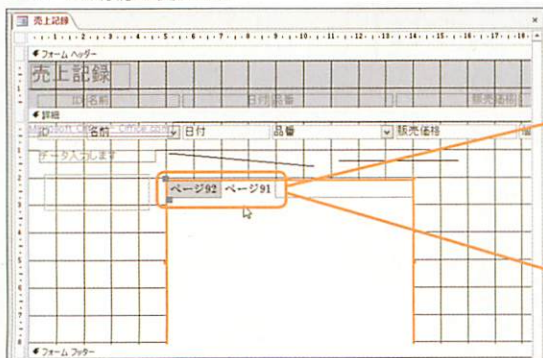
2 ページの順序ダイアログが表示されますので、移動させたいページを選択し、上に移動あるいは下に移動ボタンで上下に移動させます。

3 移動が終わったら、OK ボタンをクリックします。

2 移動させたいページを選択し、[上に移動] ボタンか [下に移動] ボタンをクリックする

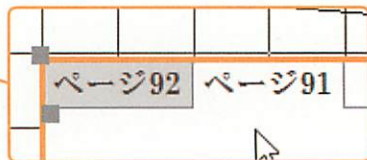
3 [OK] ボタンをクリックする

▼ ページの順序が変わった



4 ページの順序が変わりました。

ページの順序が変わった





その他のコントロール

● SampleData

http://www.shuwasystem.co.jp/
books/accessper2013/



chap10

sec05

Keyword ● ボタン ● サブフォーム ● サブレポート

データ入力のためのコントロールや、デザインのためのコントロール以外にも、いくつかのコントロールが用意されています。クリックによって様々な機能を提供するボタンコントロールや、フォームの中に別のフォームを表示させるサブフォームなどです。

Point その他のコントロール

これまで説明したコントロール以外に、次のコントロールの使い方を説明します。

ボタン

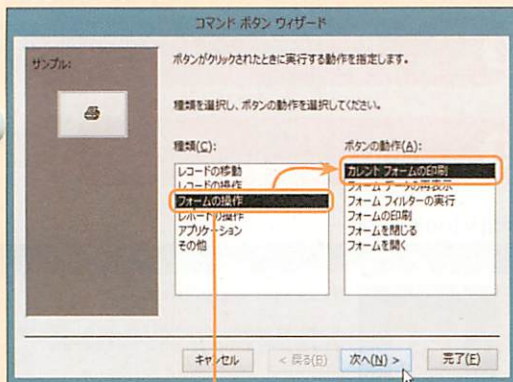
サブフォーム・サブレポート

グラフ

ボタンを使うと、あらかじめ設定された操作を1クリックで実現できるようになります。また、サブフォームやサブレポートは、フォームやレポートの中に関連する別のフォームやレポートを表示する機能です。

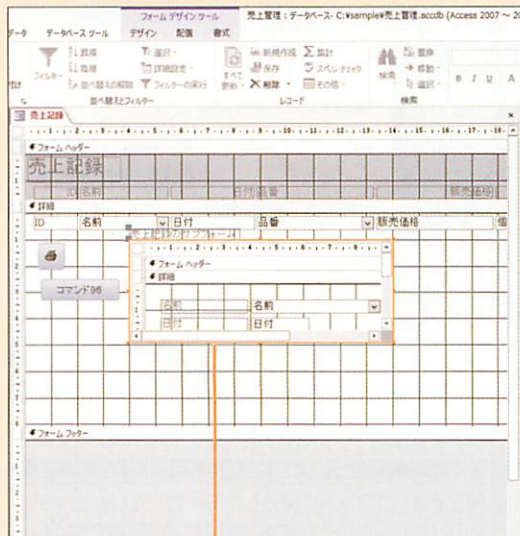
グラフコントロールは、様々なグラフを表示できます。

▼ ボタンウィザード



フォームを印刷するコマンドを割り当てる

▼ サブフォーム



サブフォームを配置する

10

フォームや
レポートの設計

11

アプリを
作成する

12

テンプレート
の使用

13

データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

10.5.1 ボタンを配置する

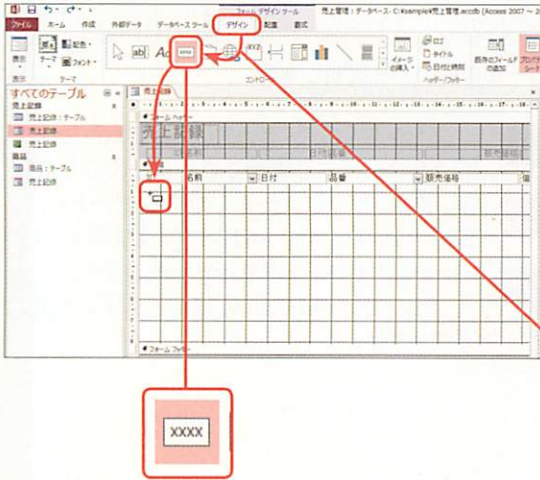


フォームにボタンを配置すると、あらかじめ設定した操作を1クリックで実行させることができるようになります。複雑な操作を1クリックで実行できるという利点だけでなく、よく使うコマンドをボタンとしてフォーム上に配置することによって、コマンドがどのコマンドタブにあったかを探さなくてもよくなるという利点もあります。

Process ボタンを配置するには

ボタンを配置するには、次のように操作します。

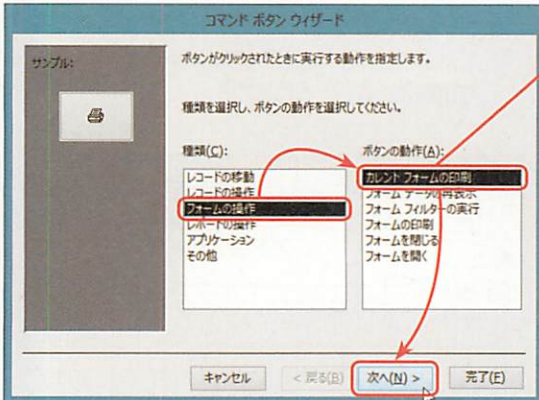
▼チェックボックスの配置



- 1 デザインコマンドタブからボタンボタンをクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。
- 2 コマンドボタンウィザードが立ち上がりますので、そのボタンに割り当てたい操作を選択します。ここでは、フォームを印刷するコマンドを割り当てる例を示します。
- 3 ボタンの表示を設定します。既定では、あらかじめ用意されたアイコンで表示されますが、文字にすることもできます。

1 [ボタン] ボタンをクリックし、配置したい場所をクリックする

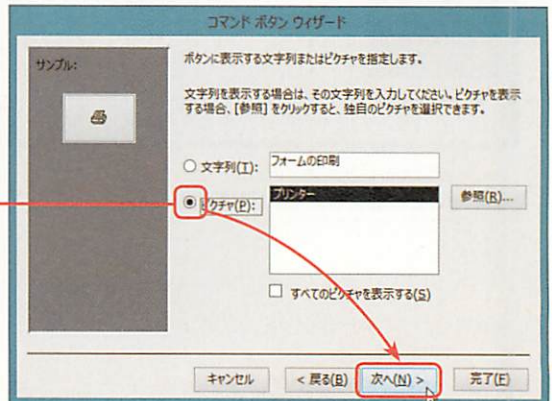
▼コマンドの選択



2 [フォームの操作]、[カレントフォームの印刷]を選択し、[次へ] ボタンをクリックする

3 文字列を編集するか、アイコンを選択し、[次へ] ボタンをクリックする

▼ボタンの表示設定



Onepoint

既定では、コマンドに関連したアイコンだけがピクチャのリストに表示されます。例えば、今回の例では、印刷に関連するアイコンだけが表示されます。すべてのピクチャを表示するチェックボックスをオンにすると、Accessに格納されているすべてのアイコンが表示されます。

10

フォームやレポートの設計

11

アプリを作成する

12

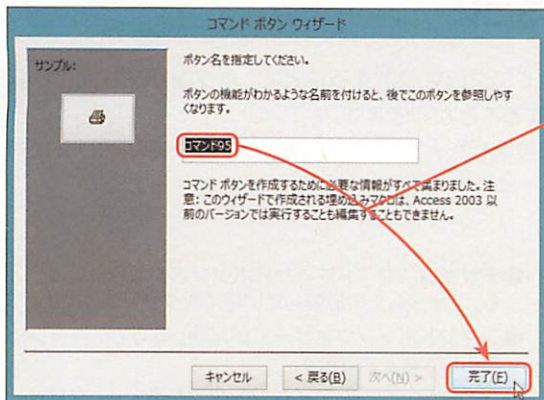
テンプレートの使用

13

データベース作成の手順

資料
Appendix索引
Index

▼ 名前の設定



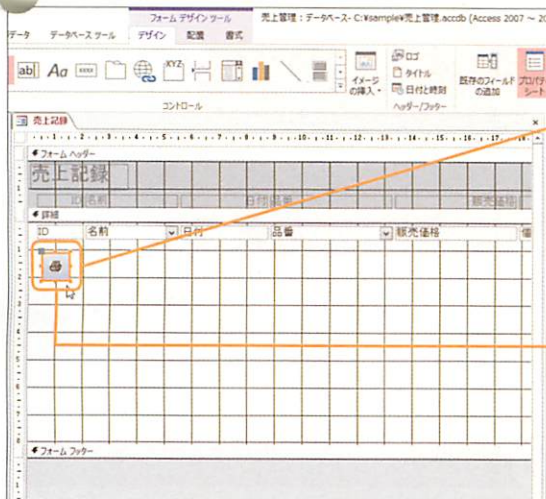
4 ボタンの名前を設定して、ウィザードを終了します。

4 名前を入力し、[完了] ボタンをクリックする

Attention

⚡ Access 2007形式で作成したデータベースで、この機能を使うと、Access 2003以前の形式に戻すことができなくなりますので、古い形式のデータベースを使う際には注意が必要です。

ボタンが追加された



5 ボタンが追加されました。

ボタンが追加された

Memo コマンドの種類

ウィザードで指定できるコマンドには、次のものがあります。

レコードの移動	レコードの検索	フォームの操作	フォームフィルタの実行
	先頭のレコードに移動		フォームの印刷
	前のレコードに移動		フォームを閉じる
	最後のレコードに移動		フォームを開く
	次のレコードに移動		レポートのプレビュー
レコードの操作	次を検索	レポートの操作	レポートの印刷
	レコードの保存		レポートの送信
	レコードの削除		レポートをファイルに出力
	レコードの印刷		レポートを開く
	レコードの複製	アプリケーション その他	アプリケーションの終了
	レコードの元に戻す		オートダイヤラ
	新しいレコードの追加		クエリの実行
フォームの操作	カレントフォームの印刷	テーブルの印刷	
	フォームデータの再表示	マクロの実行	

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

Process

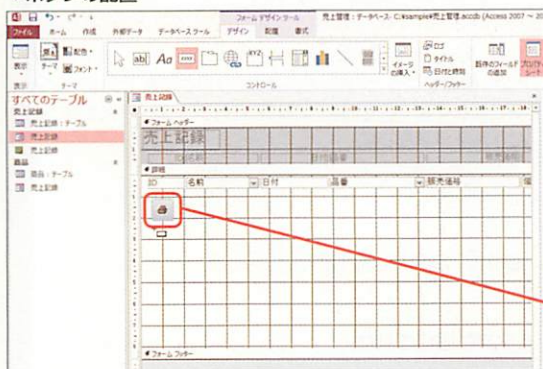
ボタンにイベントを設定するには

ボタンのクリック時イベントに対してマクロを設定することで、ボタンがクリックされたときに実行される処理を自由に設定することができます。



コマンドボタンウィザードで動作を設定したときも、実際にはクリック時イベントに対してマクロが設定されます。

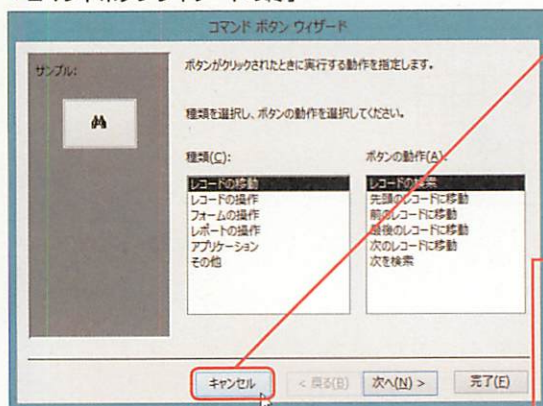
▼ボタンの配置



- 1 デザインコマンドタブからボタンボタンをクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。
- 2 コマンドボタンウィザードが起動しますが、キャンセルして終了させます。
- 3 プロパティシートでイベントタブを選択し、クリック時イベントの右側の…ボタンをクリックします。
- 4 イベントの種類をマクロに設定します。

1 [ボタン]ボタンをクリックし、配置したい場所をクリックする

▼コマンドボタンウィザードの終了

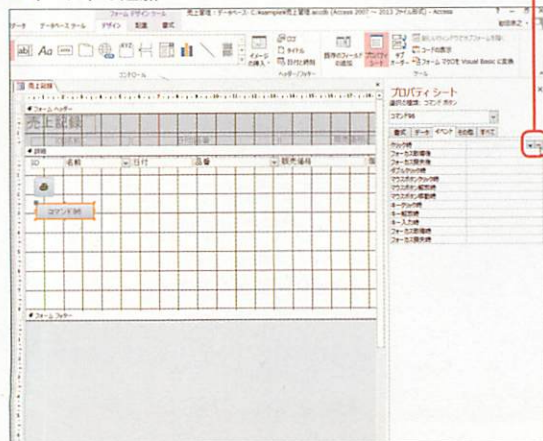


2 [キャンセル]ボタンをクリックする

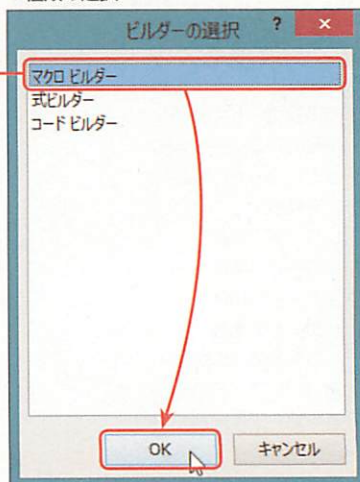
3 [クリック時]イベントの[…]ボタンをクリックする

4 [マクロビルダー]を選択し、[OK]ボタンをクリックする

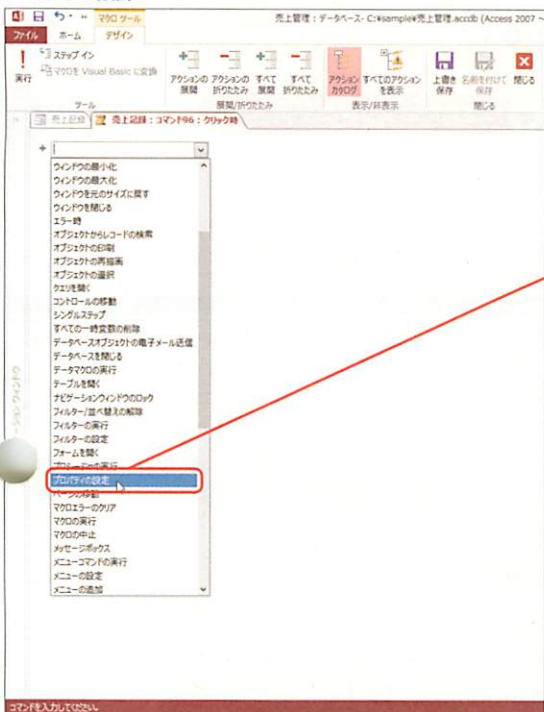
▼イベントの追加



▼種類の選択



▼マクロの設計



5 マクロ作成画面で、プロパティの設定アクションを追加します。

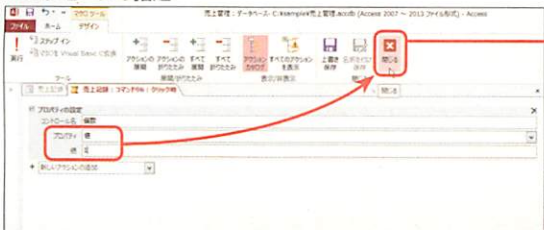
6 プロパティの設定アクションの内容を指定して、マクロ作成を終了します。

7 更新の確認メッセージが表示されます。

8 フォームビューに切り替えます。

5 [プロパティの設定]を選択する

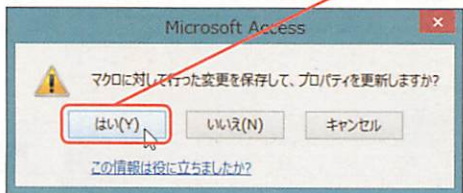
▼メッセージの指定



6 [プロパティ]に「個数」を、[値]に「1」を入力し、[閉じる]ボタンをクリックする

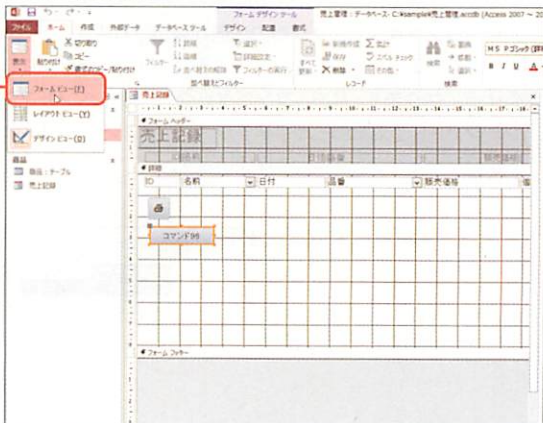
7 [はい]ボタンをクリックする

▼更新の確認



8 [表示]ボタンをクリックし、[フォームビュー]を選択する

▼フォームの実行



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

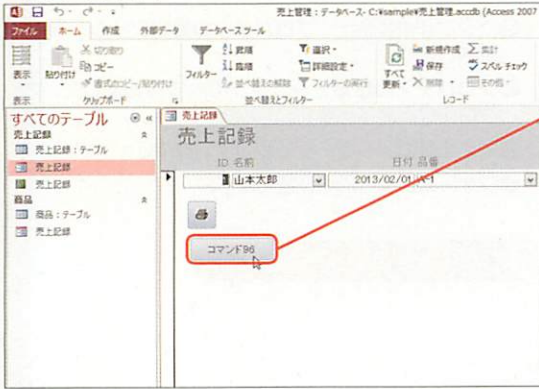
12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

▼ボタンのクリック

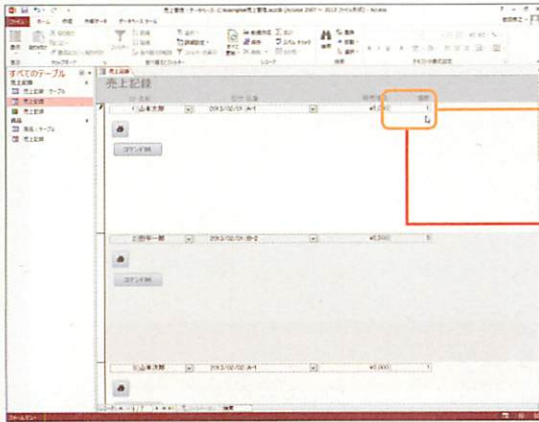


9 作成したボタンをクリックします。

9 作成したボタンをクリックする

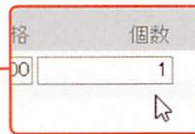
Onepoint
作成したボタンの名前は、画面例とは違う場合があります。

▼メッセージが表示された



10 マクロが実行され、個数が1になります。

個数が1になった



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

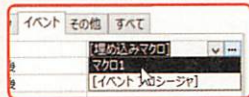
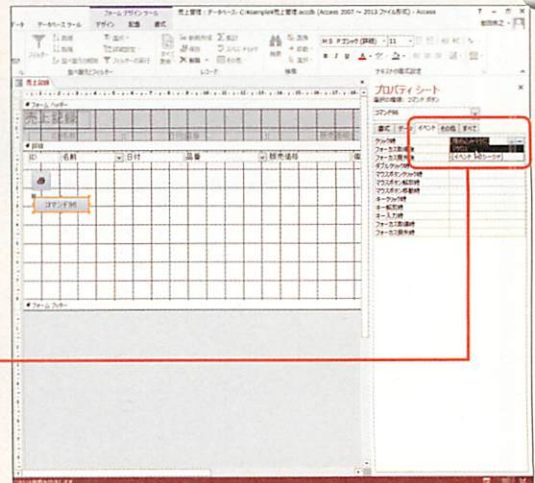
13
データベース
作成の手順

Memo イベントに既存のマクロを割り当てる

本文では、イベントに対してマクロを新規作成して割り当てる方法を主に説明しました。その他に、「9.1 マクロを使う」の要領で作成したマクロを割り当てることもできます。

マクロがすでに定義されている場合、イベントタブのコンボボックスを開くと、マクロの名前が表示されますので、それを選択すると、イベントに対してそのマクロが呼び出されるようになります。なお、コンボボックスにはイベントプロシージャという選択肢もありますが、こちらはVisual Basicでプログラミングをするときに使います。

▼既存のマクロを割り当てる



10.5.2 サブフォームを配置する

サブフォームは、フォームの中に別のフォームを表示させる機能です。現在表示させているレコードに関連する別のテーブルの情報を、サブフォームとして表示させることができます。

Onepoint

Onepoint

サブフォームを配置できるのは、単票フォームだけです。それ以外のフォームにサブフォームを配置しようとすると、自動的に単票フォームに修正されます。

ここではフォームの例を示しますが、レポートの場合もまったく同じようにサブレポートを配置することができます。

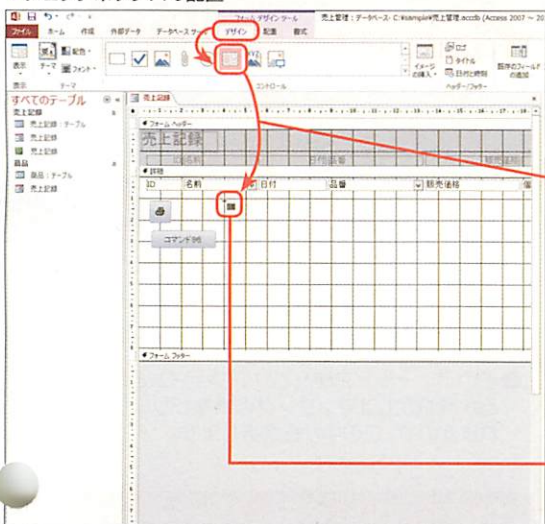
Process

テーブルまたはクエリを使用してサブフォームを配置するには

Onepoint

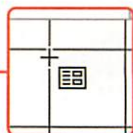
サブフォームウィザードを使うと、テーブルまたはクエリから、サブフォームを自動的に作成します。これを使うと、関連データを表形式で表示するサブフォームを簡単に作成することができます。

▼チェックボックスの配置



① デザインコマンドタブからサブフォームボタンをクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。

① [サブフォーム] ボタンをクリックし、配置したい場所をクリックする



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順



Memo サブフォームの中身を編集するときの注意点

サブフォームを持つフォームをデザインビューで開くと、フォームの中に入っているサブフォームもまたデザインビューで開きます。しかし、サブフォームをデザインビューで開く場合には、次の制限があります。

- ① デザインビューで開いているフォームを、同時に他のビューで開くことはできない。
- ② 同じフォームのデザインビューが複数開くことはない。

①の制限は、サブフォームがデザインビューで開かれてい

るとき、同時にサブフォームをフォームビューで開こうとすると起きます。普通のフォームでは、デザインビューで開かれているときに同時にフォームビューで開こうとすると、デザインビューがフォームビューに移行するだけです。

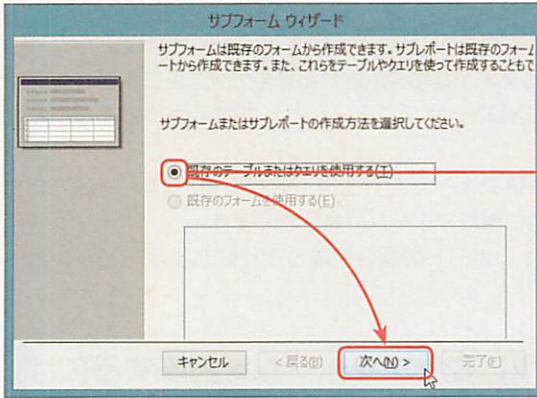
しかし、サブフォームとして開かれている場合は、エラーメッセージが出てフォームビューでは開けなくなります。

②の制限は、複数のフォームが同じサブフォームを配置しているときに起きます。この場合、片方のフォームはサブフォームの中身が表示されますが、もう片方のフォームでは、サブフォーム部分が空白で表示されます。

資料
Appendix

索引
Index

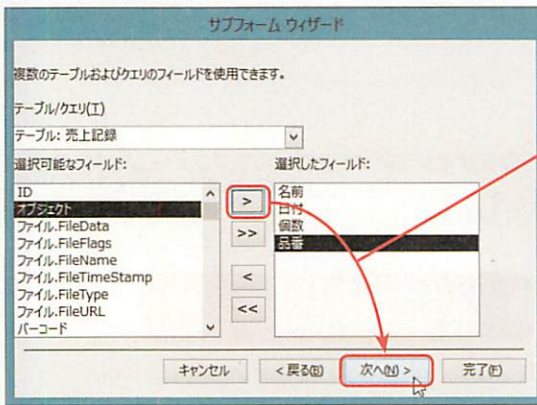
▼サブフォームウィザード



2 サブフォームウィザードが立ち上がります。ここでは、まず、既存のテーブルまたはクエリを使用して作成することになります。

2 [既存のテーブルまたはクエリを使用する] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする

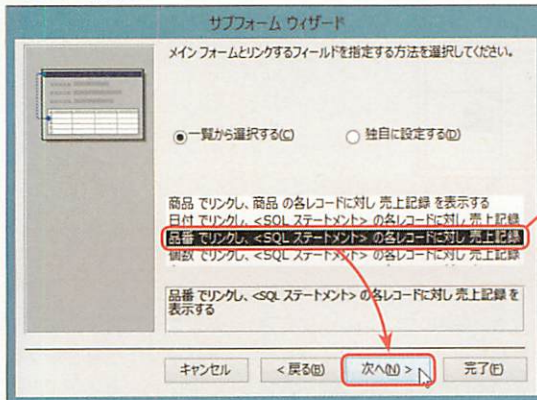
▼フィールドの選択



3 サブフォームに含めるフィールドを選択します。

3 [売上記録] テーブルを選択し、名前、日付、品番、個数の各フィールドを [>] ボタンで追加し、[次へ] ボタンをクリックする

▼リンクの指定



4 どのフィールドを使ってサブフォームとリンクさせるかを指定します。リンクの候補がリストで出力されますので、この中から選択します。

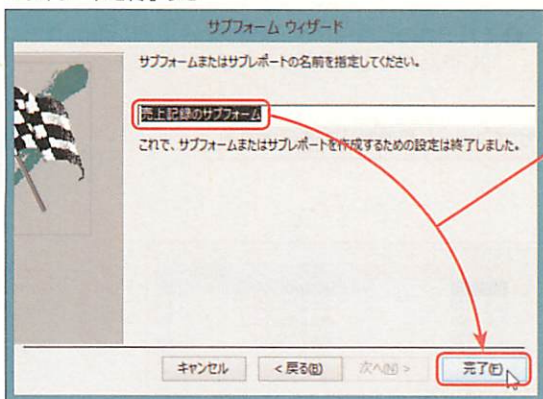
4 [商品でリンクし、<SQL ステートメント> の各レコードに対して売上記録を表示する] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする

Onepoint



<SQL ステートメント>とは、サブフォームを配置する先のフォーム（親フォーム）のレコードソースのことです。この選択肢は、親フォームの各レコードに対して、同じ商品がいつ売れたかをサブフォームでリスト表示するという動作を示します。

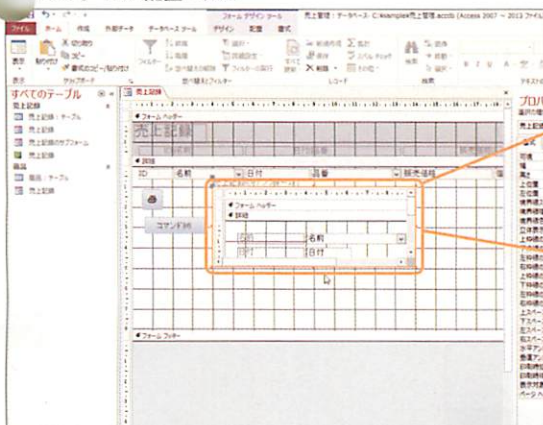
▼ウィザードを終了する



5 サブフォームの名前を指定して、ウィザードを終了します。

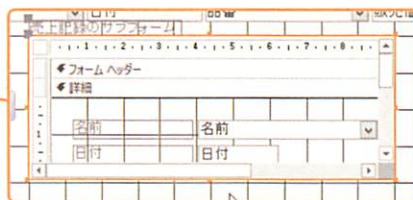
5 名前を入力し、[完了] ボタンをクリックする

サブフォームが配置された

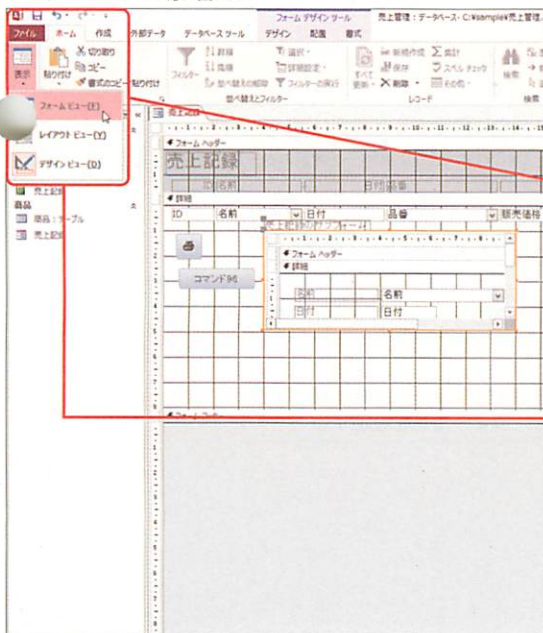


6 サブフォームが配置されました。

サブフォームが配置された

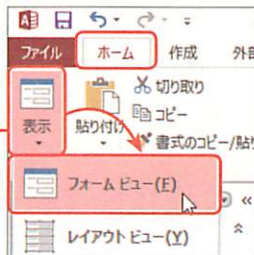


▼フォームビューに切り替える



7 次に、サブフォームの動作を確認しましょう。ホームコマンドタブの表示ボタンをクリックして、フォームビューに切り替えます。

7 [表示] ボタンをクリックし、[フォームビュー] を選択する



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

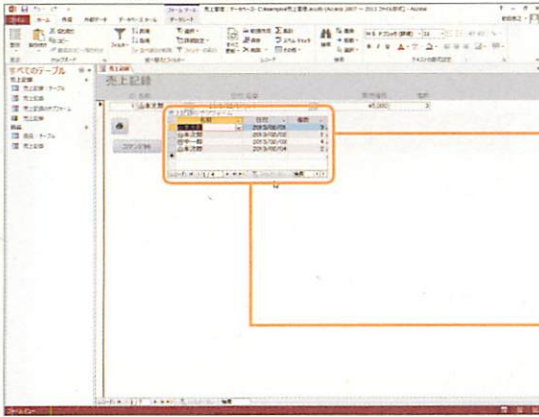
12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

▼サブフォームが連動して表示される



8 それぞれのレコードで、商品フィールドに対応して、同じ商品の売上履歴がリスト表示されます。

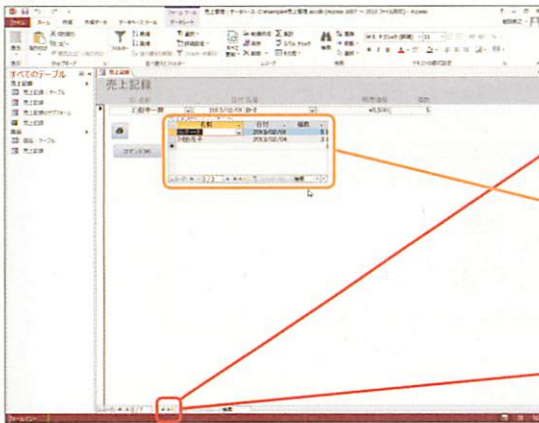
サブフォームが連動して表示される

売上記録のサブフォーム

名前	日付	個数
山本次郎	2013/02/01	3
山本次郎	2013/02/02	1
田中一郎	2013/02/03	4
山本次郎	2013/02/04	2

レコード: 1 / 4

▼レコードを移動させる



9 レコードを移動させると、サブフォームの表示が変わります。

9 [移動] ボタンでレコードを一つ進める

サブフォームの表示が変わる



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

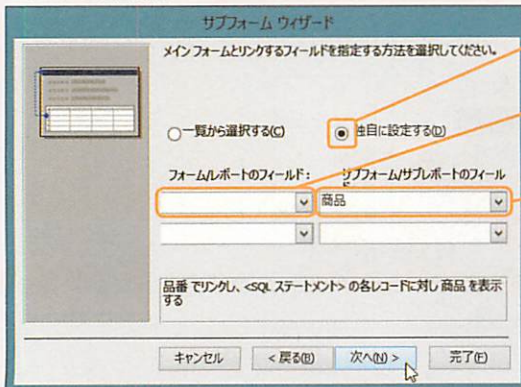
索引
Index

Memo リンクの独自設定

4 の手順で、自分がリンクさせたいフィールドが候補に現れない場合は、フィールドを独自に設定する必要があります。

独自に設定するを選択して、親フォームのフィールドと、それに対するサブフォームのフィールドを指定します。

▼リンクの独自設定



1 [独自に設定する] を選択する

2 親フォームのフィールドを設定する

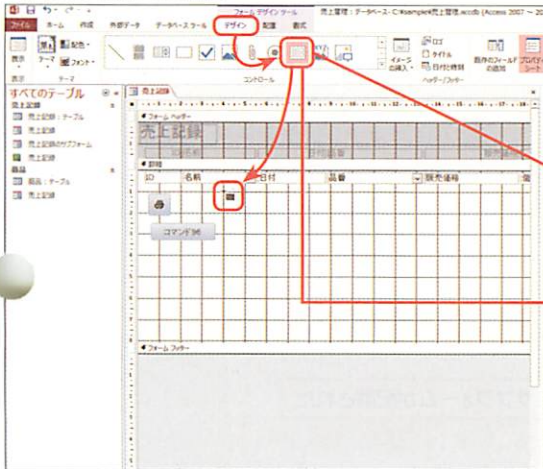
3 サブフォーム側の、対応するフィールドを設定する

Process

既存のフォームをサブフォームとして配置するには

既存のフォームをサブフォームとして配置することもできます。この場合は、次のように操作します。

▼チェックボックスの配置

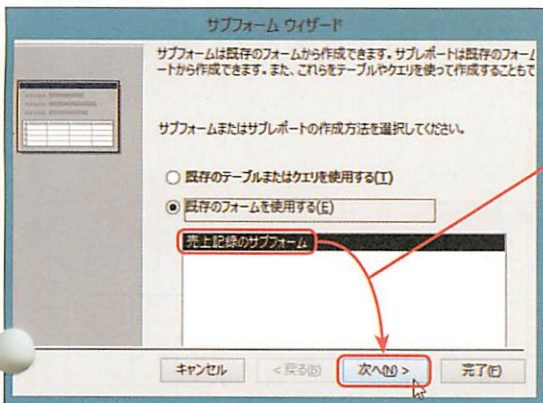


① デザインコマンドタブからサブフォームボタンをクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。

① [サブフォーム] ボタンをクリックし、配置したい場所をクリックします。



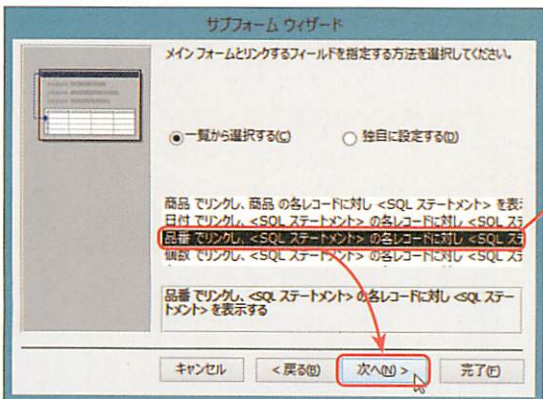
▼サブフォームウィザード



② サブフォームウィザードが立ち上がります。ここで、サブフォームにしたいフォームを指定します。

② [売上記録のサブフォーム] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする

▼サブフォームウィザード



③ どのフィールドを使ってサブフォームとリンクさせるかを指定します。前の例とは違うフィールドでリンクさせることにします。

③ [日付でリンクし、<SQL ステートメント>の各レコードに対して売上記録を表示する] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

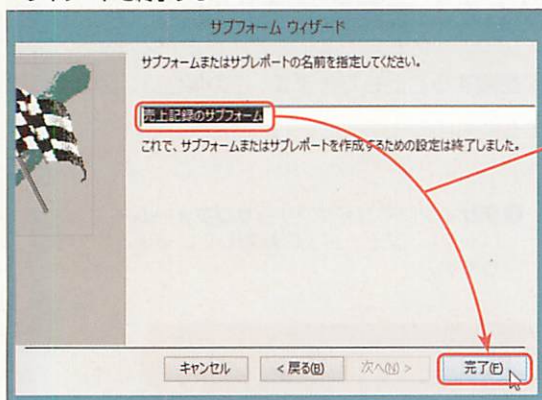
12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

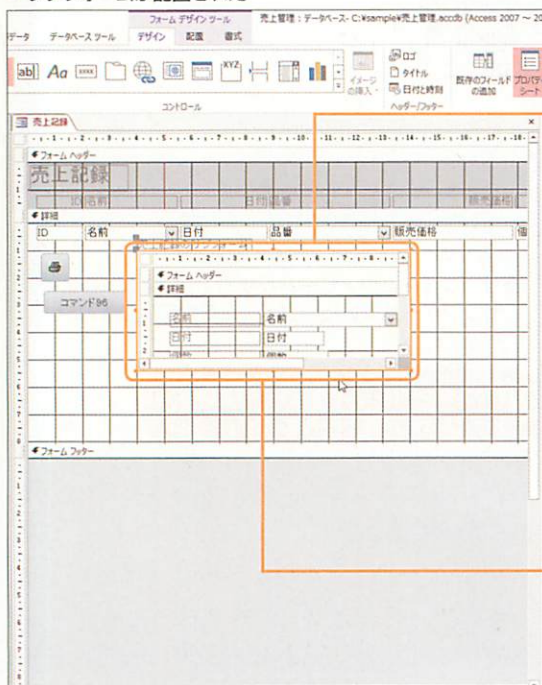
▼ウィザードを終了する



④ サブフォームの名前を指定して、ウィザードを終了します。

④ 名前を入力し、[完了] ボタンをクリックする

▼サブフォームが配置された



⑤ サブフォームが配置されました。

サブフォームが配置された



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

10.5.3 グラフを配置する

グラフコントロールを使うと、フォームやレポートの中に、様々な形式のグラフを表示させることができます。グラフとして表示するデータは、フォームやレポートのデータとは別に設定できます。リレーションの機能を使うと、フォームやレポートのレコードに対応したグラフを表示させることもできます。

Process

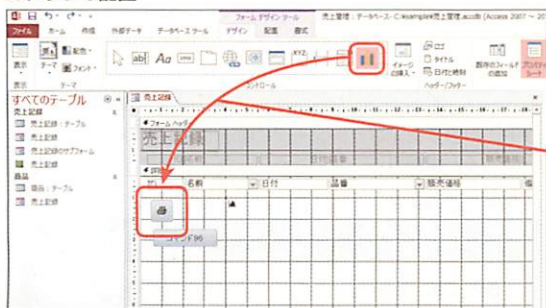
グラフを配置するには

Onepoint

グラフを配置すると、グラフに関する様々な項目を指定するグラフウィザードが起動します。これによって、対話的にグラフの設定をすることができます。

ここでの例は、商品フォームをデザインビューで表示した状態で始めます。

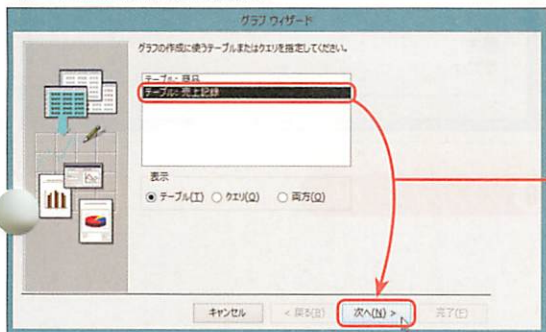
グラフの配置



① デザインコマンドタブからグラフボタンをクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。

① [グラフ]ボタンをクリックし、配置したい場所をクリックする

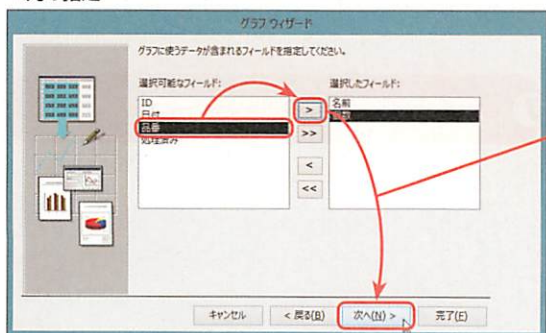
▼テーブルまたはクエリの指定



② グラフウィザードが起動します。まずは、グラフで表示するデータが格納されたテーブルあるいはクエリを指定します。

② [テーブル:売上記録]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする

▼列の指定



③ グラフで使用する列を指定します。

③ [名前][個数]の各列を[>]ボタンでして追加し、[次へ]ボタンをクリックする

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

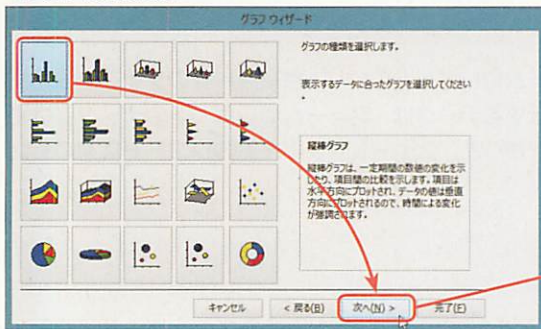
12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

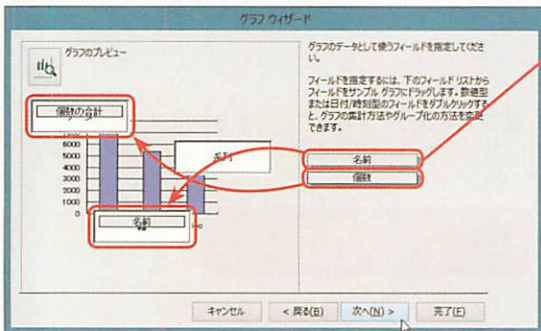
▼グラフ種別の指定



- ④ グラフの種別を指定します。
- ⑤ グラフのデータ項目に列をあてはめます。手順3で指定した各列がリスト表示されますので、各項目へドラッグします。
- ⑥ リレーションの設定を促すメッセージが表示されます。

④ 一番左上の棒グラフを選択し、[次へ]ボタンをクリックする

▼グラフに使用する列の指定



⑤ 各列を所定の場所へドラッグし、[次へ]ボタンをクリックする

Onepoint

初期状態では、各項目が自動的に割り当てられます。

Onepoint

数値や日付などのデータの場合は、ダブルクリックすると集計方法を変更することができます。

▼集計方法の変更

集計方法の指定

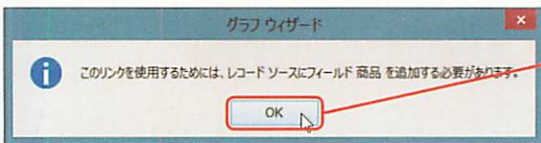
'個数' の集計方法(S):

- なし
- 合計
- 平均
- 最小
- 最大
- カウント

OK

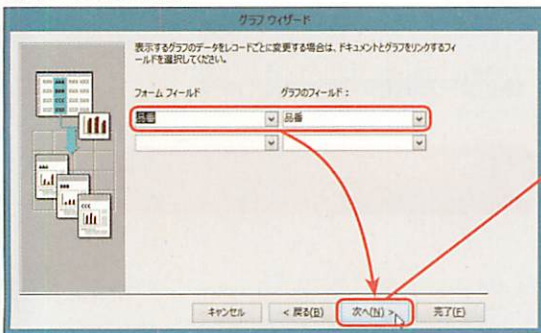
キャンセル

▼グラフウィザード



⑥ グラフが表示された

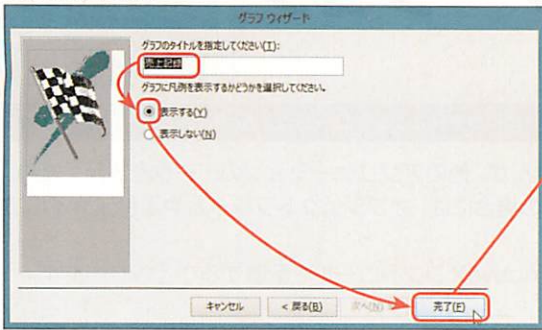
▼リレーションの指定



- ⑦ グラフで表示するテーブルと、フォームやレポートのレコードとのリレーションを設定します。

⑦ フォームフィールドの[品番]と、グラフのフィールドの[品番]を指定し、[次へ]ボタンをクリックする

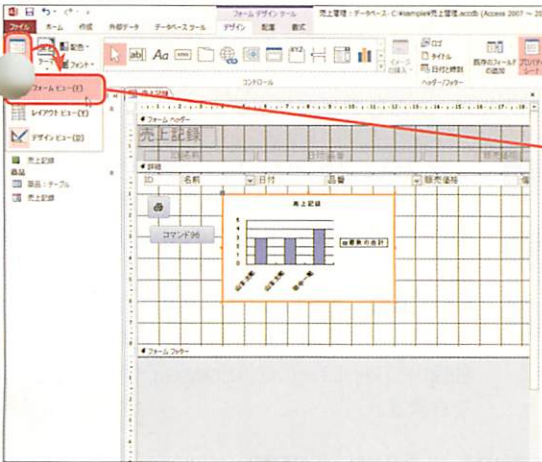
▼タイトルの指定



8 グラフのタイトルを設定します。また、凡例を表示するかどうかを指定します。

8 「売上記録」と入力し、凡例を「表示しない」にして、「完了」をクリックする

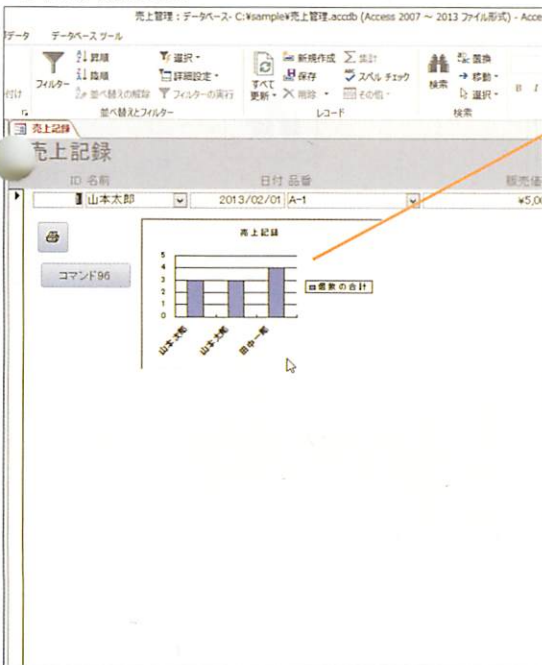
▼グラフが配置された



9 グラフが配置されました。グラフの動作を確認するために、フォームビューへ切り替えます。

9 「表示」ボタンをクリックし、「フォームビュー」を選択する

▼グラフが表示された



10 グラフが表示されました。

グラフが表示された

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

Onepoint

商品フォームで表示している各商品に対して、売上記録テーブルの品番が同じレコードを対象にして、それぞれの名前に対する個数の合計をグラフ化します。

資料
Appendix

索引
Index



他のアプリケーションとの連携

SampleData

http://www.shuwasytem.co.jp/
books/accessper2013/



Keyword ● オブジェクトフレーム ● 添付ファイルコントロール ● ActiveX コントロール

使用頻度はあまり高くはありませんが、他のアプリケーションのデータを表示したり、編集したりする場合があります。その場合には、オブジェクトフレームや添付ファイルコントロールを使います。

また、システムに登録されている ActiveX コントロールを配置することもできます。

Point 添付ファイルや ActiveX を組み込む

Access 以外のアプリケーションをフォームで開く仕組みには、次のものがあります。

● オブジェクトフレーム

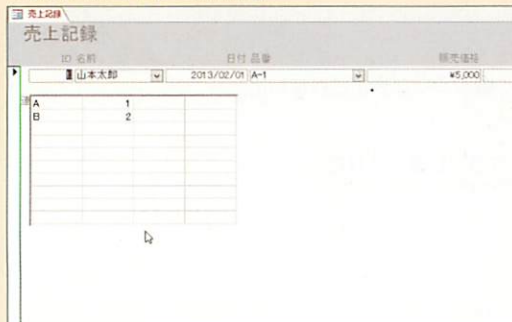
● 添付ファイル

● Active X コントロール

オブジェクトフレームは、他のアプリケーションをフォーム内に開いて、表示あるいは編集をするための仕組みです。また、そこまで必要なく、ファイルの添付でこと足る場合には、添付ファイルコントロールを使います。

ActiveX コントロールを組み込むことで、独自のコントロールを Access で使うこともできます。

▼ オブジェクトフレームの配置



▼ 添付ファイルコントロールの配置



添付ファイルコントロール

▼ ActiveX コントロールの配置



ActiveX コントロール

10.6.1 オブジェクトフレームを配置する



他アプリケーションのデータをフォームに配置するには、オブジェクトフレームを使います。テーブルにオブジェクトが埋め込まれている場合は、そのオブジェクトを表示、編集するために連結オブジェクトコントロールを使います。テーブルとは関係なく、フォームに対してオブジェクトを埋め込みたい場合には、非連結オブジェクトコントロールを使います。

Onepoint



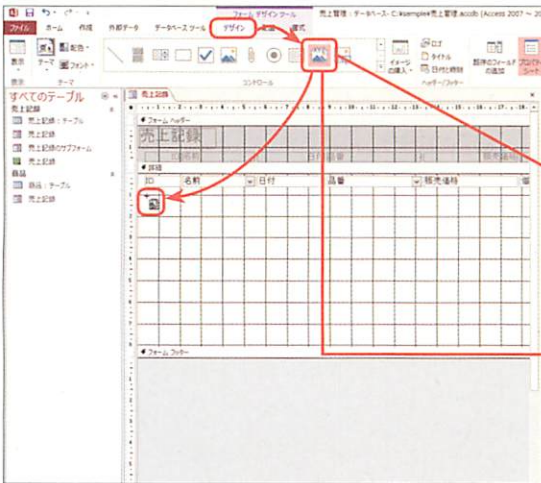
テーブルにオブジェクトを埋め込む方法は、「3.7.4 オブジェクトを埋め込む」を参照してください。

Process

連結オブジェクトコントロールを配置するには

連結オブジェクトコントロールを配置するには、次のように操作します。

▼チェックボックスの配置



1 デザインコマンドタブから連結オブジェクトフレームボタンをクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。

1 [連結オブジェクトフレーム] ボタンをクリックし、配置したい場所をクリックする



[コントロールソース] プロパティ



2 プロパティシートで、データタブのコントロールソースプロパティに、オブジェクトが埋め込まれたフィールドを設定します。

2 [コントロールソース] プロパティに [オブジェクト] フィールドを設定する

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

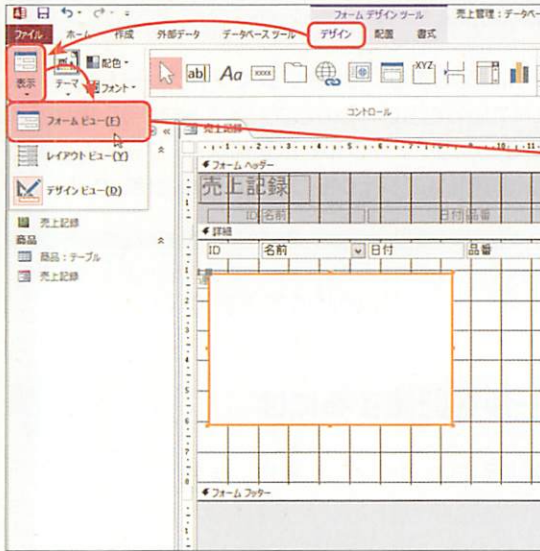
12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

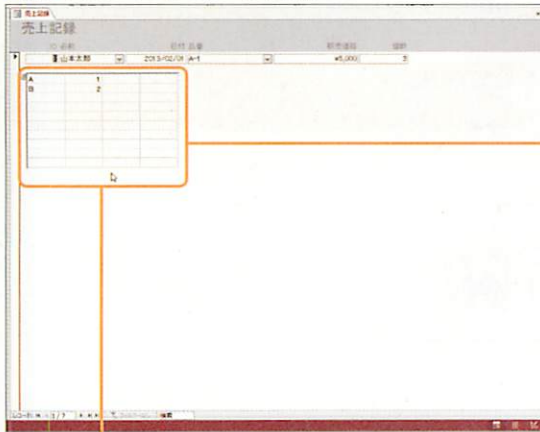
▼フォームビューに切り替える



③ デザインコマンドタブの表示ボタンをクリックして、フォームビューに切り替えます。

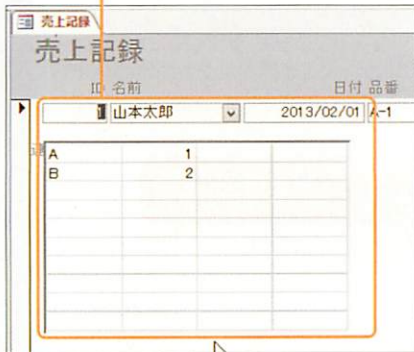
③ [表示] ボタンをクリックし、[フォームビュー] を選択する

▼他アプリケーションのデータの表示



④ テーブルに埋め込まれたアプリケーションデータが表示されます。

Excelの表が表示される



10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

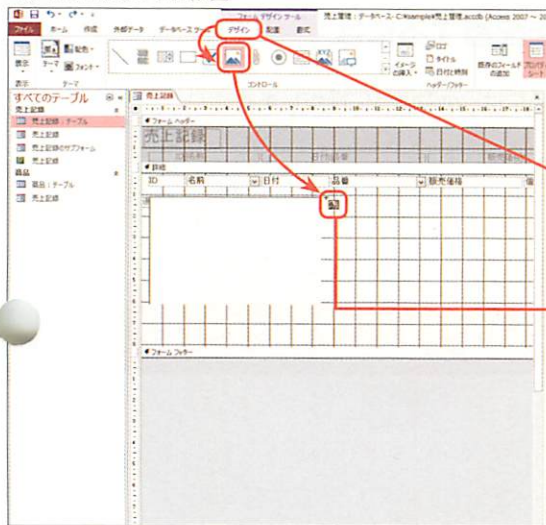
索引
Index

Process

非連結オブジェクトコントロールを配置するには

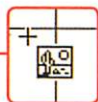
非連結オブジェクトコントロールを配置するには、次のように操作します。

▼チェックボックスの配置

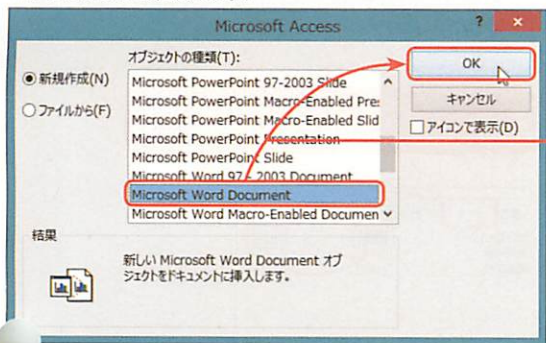


1 デザインコマンドタブから非連結オブジェクトフレームボタンをクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。

1 [非連結オブジェクトフレーム] ボタンを選択して、配置したい場所をクリックします。



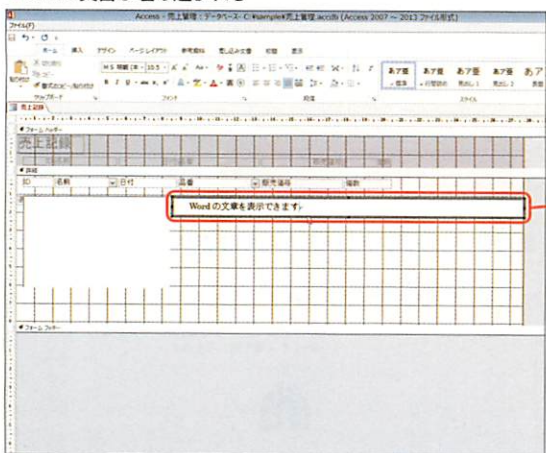
▼オブジェクトの種類を選択



2 埋め込みたいオブジェクトの種類を指定します。

2 [Microsoft Word Document] を選択し、[コントロールソース] プロパティに [オブジェクト] フィールドを設定する

▼Word文書が埋め込まれる



3 Word文書が埋め込まれますので、ここで自由に文章を入力します。

4 編集が終わったら、オブジェクトフレームの外側をクリックして、Wordを終了します。

3 文章を入力する

4 オブジェクトフレームの外側をクリックする

Onepoint

デザインビューで、非連結オブジェクトフレームをダブルクリックすると、Wordが起動して編集できるようになります。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

10.6.2 添付ファイルコントロールを配置する

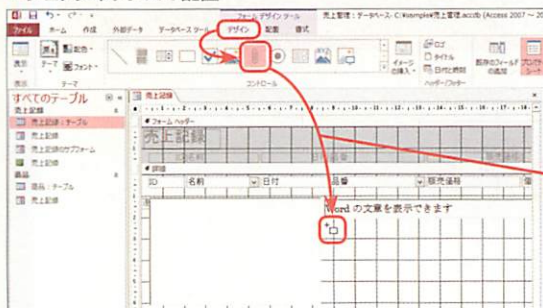
添付ファイル型のフィールドを表示、編集するには、添付ファイルコントロールを使います。


Process


添付ファイルコントロールを配置するには

添付ファイルコントロールを配置するには、次のように操作します。

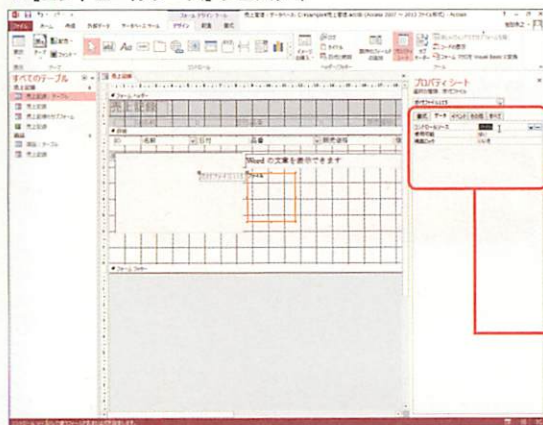
▼チェックボックスの配置



① デザインコマンドタブから添付ファイルボタン  をクリックし、フォーム上の配置したい場所をクリックします。

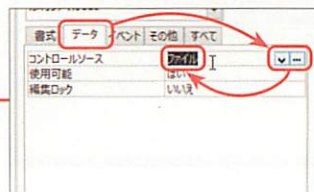
① 「添付ファイル」ボタン  をクリックし、配置したい場所をクリックします。

▼【コントロールソース】プロパティ

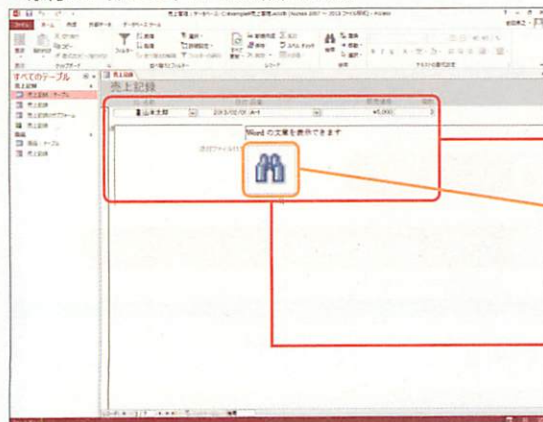


② プロパティシートで、データタブのコントロールソースプロパティに、添付ファイル型のフィールドを設定します。

② 「コントロールソース」プロパティに「ファイル」フィールドを設定する



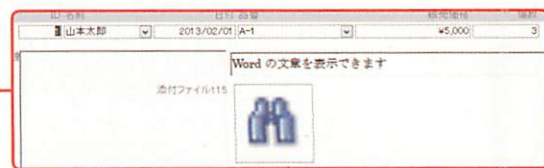
▼添付ファイルコントロールが配置された



③ フォームビューに切り替えると添付コントロールが表示されます。

③ フォームビューに切り替える

添付ファイルコントロールが表示された



10.6.3

ActiveXコントロールを配置する

Important

ActiveXコントロールを使うと、これまでに説明したAccessに組み込みのコントロール以外のコントロールをフォームやレポートに配置することができます。最近では、多くのアプリケーションがActiveXコントロールを提供していて、そのアプリケーションの機能を利用することができます。

Onepoint

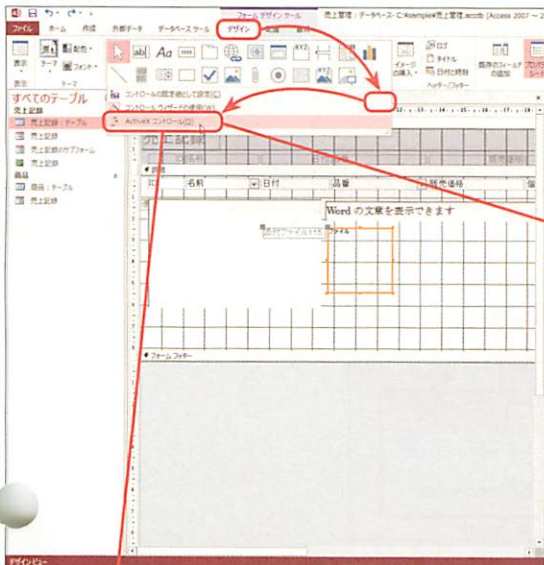
また、ActiveXコントロールが単体で販売されていることもあります。こうしたコントロールを購入すれば、Accessフォームの機能を拡張することができます。

Process

ActiveXコントロールを配置するには

ここでは例として、Microsoft社が提供しているバーコードコントロールをフォームに配置してみます。バーコードコントロールは、レコードに格納されたバーコード情報を表示したり印刷したりすることができるコントロールです。

▼チェックボックスの配置

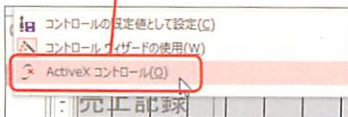
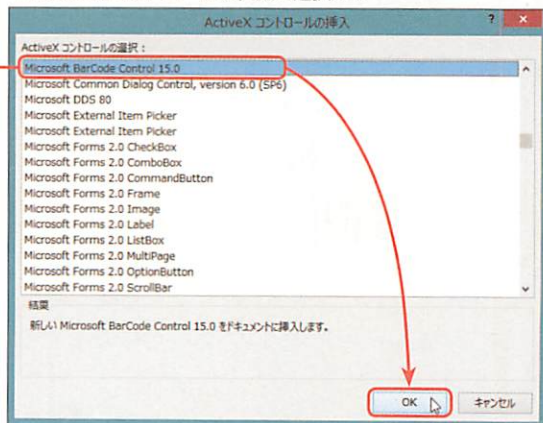


- 1 デザインコマンドタブのその他をクリックし、ActiveXコントロールボタンを実行します。
- 2 ActiveXコントロールの挿入ダイアログのリストの中から、作成したいActiveXコントロールを選択します。

1 [ActiveXコントロール] ボタンをクリックする

2 [Microsoft Barcode Control] を選択し、[OK] ボタンをクリックする

▼ ActiveXコントロールの種類を選択する

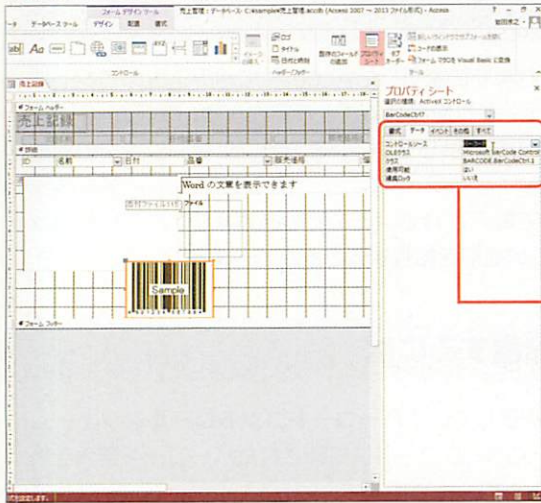


Onepoint

このリストを眺めると、自分のPCにインストールされたアプリケーションがどんなActiveXコントロールを提供しているのかがわかります。

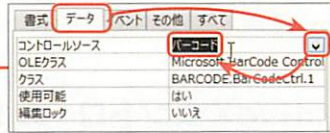
10
フォームや
レポートの設計11
アプリを
作成する12
テンプレート
の使用13
データベース
作成の手順資料
Appendix索引
Index

▼ [コントロールソース] プロパティ

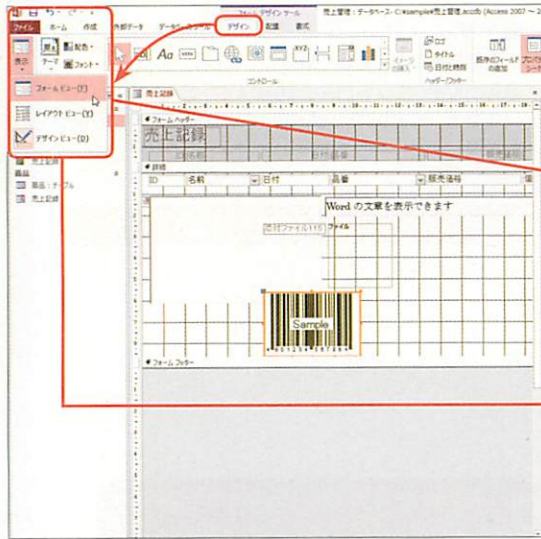


③ プロパティシートで、データタブのコントロールソースプロパティに、バーコードのデータが格納されているフィールドを設定します。

③ [コントロールソース] プロパティに [バーコード] フィールドを設定する

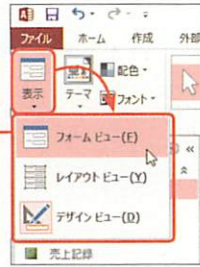


▼ フォームビューに切り替える



④ 次に、バーコードコントロールの動作を確認しましょう。デザインタブの表示ボタンをクリックして、フォームビューに切り替えます。

④ [表示] ボタンをクリックし、[フォームビュー] を選択する



▼ バーコードが表示される



⑤ バーコードが表示されます。

バーコードが表示される

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレートの
使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

Memo バーコードコントロールの使い方

バーコードコントロールは、Accessのレポートと組み合わせられて使われることが多いコントロールですので、使い方を少し詳しく説明します。

バーコードコントロールの詳細設定は、プロパティページで行います。その他タブの以下のプロパティが、バーコードの表示形式に関連するプロパティです。

プロパティ	内容
Style	バーコードのスタイルを指定します(後述)。
SubStyle	Styleと組み合わせて、バーコードのスタイルを指定します。
Validation	1を指定すると、チェックデジットを内部で計算します。
LineWeight	線の太さを指定します。
Direction	0を指定すると横書き、1を指定すると縦書きになります。
ShowData	1を指定すると、バーコードの下に、そのバーコードに対応する文字を印字します。

バーコードのStyleは、バーコードのスタイルを指定します。バーコードのSubStyleは、それぞれのスタイルのバーコードに対して、細かなオプションを指定します。

Style	タイプ
0	UPC-A
1	UPC-E
2	JAN-13
3	JAN-8
4	Casecode
5	NW-7
6	Code-39
7	Code-128
8	US Postnet
9	US Postal FIM
10	カスタマバーコード

▼ Styleが0~3の場合

SubStyle	説明
0	付加なし。
1	2桁の補足コードが付加されます。
2	5桁の補足コードが付加されます。
3	標準サイズより大きい POS バーコードシンボルが作成されます。

▼ Styleが4の場合

SubStyle	説明
0	標準コードです。
1	16桁のデータを使います。
2	6桁のデータを使います。

▼ Styleが8の場合

SubStyle	説明
0	12桁のバーコードです。
1	10桁のバーコードです。
2	5桁のバーコードです。

▼ Styleが9の場合

SubStyle	説明
0	FIM-A形式です。
1	FIM-B形式です。
2	FIM-C形式です。

Memo ActiveXとセキュリティ

ActiveXコントロールは、他人が作成したコントロールを実行する仕組みです。ですから、セキュリティの危険があります。ウイルスなど悪意のあるプログラムが仕込まれているActiveXコントロールを配置して実行してしまう恐れがあるのです。

ActiveXコントロールを使う場合には、そのコントロールの作成者が信用できる人かどうかをまず確認しましょう。

Microsoft社や、大手のソフトウェア会社が作成したActiveXコントロールなら信用できますが、フリーで配布されているActiveXコントロールを使う場合には、配布先が信用できるかどうかを調べる必要があります。

フリーで配布されている場合でも、ほとんどの場合は善意で行われていますので、「フリーで配布されているから危ない」という固定観念もよくありません。そのコントロールがどのくらい使われているか、配布先が身元を明かしているか、などを総合的に考えて判断するようにします。

10
フォームや
レポートの設計

11
アプリを
作成する

12
テンプレート
の使用

13
データベース
作成の手順

資料
Appendix

索引
Index

Chapter 10

質問と回答

Q & A



question

デザインビューはどれも難しそうなのですが。

まずはレイアウトビューでフォームやレポートを作成して、そこではどうしても実現できない設定をデザインビューでするようにしましょう。



answer

レイアウトビューを使うと、フィールドリストからフォームにフィールドをドラッグするだけでフォームを作成することができます。それに対して、デザインビューでは、多くの場合プロパティを直接編集する必要が出てきます。デザインビューを使いこなすのはなかなか難しいのが現実です。

Access 2003以前では、レイアウトビューが存在しなかったため、フォームを作成するには、このデザインビューを使いこなさなくてはなりません。そのため、以前のバージョンのAccessに慣れている人は、かえってレイアウトビューよりデザインビューの方が使いやすいと感じるかもしれません。

特にどちらが良い、悪いという問題はありません。好みに合わせて、使いやすい方を使えばよいでしょう。レイアウトビューの方が簡単だと感じるなら、主にレイアウトビューでフォームやレポートを設計し、レイアウトビューでは不可能な作業、例えばActiveXコントロールの追加やプロパティの変更をしたいときだけデザインビューに切り替えればよいでしょう。

逆に、デザインビューの方が慣れていてわかりやすいと思うなら、デザインビューでコントロールを追加して、大きさなどの微調整をレイアウトビューで実行すればよいでしょう。



question

ActiveXとは何ですか？

ソフトウェアを部品化して、他のソフトウェアに組み込むための仕組みです。



answer

ActiveXとは、ソフトウェアを部品化するための仕組みです。ActiveXは非常に幅広い技術ですが、Accessでは、主にフォームに貼り付けるためのActiveXコントロールとして使います。

ActiveXを使うと、自分でコントロールを作成し、システムに登録することができます。そして、それをAccessなどの他のプログラムで使うことができます。Accessに組み込まれているテキストボックスやコンボボックスなどと同様に、自分で作ったコントロールをフォームやレポートに貼り付けることができるのです。

ActiveXコントロールを自分で作るには、非常に高度な技術が必要になりますが、ActiveXコントロールの中には、市販されているものや、アプリケーションに付属して用意されているものもあります。ActiveXコントロールのリストの中に、Adobe PDF Readerのコントロールや、QuickTimeのコントロールがあったという人も多いのではないのでしょうか。こうしたコントロールを貼り付けることで、Adobe PDF ReaderやQuickTimeをフォームに埋め込むことができます。

実現したい機能が、いままで説明したAccessのフォームやレポートの機能では実現できない場合、ActiveXコントロールの助けを借りることを考えます。例えば、「ActiveXコントロールを配置する」の例で挙げたバーコードコントロールなどが良い例です。

10

フォームやレポートの設計

11

アプリを作成する

12

テンプレートの使用

13

データベース作成の手順

資料
Appendix索引
Index